

平成12年度

岩手県農業研究センター 年報

平成13年9月

目 次

農業研究センターの概要

1	組織機構・職員数	1
2	会議、委員会、部会等の運営	2
(1)	農業試験研究推進会議等の開催	2
ア	課題編成	2
イ	成果検討	4
ウ	設計会議	5
(2)	企画運営会議、全体会議の概要	6
(3)	委員会等の運営	8
ア	ほ場管理委員会	8
イ	研究報告等企画編集委員会	8
ウ	参観デー等企画運営委員会	8
エ	特許審査委員会	9
オ	農作物病害虫・雑草防除基準編成所内検討会	9
カ	特定課題検討委員会	10
(4)	その他会議	10
ア	全国農業関係試験研究場所長会議	10
イ	都道府県農業関係試験研究場所長会議	10
ウ	岩手県試験研究機関所長等会議	10
エ	東北農業試験研究推進会議	11
オ	県内における開催学会	11

試験研究の推進

1	研究活動の概要	12
2	研究室の動き	12
(1)	企画経営情報部	12
(2)	農産部	13
(3)	園芸畑作部	14
(4)	生産環境部	16
(5)	畜産研究所	17
(6)	県北農業研究所	19
3	平成12年度試験研究課題	20
(1)	細目課題分類	20
(2)	試験研究課題一覧	21
(3)	要望課題の実施	52
4	共同研究の推進	57
(1)	地域基幹農業技術体系化促進研究	57
(2)	先端技術等地域実用化研究促進事業	57
(3)	21世紀型農業経営モデル実証試験	58
(4)	岩手県生物工学研究所との共同研究	59
(5)	大学との共同研究	59
(6)	A F R研究会	59
5	研究レビュー	60
6	現地試験の実施	61

試験研究の成果

1	試験研究成果	64
(1)	普及に移しうる成果	64
(2)	技術指導に参考となる成果	65
(3)	行政施策等に反映すべき成果	66
(4)	研究開発に有効な成果	67
2	フォローアップ	68
3	東北農業試験研究成果	70

試験研究成果の発表

1	試験成績書等刊行物	71
2	学会等研究報告	72
3	雑誌等投稿	78
4	新聞等掲載	81
5	ラジオ放送等	87
6	指導資料等掲載	89
7	トライアングル	92
8	図書資料収集・提供	93
9	農業情報システム（ホームページ）	93
10	フラッシュ情報	93

指導・啓発活動

1	技術伝達研修等の実施	94
2	現地指導等への派遣	95
3	視察者、見学者の受け入れ状況	100
4	春期一般公開及び参観デー	100
5	現地ふれあい農業研究センター	100
6	一日子供農業研究員	100
7	加工体験	100
8	研修生の受け入れ	101
	(1) 海外研修員	101
	(2) 短期研修生	101
9	協議会、委員会等委員	102
10	外部講師等	109

職員研修

1	大学院	114
2	海外研修	114
3	国内派遣への研修	114
4	所内セミナー等への参加	115

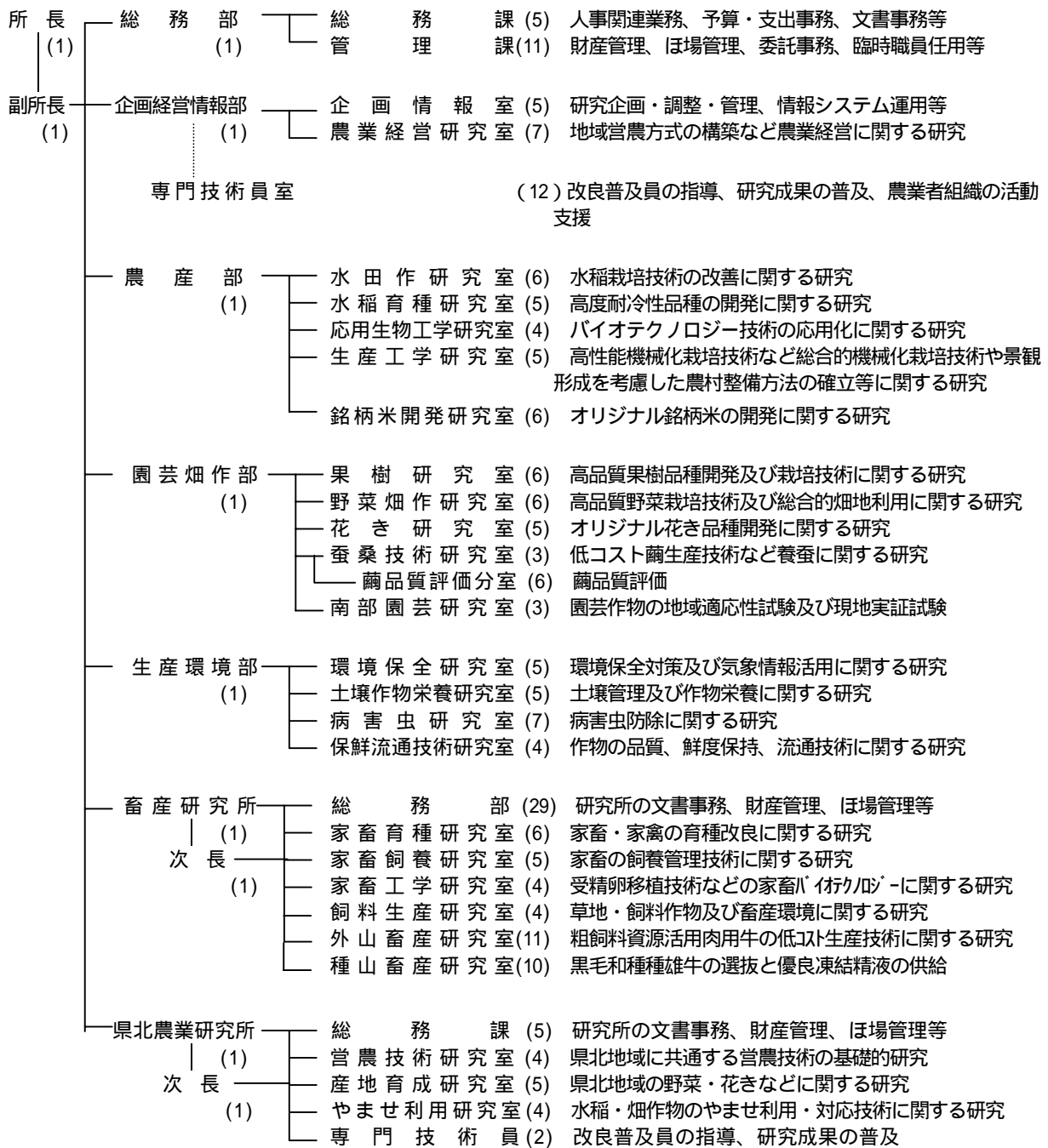
人事、予算、財産

1	農業研究センター予算	116
2	建物、用地	117
3	種苗登録、特許等	118
	(1) 種苗登録	118
	(2) 特許、実用新案	118
4	表彰	119
5	職員名簿	120

沿 革	123
-----	-----

I 農業研究センターの概要

1 組織機構・職員数（平成12年4月1日現在、兼務職員を含む）



	本部 (北上市)	銘柄米開発 研究室 (江刺市)	繭品質評価 分室 (盛岡市)	南部園芸 研究室 (陸前高田市)	畜産研究所 (滝沢村)	外山畜産 研究室 (玉山村)	種山畜産 研究室 (住田町)	県北農業 研究所 (軽米町)	合計
事務	11				4		1	2	18
技術	90	4	2	3	21	6	6	17	149
労務	7	2	4		25	5	5	3	51
合計	108	6	6	3	50	11	12	22	218

2 会議、委員会、部会等の運営

(1) 農業試験研究推進会議等の開催

ア 課題編成

(ア) 研究会議

企画経営情報部

開催日時 平成12年6月28日 13時～
参集範囲 農業研究センター職員
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成13年度に実施を予定する新規課題

農産部

開催日時 平成12年7月4日 10時～
参集範囲 農業研究センター職員
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成13年度に実施を予定する新規課題
・平成12年度試験研究成果

園芸畑作部

開催日時 平成12年7月6日 10時～
参集範囲 農業研究センター職員
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成13年度に実施を予定する新規課題

生産環境部

開催日時 平成12年6月29日 10時～
参集範囲 農業研究センター職員
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成13年度に実施を予定する新規課題

畜産研究所

開催日時 平成12年7月3日 9時～
参集範囲 農業研究センター職員
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成13年度に実施を予定する新規課題
・平成12年度試験研究成果

県北農業研究所

開催日時 平成12年6月27日 10時30分～
参集範囲 農業研究センター職員
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成13年度に実施を予定する新規課題

(イ) 専門部会

農産部会

開催日時 平成12年7月11日 10時～
参集範囲 岩手統計情報事務所、盛岡食糧事務所、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農産物改良
種苗センター、岩手県植物防疫協会、岩手県農薬卸商業協同組合、岩手県農地管理開発公社、
岩手県農業機械協会、岩手県酒造組合、岩手生物工学研究センター、岩手ブランド推進室、
農政企画課、農業普及技術課、農村計画課、農村建設課、農産園芸課、工業技術センター、
病虫害防除所、農業大学校、農業研究センター
協議事項 ・要望課題に対する措置
・平成13年度に実施を予定する新規課題
・平成12年度試験研究成果

園芸畑作部会

開催日時 平成12年7月13日 10時～

参集範囲 岩手統計情報事務所、果樹試験場リング支場、野菜・茶業試験場（盛岡）、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県果樹協会、岩手生物工学研究センター、農業普及技術課、農産園芸課、工業技術センター、病害虫防除所、農業大学校、花きセンター、農業研究センター

協議事項
・要望課題に対する措置
・平成13年度に実施を予定する新規課題

畜産部会

開催日時 平成12年7月17日 13時～

参集範囲 東北農業試験場、岩手統計情報事務所、家畜改良センター岩手牧場、家畜改良事業団盛岡種雄牛センター、岩手県畜産会、小岩井農牧技術研究センター、指導農業士、農業普及技術課、農産園芸課、畜産課、農産物流通課、盛岡家畜保健衛生所、農業大学校、農業研究センター

協議事項
・要望課題に対する措置
・平成13年度に実施を予定する新規課題
・平成12年度試験研究成果

総合部会

開催日時 平成12年7月14日 10時～

参集範囲 岩手統計情報事務所、岩手県農業会議、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県植物防疫協会、岩手県農薬卸商業協同組合、農地管理開発公社、岩手生物工学研究センター、岩手ブランド推進室、農政企画課、地域農業振興課、農業普及技術課、農産園芸課、農産物流通課、工業技術センター、病害虫防除所、農業大学校、農業研究センター

協議事項
・要望課題に対する措置
・平成13年度に実施を予定する新規課題
・平成12年度試験研究成果

(ウ) 調整会議

開催日時 平成12年8月29日 13時30分～

参集範囲 農政企画課長補佐（農政企画）、地域農業振興課長補佐（地域農政、構造改善）、農業普及技術課長補佐（研究環境）、農村計画課長補佐（土地改良計画）、農村建設課長補佐（整備換地）、農業経済課長補佐（金融共済）、農産園芸課長補佐（農産、園芸）、畜産課長補佐（振興）、農産物流通課長補佐（企画マーケティング、農産物流通）、岩手生物工学研究センター研究部長、農業大学校教授、盛岡農業改良普及センター次長、農業研究センター職員

協議事項
・平成13年度試験研究課題の選定について
・平成12年度試験研究成果について
・平成12年度試験研究進捗状況等について

(I) 推進会議

開催日時 平成12年9月20日 10時～

参集範囲 農政部長、農政部次長、農政企画課長、地域農業振興課長、農業普及技術課長、農村計画課長、総合国営対策監、農村建設課長、農業経済課長、農産園芸課長、畜産課長、農産物流通課長、生物工学研究所長、農業大学校副校長、盛岡農業改良普及センター所長、農業研究センター職員

協議事項
・試験研究を要望された課題の措置及び平成13年度実施予定新規課題について
・平成12年度試験研究成果について
・平成12年度試験研究推進状況について

イ 成果検討

(7) 研究会議

水稲分野

開催日時 平成12年12月11日 9時～

園芸分野(果樹、花き)、総合分野

開催日時 平成12年12月14日 9時～

園芸分野(畑作、養蚕、野菜)

開催日時 平成12年12月15日 9時～

畜産分野

開催日時 平成12年12月8日 9時～

～ の参集範囲、協議事項

参集範囲 農業研究センター職員、県庁農政部担当課担当職員

協議事項 ・平成12年度試験研究成果
・平成13年度新規実施予定課題

(4) 専門部会

水稲、総合分野(経営、生産環境)

開催日時 平成13年1月9日 9時30分～

参集範囲 東北農業試験場、岩手統計情報事務所、盛岡食糧事務所、岩手県農業会議、岩手県農協中央会、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県植物防疫協会、岩手県食品産業協議会、岩手県農地管理開発公社、岩手県農業機械協会、岩手県農業機械商業協同組合、岩手県農薬卸商業協同組合、岩手県酒造組合、岩手県食糧集荷事業協同組合、岩手生物工学研究センター、農政企画課、地域農業振興課、農業普及技術課、農村計画課、農村建設課、農産園芸課、農産物流通課、岩手ブランド推進室、工業技術センター、病害虫防除所、農業大学校、指導農業士、農業研究センター

協議事項 ・平成12年度試験研究成果 ・平成13年度新規実施予定課題

園芸(畑作、野菜、養蚕)分野

開催日時 平成13年1月10日 9時30分～

参集範囲 東北農業試験場、岩手統計情報事務所、野菜・茶業試験場(盛岡)、盛岡食糧事務所、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県植物防疫協会、岩手県農業機械協会、岩手県農業機械商業協同組合、岩手県農薬卸商業協同組合、岩手生物工学研究センター、農政企画課、農業普及技術課、農産園芸課、農産物流通課、岩手ブランド推進室、工業技術センター、病害虫防除所、農業大学校、指導農業士、農業研究センター

協議事項 ・平成12年度試験研究成果 ・平成13年度新規実施予定課題

園芸(果樹、花き)分野

開催日時 平成13年1月11日 9時30分～

参集範囲 岩手統計情報事務所、果樹試験場りんご支場、野菜・茶業試験場(盛岡)、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、岩手県農産物改良種苗センター、岩手県植物防疫協会、岩手県農業機械協会、岩手県農業機械商業協同組合、岩手県農薬卸商業協同組合、岩手県果樹協会、岩手生物工学研究センター、農政企画課、農業普及技術課、農産園芸課、農産物流通課、岩手ブランド推進室、工業技術センター、病害虫防除所、農業大学校、花きセンター、指導農業士、農業研究センター

協議事項 ・平成12年度試験研究成果 ・平成13年度新規実施予定課題

畜産部会
開催日時 平成13年 1月12日 9時30分～
参集範囲 東北農業試験場、岩手統計情報事務所、家畜改良センター岩手牧場、岩手県経済農業協同組合連合会、岩手県農業共済組合連合会、家畜改良事業団盛岡種雄牛センター、岩手県畜産会、岩手県肉牛生産公社、小岩井農牧、指導農業士、農政企画課、農業普及技術課、農産園芸課、農産物流通課、畜産課、岩手ブランド推進室、盛岡家畜保健衛生所、農業大学校、指導農業士、農業研究センター
協議事項 ・平成12年度試験研究成果

(ウ) 調整会議

開催日時 平成13年 1月26日 10時～
参集範囲 農政企画課長補佐(農政企画)、地域農業振興課長補佐(地域農政、構造改善)、農業普及技術課長補佐(普及、研究環境)、農村計画課長補佐(土地改良計画)、農村建設課長補佐(整備換地)、農業経済課長補佐(金融共済)、農産園芸課長補佐(農産、園芸)、畜産課長補佐(畜政)、農産物流通課長補佐(企画マーケティング、農産物流通)、岩手生物工学研究センター研究部長、農業大学校教授、盛岡農業改良普及センター技術普及課長、農業研究センター職員
協議事項 ・平成12年度試験研究成果
・平成13年度実施予定新規課題

(I) 推進会議

開催日時 平成13年 2月7日 14時30分～
参集範囲 農政部長、農政部次長、農政企画課長、地域農業振興課長、農業普及技術課長、農村計画課長、総合国営対策監、農村建設課長、農業経済課長、農産園芸課長、畜産課長、農産物流通課長、生物工学研究所長、農業大学校長、盛岡農業改良普及センター所長、農業研究センター職員
協議事項 ・農業研究センターの試験研究推進について
・試験研究成果と試験研究計画について

ウ 設計会議

(ア) 企画経営情報部

開催日時 平成13年 3月14日 9時30分～
参集範囲 部内職員、県庁関係課
協議事項 ・平成13年度試験設計検討

(イ) 農産部

開催日時 平成13年 3月7日 9時30分～
参集範囲 部内職員、県庁関係課
協議事項 ・平成13年度試験設計検討

(ウ) 園芸畑作部

開催日時 平成13年 3月8日 9時30分～
参集範囲 部内職員、県庁関係課
協議事項 ・平成13年度試験設計検討

(I) 生産環境部

開催日時 平成13年 3月6日 9時30分～
参集範囲 部内職員、県庁関係課
協議事項 ・平成13年度試験設計検討

(オ) 畜産研究所

開催日時 平成13年 3月12日 9時30分～
参集範囲 本部・研究所内職員、県庁関係課
協議事項 ・平成13年度試験設計検討

(カ) 県北農業研究所

開催日時 平成13年 3月5日 10時30分～
参集範囲 本部・研究所内職員、県庁関係課
協議事項 ・平成13年度試験設計検討

(2) 企画運営会議、全体会議の概要

開催月日	場 所	内 容
12. 4. 5	特別会議室	(第 1 回企画運営会議) (1)平成 12 年度職員・組織について (2)平成 12 年度業務運営について (3)平成 12 年度業務推進方針について (4)平成 12 年度試験研究予算について (5)平成 12 年度主要行事計画について (6)4・5 月の主要行事内容について
12. 4.17	大会議室	(全体会議) (1)平成 12 年度農業研究センター運営方針について (2)新しい農業試験研究推進構想について (3)平成 12 年度各部・研究所の試験研究等推進方針について (4)研究推進に係る情報交換 ・特許等の意義と申請手続きについて ・工業技術センターにおける研究評価について (5)農政部長講話
12. 4.27	特別会議室	(第 2 回企画運営会議) (1)平成 13 年度組織・定数要求について (2)農業試験研究推進会議の見直しについて (3)現地ふれあい農業研究センターについて (4)参観デーについて (5)連絡事項 ・知事業務説明における意見交換の概要 ・インターンシップ・体験学習講座について
12. 5.29	特別会議室	(第 3 回企画運営会議) (1)試験研究推進会議等の持ち方について (2)特定課題調査検討について (3)所長調整費について (4)研究レビューについて (5)子供一日研究員について (6)ISO14001 認証取得について
12. 6.26	特別会議室	(第 4 回企画運営会議) (1)特定課題調査について (2)所長調整費について (3)高生産性農業新技術開発促進研究費に係る備品購入について (4)参観デーについて (5)その他 ・ JICA 地方枠専門家派遣について ・ 試験研究会議等日程について ・ 圃場利用計画について ・ 6 月議会日程について ・ 研究予算等について
12. 7.31	特別会議室	(第 5 回企画運営会議) (1)試験研究推進会議(調整会議)について (2)予算 9 月補正について (3)参観デーについて (4)特定課題プロジェクトについて
12. 8.28	特別会議室	(第 6 回企画運営会議) (1)試験研究推進会議について (2)予算について (3)参観デーについて (4)収入・支出事務点検について

開催月日	場 所	内 容
12. 9.25	種山畜産研究室	(第 7 回企画運営会議) (1)種子・種苗等の生産管理について (2)試験研究推進会議の集約について (3)試験研究推進委員会について (4)下半期の主な行事について
12.10.30	特別会議室	(第 8 回企画運営会議) (1)農作物病害虫・雑草防除基準の作成について (2)試験研究会議等の持ち方について (3)現地ふれあい農業研究センターについて (4)21 世紀型農業経営モデル実証試験について (5)平成 13 年度当初予算要求概要について (6)平成 12 年度研究成果フォローアップ調査結果について
12.12. 4	特別会議室	(第 9 回企画運営会議) (1)県北農業研究所現地実証研究概要について (2)試験研究推進会議等の持ち方について (3)平成 13 年度当初予算要求等概要について (4)現地ふれあい農業研究センターについて
12.12.25	葛巻町	(第 10 回企画運営会議) (1)東北農業試験研究推進会議本会議への対応について (2)試験研究推進会議等の持ち方について (3)研究レビューについて (4)研究成果発表会について (5)行政組織の再編に伴う検討事項について (6)県単備品について (7)ISO 認証取得事務推進状況について
13 1.31	特別会議室	(第 11 回企画運営会議) (1)試験研究推進会議について (2)平成 13 年度当初予算について (3)平成 12 年度試験設計会議について (4)平成 13 年度海外技術研修員等受入要請について
13 2.26	特別会議室	(第 12 回企画運営会議) (1)研究推進会議(成果検討)の結果について (2)研究レビューの委員アンケートについて (3)平成 12 年度 2 月補正について (4)研究表彰制度の見直しについて (5)平成 13 年度春期一般公開について (6)平成 13 年度トライアングル発行について (7)要覧改訂について (8)研究予算・課題編成等の今後の予定
13 3.21	特別会議室	(第 13 回企画運営会議) (1)平成 12 年度レビュー結果について (2)平成 12 年度主要成果について (3)平成 13 年度職員・組織について (4)平成 13 年度試験研究予算について (5)平成 13 年度試験研究実施課題について (6)平成 13 年度行事計画について

(3) 委員会等の運営

ア 圃場管理委員会

開催月日	場 所	内 容
12. 4. 18	研修室	(1) 農管公社への作業委託業務の確認と変更等について (2) 平成12年度圃場利用計画について (3) 技能員の配置と運営体制について (4) 作物残滓と堆肥場の利用法について (5) その他
12. 6. 20	研修室	(1) 研究センター残滓処理方法について (2) 堆肥利用計画等について (3) 圃場試験内容の表示について (4) その他

イ 研究報告等企画編集委員会

(1) 編集委員会

開催月日	場 所	内 容
12.11. 6	特別会議室	(1) 平成12年度(第1号)の発行計画について (2) 今後の日程について
13. 2. 26	特別会議室	(1) 第2号の審査について (2) 今後の日程について

(2) 幹事会

開催月日	場 所	内 容
12.10.11	特別会議室	(1) 平成12年度(第1号)の発行計画について (2) 今後の日程について
13. 1. 25	研修室	(1) 平成12年度の発行について (2) 投稿期間の見直しについて (3) 今後の日程について
13. 2. 22	研修室	(1) 第2号の審査について (2) 今後の日程について

ウ 参観デー等企画運営委員会

(1) 委員会

開催月日	場 所	内 容
12. 6. 26	特別会議室	(1) 畜産研究所参観デー及び第55回岩手県全国農業機械実演展示会協賛行事の農研センター本部の対応について
12. 7. 31	特別会議室	(1) 岩手県農業研究センター参観デーのイベント内容について (2) 本部参観デーの共通準備・撤去作業のスケジュールについて
12. 8. 28	特別会議室	(1) 本部参観デーマニュアルについて (2) 県北農業研究所参観デーの農研センター本部の対応について
13. 3. 21	特別会議室	(1) 春期一般公開開催要領について (2) 春期一般公開“試験研究成果展示”用のパネル作成について (3) 平成13年度現地ふれあい農業研究センター開催について (4) 平成13年度参観デー開催日について

(2) 幹事会

開催月日	場 所	内 容
12. 5.26	中会議室	(1) 平成12年度岩手県農業研究センター本部運営体制について (2) 本部参観デー場内配置について (3) 本部参観デー運営マニュアル作成について (4) 今後の日程について
12. 7.19	中会議室	(1) 本部参観デー実施計画について (2) 協賛会について (3) 全国りんご大会の対応について (4) 畜産研究所参観デー（岩手県全国機械実演展示会）の対応について
13. 3.13	研修室	(1) 平成13年度春期一般公開について (2) 平成13年度参観デーについて (3) 現地ふれあい農業研究センター（水沢）について

エ 特許審査委員会

開催月日	場 所	内 容
12. 5. 9	（書面協議）	(1) えだまめ（大豆）品種「滝系C8」及び「滝系C11」についての勤務発明審査

オ 農作物病害虫・雑草防除基準編成所内検討会

開催月日	場 所	内 容
12.10.26	中会議室	病害虫部会 (1) 要望事項に対する検討結果について (2) 病害虫防除基準の改定案について 水稻 飼料・牧草 畑作物 野菜・花き
12.10.27	小会議室	果樹
12.10.27	中会議室	雑草防除・成長調整剤部会 (1) 要望事項に対する検討結果について (2) 雑草防除基準・成長調整剤使用基準の改訂内容について 水稻 畑作 飼料・牧草 野菜・花き 果樹・桑
12.11.13	中会議室	農作物病害虫・雑草防除基準編成会議 ・農薬安全使用分科会 (1) 農薬の安全使用指針原案について ・病害虫分科会 (1) 病害虫・鳥獣害防除基準原案について ・雑草分科会
～ 11.14	小会議室	(1) 雑草防除基準原案及び成長調整剤の使用基準原案について

カ 特定課題検討会

開催月日	場 所	内 容
12. 9. 5	(書面協議)	新規チーム編成 (1)プロジェクト第9チーム 「情報技術(IT)を利用した営農支援システムの確立に関する検討」 (2)プロジェクト第10チーム 「家畜糞尿の効率的循環方式の開発に関する検討」
12.11. 6	中会議室	第1回特定課題検討会 ・調査計画及び中間検討について
12.11.27	中会議室	第2回特定課題検討会 ・調査検討の成果と今後の取り組み方向について
13. 1. 9	(書面協議)	報告書作成 (1)プロジェクト第9チーム 「情報技術(IT)を利用した営農支援システムの確立に関する検討」 (2)プロジェクト第10チーム 「家畜糞尿の効率的循環方式の開発に関する検討」

(4) その他会議

ア 全国農業関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
12. 6. 5	東京都	(1) 平成11年度事業及び決算報告 (2) 新規加入会員承認 (3) 役員選出 (4) 平成12年度事業及び予算計画 (5) 平成12年度並びに13年度の現地検討会
12. 9.12 ～ 9.14	静岡県 愛知県 岐阜県	現地検討会 (1) 最近の農業をめぐる情勢

イ 都道府県農業関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
12. 6. 6	東京都	(1) 試験研究をめぐる最近の動向について (2) 新基本法に基づく農政の展開について (3) 関係各局の最近の動向について (4) 農林水産技術会議事務局の最近の動向について
12. 6.29 ～ 6.30	福島県	東北地域農業関係試験研究場所長会議 (1) 各県における試験研究推進構想策定状況について (2) 平成12年度の主要研究課題について

ウ 岩手県試験研究機関所長等会議

開催月日	場 所	内 容
12. 8. 2	エスポワール いわて	(1)共同研究の推進について (2)その他
13. 2.26	サンセール盛岡	(1)平成13年度における主な行事予定について (2)環境保険センター(仮称)の概要について (3)農業研究センターの組織改編について (4)情報科学課からの情報提供について

エ 東北農業試験研究推進会議

開催月日	場 所	内 容
13. 1.26	東北農試	(1)今後の東北地域における試験研究の連携分担のあるべき姿

オ 県内における開催学会

開催月日	場 所	学 会 名 ・ 内 容
12. 8. 7	岩手県農業 研究センター	日本土壌肥料学会東北支部
12. 8.23	岩手県農業 研究センター	日本園芸学会東北支部
12.10. 5 ~ 10. 8	岩手大学	日本農業経営学会

II 試験研究の推進

1 研究活動の概要

本センターでは「岩手県農業試験研究推進構想」（平成12年3月策定。以下「推進構想」という。）に基づき、
バイオテクノロジー等を利用した商品性の高い独自品種の開発や胚移植技術等を利用した家畜改良
国際化に対応できる超省力、低コスト生産技術の開発
自動化、システム化等先端技術を利用した革新的生産技術の開発
環境保全に配慮し、生態系を活用した持続型生産管理技術体系の確立
地域特性を生かしたオリジナルな農畜産物の加工・流通技術の開発と販売手法の確立
中山間地域の資源を生かした地域活性化手法の開発
農村地域の多面的機能に配慮した農業農村基盤の整備、管理技術の開発
栽培・飼養、経営、販売等各種管理システムを取り入れた新しい「総合農業情報システム」の確立

など、本県の立地特性を生かしながら、新たな国際環境に対応し、持続的な展開が可能となる本県の農業を構築するため、時代を先取りした試験研究を進めることとしている。

農業試験研究機関の統合再編から4年目を迎え、農業者が希望を持って意欲的に取り組める農業の実現に向けた新しい技術やシステムの開発とその早期普及が強く求められている。このことを自覚して、平成12年度は「試験研究の取り組みが効率的に推進のためのシステムの構築」、「オリジナリティーを発揮できるような研究環境の整備」、「現地を重視し、現地との関わりの一層の深化」を図ることを重点に試験研究の推進を目指した。

2 研究室の動き

(1) 企画経営情報部

企画情報室

研究に係る企画調整（所内組織間連絡調整、関係機関連絡調整、試験研究課題調整等）、センターに関する広報及び情報システムの整備、充実を図った。

企画調整にあっては、所内諸会議（企画運営会議、全体会議等）や委員会（研究報告等企画編集委員会等）等の運営、関係機関（国、県及び関係団体）との連絡調整（推進会議等）を行うとともに、これらを含む所内の研究推進体制の定着化を図った。本年度は新たに試験研究課題のデータベース化を進めるとともに、研究成果を広く外部に公表するために「岩手県農業研究センター研究報告第1号」及び「岩手県農業研究センター研究要報第1号」を発刊した。また、研究会議及び試験研究推進会議専門部会等会議の運営方法を見直し、その効率化を図った。

広報関係では、広報誌「トライアングル」の発刊、参観デー（本部・畜産・県北）、現地ふれあい農業研究センター（二戸、大船渡、遠野地方振興局管内）、科学技術週間行事としての春季一般公開、子供一日農業研究員の開催及び「研究レポート」の発行等に取り組んだ。また、公開セミナーは「遺伝子組換え食品をめぐる最近の動向と課題」（食品総合研究所 日野明寛氏）、「ウシゲノム解析とこれからの畜産」（畜産技術協会 杉本喜慶氏）、「試験研究成果のデータベース化と情報提供」（東北農業試験場 田中忠一氏）を本センター及び畜産研究所を会場に実施した。

農業経営研究室

農業経営の改善方策、担い手の育成方策、中山間地域活性化、県産農産物の販売戦略及び開発技術の経営評価等に関する研究を実施している。

農業経営の改善方策では、畜産研究所に導入されている搾乳ロボットをモデルとしてその導入条件を提示した。地域農業の視点からは圃場整備地区における意向調査や生産組織の調査から今後の畦畔、法面の管理方策のあり方、組織的な営農確立の方向性をまとめるとともに、農業構造改善事業実施地区の事業効果調査を行い、それぞれの地区の農業再編のあり方を提言した。

担い手の育成方策では青年農業者の就農要因調査を行い経営確立に必要な支援方策を提示した。

中山間地域活性化に関する研究では、県北地域の雑穀び花木の栽培や流通状況を調査し、今後の栽培技術開発に向けた基礎資料とした。また、グリーン・ツーリズム推進に向けて情報検索システムを作成し、提示した。

農産物の販売戦略に関する研究では、本県のピーマン、キャベツ、ほうれんそうについて、関東地域の中央卸売市場における本県産の位置づけを明らかにするとともに、花小売店の調査からスプレーギクの仕入れ時の選考基準やアレンジメントフラワーで利用されやすい花の種類を明らかにした。

(2) 農産部

水田作研究室

水稲の品種選定、直播を中心とした省力・低コスト栽培技術確立、作柄解析、高品質・良食味米の安定生産技術確立研究及び水稲原種・原々種の生産業務に取り組んでいる。

奨励品種決定調査では、「たかねみのり」熟期の早生良質良食味「岩南16号」を奨励品種に編入するとともに、予備調査においてうち5系統を有望と認め、新たに現地調査に供することとした。

省力・低コスト技術として期待される直播技術については、代かき土中点播栽培の出芽・苗立ち、水管理、適用除草剤について検討し、その成果を「21世紀型岩手県直播栽培指針」（岩手県）作成に反映した。また、移植栽培における効果の高い水稲除草剤5剤（初期剤1、初期一発処理剤2剤、初・中期一発剤2剤）を選定し防除基準に採用した。

安定生産技術を確立するため、平成12年産米の作柄成立要因（作況指数106、一等米比率全国2位）を解析するとともに、産米の品質評価向上技術として、玄米白度に関与する要因について取りまとめた。

水稲原々種は1品種30kg、原種はうるち7品種24,620kg、酒造好適米2品種674kg、もち2品種2,920kgを生産した。また、ヒメノモチの発芽不良問題に対応し、種子の浸種条件（水温・浸種期間）について検討し、水温12～15 浸種期間10日が最適であることを再確認した。

水稲育種研究室

北上川上流、北部、沿岸地帯に適應する「あきたこまち」に優る良食味、良品質、耐冷性品種の開発に重点を置き、また冷害克服のため高度耐冷性品種・系統、低温下においても登熟性に優れる品種・系統の育成開発及び、低コスト米生産のための直播適応性品種・系統、あるいは醸造用米等新規需要対応品種・系統育成・開発にも取り組んでいる。

各種特性検定試験や生産力検定試験の結果、次の主食用の3系統に地方番号を付し、平成13年度の奨励品種決定調査用の新配布系統とした。

岩手61号：東北151号/コガネヒカリ

- 早生、良食味、いもち耐病性 -

岩手62号：東北152号,まなむすめ/コガネヒカリ

- 晩生、多収、いもち耐病性、耐冷性 -

岩手63号：越南149号,あこがれ/ひとめぼれ

- 晩生、良食味、良質、いもち耐病性 -

次の糯米系統に地方番号を付し、平成13年度の新配布系統とした。

岩手糯64号：ヒデコモチ/トドロキワセ

- 中生、良質、良もち質、多収

直播適応性のある品種育成のため、直播による生産力検定試験を実施したが、苗立ち性、耐倒伏性等が不十分であり、地方番号付系統は選抜できなかった。

応用生物工学研究室

えぞりんどう採種用親系統の主要6系統で低温培養することにより越冬芽を形成させることができ、培養による維持法が確立した。また、北海道系、千沼ヶ原系、矢巾系及び磐梯系を茎頂培養法により作出した幼植物の葉片を培養して、高頻度で不定芽誘導することができるようになり、増殖法の目途が立った。

りんごの有望な品種と台木に遺伝子を導入するために、無菌植物の作出と再分化系技術に取り組み、「きおう」と「玉林」でその技術を確立した。

トマト及びピーマンの萎ちょう性病害の診断において、生工研セで開発した抗体を用いたTPIは青枯病菌の簡易・迅速な検出法であることを明らかにした。

スターチス・シヌアータの栄養系品種の増殖法については、増殖苗の発根法の改良を重点的に検討した。さらに、ウイルス病の発生実態を調査して、病原はCMV、CYVV、BBWV、TuMVであること、病徴や発生状況を明らかにした。また、トルコギキョウに壊滅的な被害を与えるウイルスはCMVであり、アルミ蒸着マルチが防除に有効であることを明らかにした。

生産工学研究室

水稲の省力低コスト研究として、水耕ロングマット育苗・移植技術について平成11年度より地域基幹研究として農水省農業研究センターを中心に茨城、長野、埼玉の農業試験研究機関と共同で取り組んできたが、本年度は水耕苗の寒冷地育苗法について研究成果としてとりまとめた。また、北上市及び石鳥谷町の農家で本田での現地実証試験を実施した。

省力低コスト研究のもう一つの柱である直播研究については、打ち込み式直播機の播種量や作業速度の試験を昨年に引き続いて行った。直播の試験では、そのほかにラジコンヘリによる散播及び地下かんがい施設を利用した乾田直播についても試験を実施した。

近年、大区画圃場整備の進展に伴い、圃場の効率的な均平方法が課題となっており、レーザー光を利用した耕盤及び表層の均平機について平成9年度より取り組んでおり、昨年度はその能率や精度等についてとりまとめたが、本年度は圃場の均平測定を簡略化するため、パソコンと自動追尾型光波測距儀を用いた自動計測システムについて、成果としてとりまとめた。

生研機構ではUR対策として自動水管理システムを開発しているが、本研究センター大区画圃場において、その実証試験を行っており、水位計の精度検討、無線通信システムによるデータの収集と遠隔操作システム用ソフトの検証等について取り組んだ。また、水管理の省力化や工事費の低減をねらいとした超低圧パイプラインシステムについて千厩町奥玉地区で、平成10年度から実証試験を実施してきたが、その成績を研究成果としてとりまとめた。

野菜作の機械化に関しては、ダイコン収穫機について労働負荷等を加味した性能調査をとりまとめ研究成果とした。また農作業における労働負荷の簡易な測定法について研究成果をとりまとめた。

銘柄米開発研究室

水稲品種開発に関わる試験研究は、環境に負荷の少ない良質・良食味・耐病性安定生産品種及び直播栽培技術に適応した品種の開発、需要に対応した地域適応性の高い品種の選定を目標として実施した。また、栽培技術に関わる研究は、栽培条件に対応した高品質・良食味米生産技術の開発と、糯米及び酒米の高品質安定生産技術の確立を目標として実施した。

品種育成に関しては、15組合せの交配、世代養成、個体・系統選抜を行い、系統群では新規系統（予検から本検）15系統を選抜した。特性検定調査では、いもち病真性抵抗性、葉いもち圃場抵抗性、穂いもち圃場抵抗性、穂発芽性、食味官能試験、食味成分分析を実施し、生産力検定試験の結果から、粳の系統は、中生で良質・良食味・穂いもち病に強い「岩南27号」、晩生で耐冷性強・良食味の「岩南28号」、収量性が「コガネヒカリ」「ふくひびき」並からやや多収の「岩南29号」、糯の系統は、成熟期が晩生の中で多収・穂発芽性やや難で品質がヒメノモチ並の「岩南糯30号」を有望と認め、次年度の新配布系統とした。また、いもち病抵抗性極強系統育成試験において、「岩南23号」と「岩南25号」を穂いもち圃場抵抗性が強い系統と認め、研究成果としてとりまとめた。

栽培技術に関する試験では、県産米品質・食味向上要因の評価技術の課題の中で、玄米白度に関する要因を解析し他研究室との共同で成果とした。糯米の系統「岩南19号」について、切り餅用として食味の評価試験を実施した結果、「ヒメノモチ」並～やや優る評価が得られた。酒造好適米「吟ぎんが」の生育診断基準を策定し、施肥対応技術を明らかにした。また、低アミロ-ス系統「岩南24号」を用いて、既存の品種と混米した場合の食味特性について検討し研究成果としてまとめた。

(3) 園芸畑作物部

果樹研究室

果樹研究室では、りんごの栽培試験および品種改良を主体に、ぶどう、西洋なし、おうとうなどの樹種に係る試験を実施している。

りんごでは、新技術地域実用化研究促進事業により「リンゴわい化栽培における省力・安定生産のためのJM台木利用・早期成圃化技術の開発」試験を進めている。本年度はJM系台木の耐水性を明らかにした。更に、品種との組み合わせや台木の長さなど、利用に当たっての知見が得られつつある。また、本年度から、地域基幹農業技術体系実用化研究として、「新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感リンゴの生産技術」の研究に着手した。この課題は、外観至上から脱却した食味本位のリンゴ（葉取らずリンゴ、糖度保証リンゴ、蜜入りリンゴ、丸かじりリンゴ等）を省力的かつ安定的に生産し、栽培コストの低減を図るとともに、非破壊選果機を硬度に利用した品質評価技術により、手頃な価格で消費者が満足する果実を提供する技術を確立し、需要の拡大を図ろうとするものである。

品種改良では、「きおう」に続く岩手の地域特性を生かせる、早・中生種を主体とした交配に取り組んでおり、約14,000個体の中から選抜を進めている。本年度までに26系統を二次選抜に編入し、うち4系統を有望系統として特性検定を進めている。

ぶどうでは、消費動向に対応した寒冷地向きの生食用新品种「安芸クイーン」等の、安定高品質栽培技術の開発を現地試験を主体として実施し、花振るい防止法や着果基準など、安定生産のための技術をとりまとめた。

西洋なしでは、高品質生食用品種「ラ・フランス」を中心として、わい化栽培法および生産安定技術の確立に向けて試験を進めている。

野菜畑作研究室

野菜、畑作研究ともに規模拡大及び水田高度利用に対応した作目再編、新栽培方式の確立に取り組んでいる。野菜では、大規模の野菜専作経営構造を主眼に、果菜類を中心とした省力・軽労化・低コスト生産技術確立に関する試験に取り組んでいる。本年度はきゅうり・トマトの優良品種選定や品種特性把握及び本県育成の良食味えだまめ品種の長期継続出荷技術確立等に力点を置いた。

畑作物では、実需者ニーズに対応した高品質・安定生産技術及び超省力・低コスト生産技術体系の確立が求められており、麦緊急研究「低アミロース小麦系統『東北206号』の高品質安定栽培技術」及び地域基幹研究「不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力栽培技術の確立」を重点課題にして、引き続き取り組んだ。

本年度の成果としては、「普及」及び「指導」区分で、きゅうり「夏ばやし」の優良品種選定、中玉トマトの品種特性、えだまめ「滝系C8」の長期継続出荷技術、プレハブ冷蔵庫利用による種用さといもの安定貯蔵技術、そして小麦「東北206号」の優良品種選定の合計5つをとりまとめた。

花き研究室

花き研究室では、消費動向の変化に対応できる寒冷地型省力的花き生産技術を確立するため、りんどうをはじめとする花き主要品目のオリジナル品種の育成を図るとともに、気象条件を活用した新商材の開発や長期継続出荷できる生産技術の確立に取り組んでいる。

りんどうでは、極々早生系、ピンク系、ニュータイプ系の選抜を進めるとともに、栄養系鉢物りんどう「あおこりん」「ももこりん」の最終摘心時期について取りまとめた。また、定植直前の苗にジベレリンを散布することにより、株養成期間が短縮され、定植翌年から採花が可能となることを明らかにした。

小ぎくでは、スプレーギクとの交配により選抜していた有望6系統の中から、スプレー咲きの小ぎく「CM系」4品種を育成し、県の奨励品種とした。

トルコギキョウでは、春だし作型における品種と播種期について取りまとめたほか、トルコギキョウえそモザイク病の抑制にアルミ蒸着フィルムマルチの利用が有効であることを明らかにした。

オリエンタル系ゆりでは、プレルーティング処理を行った球根は、越冬後の二度切り栽培においても切り花品質、採花本数ともに優れることを明らかにした。

蚕桑技術研究室

新しい繭糸素材の開発、蚕病防除、蚕飼育技術の新利用、桑新品種の栽培に関する試験を実施している。

新しい繭糸素材の開発では、四眠蚕と三眠蚕（保存品種）4品種の交雑三眠蚕を用いた和・洋装高級織物向け細織度生系の生産について、蚕種生産～生糸製造までの一連の技術を組み立て、生産された生糸を用いた製品を試作した。また、農家が生産物の付加価値を高められるつむぎ生糸・座繰り生糸を用い、地場産品としての販売に適した製品を制作した。天蚕飼育については、微粒子病原体の最近の推移を調査し、無毒卵使用により感染が減少することを明らかにした。

蚕病防除関連では、新薬剤1剤（殺菌剤）の蚕に対する残留毒性試験、桑新品種の栽培では桑系統適応性検定試験（5系統）を実施した。

蚕飼育技術の新利用として、チョウセンアカシジミの食樹であるデワノトネリコの挿し木による増殖法を考案した。

これらのほか、繭品質評価分室では、岩手県繭品質評価実施要領に基づき、256件の品質評価を実施した。

南部園芸研究室

県南部や沿岸地域の恵まれた気象条件を活かした野菜花き園芸技術の開発研究とともに、特色ある園芸産地形成のための地域実証試験を実施している。

花きに対する試験では、トルコギキョウの短日処理を利用した秋出し作型で、葉枯れ症対策について引き続き検討した。スターチス・シヌアータでは、引き続き選抜個体の特性検定をおこなっている。秋出荷花壇苗高品質低コスト生産技術では、育苗床土への緩効性肥料を用いた適正施肥量を検討している。

野菜に関する試験では、引き続きいちごの短日処理を利用した秋出し作型の確立に向けた試験をおこなうとともに、省力化、高品質栽培技術の確立を目指して少量土壌培地耕によるいちごのベンチアップ栽培や、トマト栽培に取り組んでいる。また、本年度の成果として、挿し芽苗利用による雨よけトマト低段密植栽培法を取りまとめた。

(4) 生産環境部

環境保全研究室

農薬や化学肥料等に起因する環境負荷の低減技術の開発に取り組むとともに、環境保全型農業技術の総合組立、天敵・微生物等を活用した生態系活用型技術の開発、さらには、安全な農産物の生産技術の開発などに関する調査研究を行った。環境負荷低減技術の開発では、葉いもち予防剤の育苗箱施用について、本田期の水面施用に比較し成分の溶出が少なく、河川における薬剤成分の流出は検出されないレベルに低減することが確認された。また、環境保全型農業技術の総合組立では、イネいもち病の無防除栽培が可能となるのは、感染に好適な条件となる水滴保持時間の出現割合が相対的に低い気象条件の地域であり、その場合の施肥水準は、慣行施肥でよいことを明らかにした。なお、本年度から新たに、現地農家を対象にして、有機農産物の生産条件の解明に取り組むとともに、国の委託を受け電解機能水によるキュウリ病害の抑制効果について実証試験を開始した。

天敵・微生物等の活用技術については、ハウス栽培なばなのコナガ防除において、性フェロモン剤の使用回数は、なばなの収穫終期から逆算しておよそ4か月前の1回で十分であることを明らかにした。また、ハウレンソウ萎凋病の防除技術として、チェーンポット苗移植栽培が有効であり、さらに非病原性フザリウム菌を接種することで発病抑制効果が向上することを明らかにした。本年度から新たにキュウリにおける天敵を利用したアブラムシ類の総合防除試験を開始した。

土壌作物栄養研究室

農耕地土壌保全対策、生産環境情報利用技術、土壌蓄積養分有効利用、低投入高品質生産のための土壌・施肥管理技術、畜産由来資源等の肥料化・利用技術、作物の生育予測・栄養診断等に関する研究を実施した。

土壌保全の定点調査では県中北部の主要農耕地土壌の5巡目、25年目の土壌モニタリング調査を実施した。生産環境情報を利用した作物の生育適地評価はりんどう、大豆等で実施した。土壌蓄積養分のうち水田のpHについては昨年度の試験研究成果としたので今年度は引き続き窒素とカリについて継続検討した。低投入技術の肥効調節型肥料を用いたピーマンの施肥法では育苗時全量施肥と全量基肥1回施肥による減肥技術を試験研究成果（研究）とした。畜産由来資源は今年度特に重点とし、持続的農業技術開発普及事業で堆肥マップを作成するために普及センターの収集した堆肥の分析を開始した。今年度は盛岡、花巻、一関、千厩、大船渡、久慈、二戸、遠野の各普及センターより集められた家畜ふん堆肥約300点の成分分析と外観品質調査を実施し、データを普及センターに送付するとともに県全体の傾向をまとめて試験研究成果（指導）とした。レタスの高生産性土壌管理実証の課題でも鶏糞と豚糞の肥料効果を窒素発現パラメータで検討し、学会発表とした。作物の栄養診断技術では、採花年早生りんどうに対する石灰質資材施用効果を明らかにし、試験研究成果（指導）とした。

病害虫研究室

生物機能活用型病害虫制御技術として、数種害虫の性フェロモン成分からなる複合交信攪乱剤を利用したりんご主要害虫防除技術を、普及に移す成果として公表した。この技術により殺虫剤散布回数が削減可能となったため、機能性展着剤を利用した殺菌剤散布回数削減技術と組み合わせることにより、県内のりんご生産現場では大幅な農薬散布回数削減の可能性が高まった。

高品質・安定生産のための病害虫防除技術として、発生予察精度の向上や省力調査技術、新奇病害虫の発生生態、薬剤耐性（抵抗性）病害虫の診断と防除法、品種の耐病性検定および新農薬や無人ヘリコプターの実用化等について検討した。

これらの中から、新農薬による各種作物の病害虫防除、非病原性エルヴィニア菌製剤による野菜類軟腐病の生物防除法について、普及に移す成果とした。また、近年急速に普及拡大しているイネいもち病防除箱施用剤の持続期間、りんご殺菌剤散布回数削減技術の一環として各種殺菌剤に対する機能的展着剤の添加効果、近年県内広く発生が確認される病害の中から、ピーマン黄化えそ病の発生特徴と伝染源およびククわい化病の発生実態と対策について指導者向け技術として成果公表した。

なお、普及現場からの病害虫診断依頼は、県内での新奇病害虫の発生動向を把握する手段として位置付け対応している。その中で、りんご苗木生産における根頭がんしゅ病の病徴と診断法については、研究成果として情報提供するとともに、関係機関が協力して早急に対処が必要な課題として取り上げ、次年度から実施することとした。

また、8月から11月にかけて、JICAの海外研修員としてインドネシアから2名の研修生を受け入れ、主にBLASTAMによるいもち病予測システムと非病原性フザリウム菌によるキャベツ萎黄病の生物防除法について指導した。

保鮮流通技術研究室

農産物の品質評価技術、高鮮度流通技術及び地域特産加工食品開発の研究を実施した。

品質評価技術では、養液土耕栽培のトマトについて供給室素レベルと内部品質の関係を調査し、7月下旬の最盛期には、地床の養液栽培トマトのBrix糖度が慣行栽培に比べて高い傾向で、特に養液中の窒素が低～中濃度の場合に糖度が高かった。山菜類のポリフェノール含量を測定し、タケノコ(唐竹)に含まれるポリフェノールは加熱調理後も殆ど減少しないことを明らかにした。

高鮮度流通技術では、りんご早生品種「きおう」の短期貯蔵条件を整理し、MA包装段ボール箱及び冷温高湿庫を利用した高鮮度保持技術を普及に移した。晩生の蜜入りりんごの冷温高湿貯蔵についての検討を開始した。また、野菜の複数品目を同時に真空予冷処理すると品目によっては十分な冷却がなされないことを確認した。

地域特産加工食品開発では、浅漬用特産野菜「金芭蕉」の栽植密度と辛味成分の関係について検討し、辛味成分は密植により高まり収量や製品仕上がりを考慮すれば株間10cmが適当であることを明らかにし普及(指導)に移した。また、地域推奨品流通適正化調査では、県内産果実飲料の成分データを取りまとめ、ふるさと食品認証基準策定のための基礎資料として行政に提供した。雑穀の加工品開発のため、雑穀の膨化特性や膨化後の保存性を検討した。玄米外皮層を製パンに利用するため、製パン適性に優れた玄米外皮層加工処理技術を確立した。

(5) 畜産研究所

家畜育種研究室

本県の気候・風土に適し、高品質・低コスト生産が可能となる優良種畜の作出(造成)や家畜の改良速度を飛躍的に向上するシステム開発に取り組んでいる。

日本短角種の優良種雄牛の作出：直接検定の1日当たり増体量(DG)は1.43kg(選抜牛1.43kg)であり、15頭を選抜(選抜率50%)し肉質が優れた高福号を人工授精用基幹種雄牛に選抜した。

血統情報及び超音波利用による種畜評価技術の確立：日本短角種の改良速度の向上を図るため、枝肉情報、超音波測定値、血統等の各種情報を収集、分析し、簡易、正確な遺伝的産肉能力を評価する手法を解析中である。

優良種畜作出システムの確立：遺伝的能力の高い優良種畜を早期に作出するため、高能力牛由来の分割胚移植による一卵性双子を生産し、増体と肉質同時検定を実施中である。

ランドレース種の系統造成：従来の産肉性を中心とした選抜形質に加えて、肢蹄の強健性を取り入れた「飼いやすい」豚の系統を造成中であり、本年度は第7世代の選抜と第8世代生産のための計画交配を実施した。

高品質肉用鶏の作出：軍鶏×(有色コーニッシュ×岩手地鶏)により改良基礎群の作出を進めており、本年度は第4世代の生産と能力調査を実施した結果、16週令時の体重は目標とする軍鶏の体重を上回り、また改良基礎群を使ったコマースル鶏の発育も「南部かしわ」を上回り、改良は順調に推移している。

家畜飼養研究室

自然環境への配慮と飼料自給率向上を基本とした生産性の高いゆとりある酪農経営を構築するため、超省力管理施設及び資源循環型酪農の飼養管理技術の確立について取り組んでいる。

搾乳ロボットによる超省力管理技術として、搾乳ロボットへの牛路を終日制限無し、夜間時一方通行、終日一方通行に設定し自発的搾乳率を調査した結果、98%、99%、100%、搾乳回数は2.7回、3.0回、3.2回と向上し、ロボット導入初年度の通路制限無しの85%に比較し人為的補助が著しく減少した。

搾乳牛(泌乳中期・後期牛)の時間制限集約放牧では、放牧期間中における牧草の季節別生産量と栄養成分に対応した併給飼料給与(栄養成分調整飼料)により、高位な乳量及び乳成分が確保できることを明らかにした。

高能力牛群に適応した飼養管理技術では、分娩3週間前から給与する高エネルギー飼料を段階的に増加させながら個体別に給与することで、乳用牛に多発する周産期病(分娩前後に多発するケトーシス、第四胃変位等)の発生を予防できることを実証した。

高泌乳・高蛋白牛群造成技術では、当所飼養牛(泌乳10,000kg以上、乳蛋白質率3.4%以上)から得た受精卵により高能力牛の造成を進めている。

家畜工学研究室

牛の改良及び増殖速度を更に速めるために、胚生産技術では、供胚牛へ-加齢添加による卵巣機能及び胚の回収成績に及ぼす影響を検討している。経膈採卵技術では、採取後1時間以内に成熟培養を行うと発生率が高く、更に採取・検卵後IVMD成熟培養液をストロー充填することで3時間以内の輸送が可能となり採卵地域が拡大した。高泌乳牛の過剰排卵処理におけるFSH処理単位は、48単位で回収胚数及び正常胚数が向上した。性別別技術では、判別後の修復培養は、IVD101において生存率90%と高く、VSED溶媒としたガラス化凍結胚の移植で70%と高い受胎率が得られた。

核移植技術は、羊水中浮遊細胞の利用として、胎齢 80 日～100 日の範囲で、超音波診断装置を用い、経膣で穿刺することにより可能であった。体外培養系による再構築胚発生率は、血清添加共培養系に比し無血清非共培養系でやや低いものの血清添加の影響を受けず作出できる可能性が明らかとなった。再構築胚移植による受胎成績は、4/10 頭(40%)で内 2 頭は流産した。

牛の DNA 連鎖解析は、間接検定牛における共通祖先毎の解析で最も有意差が認められた領域は枝肉重量 27kg、脂肪交雑等級は 1.0 の差異が認められた。共進会に出品された肥育牛では、菊谷で枝肉重量 1ヶ所、北国 7 の 8 では、脂肪交雑 1ヶ所、枝肉重量 2ヶ所の領域に有意差が認められた。

飼料生産研究室

本県の畜産を安定的に推進するため、良質粗飼料の効率的な生産と圃場還元を目的とした家畜糞尿処理技術の開発のために試験に取り組んでいる。

とうもろこしの品種検定：草地試験場育成系統 1 系統、長野県中信農業試験場育成系統 3 系統、計 4 系統について検討した結果、標準品種に優れる系統は認められなかった。

市販とうもろこし品種では「35G86 (パイオニア 108 日)」が、中生種として耐病性、乾物収量、TDN 収量とも標準品種に比較し優れていることが認められ、推奨品種候補として提案した。

シバムギの飼料価値：シバムギは CP 含量が高く、生育ステージが進んでも栄養価の低下は比較的緩やかであり、嗜好性はオーチャードグラス 1 番草よりは劣るがオーチャードグラス 2 番草より優れていた。

簡易草地更新法：急傾斜や石礫の為、耕起更新が難しい荒廃草地における草地更新法の一つとして、簡易牧草追播機を使用する方法が効果的であることを明らかにした。

長大飼料作物のロールラップ作業体系：ソルガムの収穫作業を通常の牧草のロールラップ体系と同様の体系で実施することが可能であった。この体系を利用しライ麦との 2 年 3 作体系で年間の乾物収量増を図ることや、簡易牧草追播機を利用する栽培法も利用できる。

家畜ふん尿処理：ロックウール脱臭装置の高機能化と散水により生ずる排水の循環利用を検討した結果、夏期では外部排出量をゼロにできた。また、調査結果より循環利用下の RW 脱臭槽内の窒素収支が推定できた。

外山畜産研究室

本県では黒毛和種の低コスト生産の一貫として公共放牧地を活用した、繁殖、育成を推奨してきたところであるが、従来の放牧方式では子牛の日増体量 (DG) 0.7kg 台をこえることが難しく放牧育成子牛の市場評価を不当に下げる要因のひとつとなっていた。

そこで当研究室では放牧育成牛でも舎飼なみの発育 (DG0.9) を目指した放牧育成技術の開発とその肥育特性の解明に取り組んでいる。

また、草地、林地の環境保全機能を損なわない畜産的土地利用技術ならびに省力的かつ安全な放牧管理システムの開発試験を実施している。

集約放牧を取り入れた黒毛和種肥育素牛の発育向上技術開発試験では、子牛の放牧開始月齢 1 ヶ月以上、放牧終了時月齢 6 ヶ月の親子放牧の条件下で子牛の体重の 1% の補助飼料を給与することにより目標 DG0.9kg 以上を達成することができた。

また、放牧施設の関係ではポリワイヤー 2 段張りの電気牧柵でも脱柵もなく、経済的な隔障物であると考えられた。

種山畜産研究室

黒毛和種改良事業「いわて和牛改良増殖対策推進事業」の一環として、本県産黒毛和種種雄牛候補 22 頭を選定し直接検定を実施年度内に 7 頭終了、残り 15 頭については検定中で平成 13 年 6 月に終了する。全頭終了により検定成績、血統、体型、母牛の育種価等総合的に検討し間接検定実施牛を選抜する。また、平成 8 年度の直接検定により選抜された「春福菊」「糸晴清」「菊徳金」「岩美藤」「菊金波」「藤栄光」「清藤 3」「信菊徳」の 8 頭について間接検定を実施し以下の成績が得られた。

ア．1 日当たり増体量 (kg)

清藤 3 (1.11) > 藤栄光 (0.98) > 信菊徳 (0.96) > 岩美藤 (0.93) > 糸晴清 (0.91) > 菊徳金 (0.85) > 菊金波 (0.83) > 春福菊 (0.82)

イ．ロース芯断面積 (cm²)

糸晴清 (53) > 清藤 3 (51) > 菊金波 (49) > 信菊徳、藤栄光、岩美藤、菊徳金 (45) > 春福菊 (42)

ウ．脂肪交雑 (BMS)

信菊徳 (2.9) > 糸晴清 (2.8) > 春福菊 (2.4) > 菊金波、清藤 3 (2.3) > 菊徳金、岩美藤 (2.2) 藤栄光 (2.1)

平成12年度終了した間接検定実施種雄牛の内、「糸晴清」及び「信菊徳」が脂肪交雑の成績が全国平均を上回り、また、ローズ芯断面積等の成績が全国平均と同等の成績であったことから、県有種雄牛に選抜された。「糸晴清」の肉牛生産公社での現場肥育成績、特に脂肪交雑の成績はBMS Noで7.6と県内供用種雄牛の内ではトップクラスの成績である。

(6) 県北農業研究所

営農技術研究室

土壌管理、病害虫防除、機械化などの営農技術の開発や自然生態系活用型農業技術の開発を目標に研究を実施しており、他の研究室と連携した取り組みを行っている。

水稻関係については、やませ利用研究室と連携し、「ぎんおとめ」の栄養診断基準を作成するとともに家畜ふん堆肥の秋施用効果や大規模養豚団地産発酵豚ふんの利用法についても明らかにし、研究成果とした。

畑作関係については、地域基幹産業技術体系促進研究課題「中山間地域における産地マ-ケティングに基づく特産的高付加価値農産物の生産技術」において、ヒエ、アワ等の雑穀を大量に処理することのできる乾燥・調製作業技術の組み立て実証を行った。

野菜関係では、だいこんのマルチ同時播種機を傾斜地においても高性能な作業ができるように改良し、研究成果するとともに、生産工学研究室との連携によりだいこん収穫機の作業特性や導入基準についても明らかにした。また、ほうれんそう調製機の実用性を生研機構との共同研究によって明らかにし、研究成果とした。

野菜の病害虫関係では、エンバク(ヘイオ-ツ)には、キャベツ根こぶ病のおとり作物として菌密度を減少させる効果があることを実証し、研究成果とした。また、キャベツやスイ-トコーンに対する大規模養豚団地産発酵豚ふんの利用法についても検討し、研究成果とした。

産地育成研究室

県北地域における野菜、花き及び養蚕の地域適応性技術の確立と実証並びに開発技術の現地移転実証に関する研究を実施している。

野菜の優良品種選定試験は、キャベツ、ほうれんそう、だいこんの3品目で実施し、平成12年度はだいこん1品種を「推奨品種」として普及に移した。

「野菜の省力機械化体系を基幹とした大規模畑輪作技術」の課題の中で、平成9年度からキャベツ・だいこんの前後作いずれかに緑肥を導入した輪作体系を現地(大野村)実証しており、現在まで連作障害の発生も見られず、概ね目標収量を確保している。

ほうれんそうについては、生育斉一化を図るため、生育中かん水や遮熱資材の効果等について検討した。調理用トマトの支柱栽培によって、収穫や調整作業が省力軽労化されることを明らかにし、研究成果とした。

花きでは、秋出しパンジーを中心とした花壇苗周年生産技術の検討を行い、ガーデニング用素材としての中輪系シクラメンの栽培法及び開花が日長に左右されにくい品種による秋出しパンジーの長期継続出荷の可能性について取りまとめ、研究成果とした。

法面保護及び景観形成のためのグラウンドカバープランツについては、有望とした12品目の生育特性調査や簡易増殖法等について検討した。

特産の花きとして、宿根草38品目、花木7品目を新たに定植、株養成し、その生育特性等を調査した。養蚕については、県北地域に適応する桑6品種を植栽し、生育量調査等を行った。

やませ利用研究室

県北地域を対象とした水稻、普通作物(小麦、大豆等)雑穀類の栽培法や品種の選定及び葉たばこの省力化に関する研究を実施している。

水稻では、良食味・耐冷性に優れた「岩南16号」の特性を明らかにし奨励品種に選定した。移植時期別の栽培特性や刈り取り適期の検討等、栽培法の検討も併せて実施している。

小麦、大豆等の普通畑作物では、県北地域に適応する多収・良食味品種の選抜・育成を目標に、国や北海道立農試で育成した系統を導入しての試験を実施し、小麦では「東北206号」が有望であることを確認し、奨励品種に選定した。雑穀類ではヒエの無農薬育苗法の検討を行うとともに水田栽培ヒエの現地実態調査を行った。

一方、葉たばこに関連する調査研究では、緊急な課題となっている廃プラ処理について、生分解性マルチ新資材の検討を継続した。また、省力機械、施設導入による省力生産体系の実証展示を行い、経営的な評価検討を継続した。

3 平成12年度試験研究課題

(1) 細目課題分類

研究項目 担当部署	情報システム	農業構造	農業農村整備	基礎バイテク	応用バイテク	家畜バイテク	水田利用	生産システム	畑地利用	果樹	野菜	花き	蚕糸昆虫	生産環境	畜産環境	保鮮流通	乳用牛	肉用牛	養豚・養鶏	草地飼料	合計
企画経営情報部																					31
農業経営研究室		25	6																		31
農産部																					138
水田作研究室							31														31
水稻育種研究室							31														31
応用生物工学研究室					13																13
生産工学研究室			5				10	6			1										22
銘柄米開発研究室							41														41
園芸畑作部																					142
果樹研究室										47											47
野菜畑作研究室									22		15										37
花き研究室												25									25
蚕桑技術研究室													11								11
南部園芸研究室											15	7									22
生産環境部																					99
環境保全研究室															17						17
土壌作物栄養研究室															30						30
病虫害研究室															36						36
保鮮流通技術研究室																16					16
畜産研究所																					45
家畜育種研究室																		8	2		10
家畜飼養研究室																5					5
家畜工学研究室						5															5
飼料生産研究室															1					13	14
外山畜産研究室						1												5		1	7
種山畜産研究室																		4			4
県北農業研究所																					100
営農技術研究室								3	6		2				26						37
産地育成研究室											17	9	1								27
やませ利用研究室							17		18					1							36
合計	0	25	11	0	13	6	130	9	46	47	50	41	12	110	1	16	5	17	2	14	555

基礎バイテク：基礎的バイオテクノロジー、応用バイテク：応用的バイオテクノロジー、
家畜バイテク：家畜バイオテクノロジー

(2) 試験研究課題一覧

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
〔農業構造 1〕 1 技術開発方式の確立 (1) 新技術の導入効果予測	<p>ア 岩手県北上川上流地帯における水稻湛水点播直播栽培技術の確立 (ア) 直播栽培技術の導入条件の設定 (現地支援研究) a 直播導入による経済構造の将来予測</p> <p>イ 岩手県北部山麓地帯における露地野菜を中心とした機械化畑輪作体系の確立 (イ) 機械化輪作体系の実証と評価 a 経営及び地域に対する経済性の評価</p> <p>ウ 北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立 (ア) 北上山地における良質粗飼料生産・調製・供給システムの現地実証 a 良質粗飼料生産・調製・供給システムの経営経済評価</p> <p>エ 食味本位リンゴ省力生産技術導入による経営基盤強化方策の解明 (ア) 省力的食味本位リンゴの生産技術導入による経営基盤強化方策（現地支援研究） a 現行光センサー選果機の活用上の問題の把握と改善方策 b 食味本位リンゴの生産体制及び流通機構の実態解析と改善方策</p> <p>オ 北上山地における公共放牧地の高度利用による黒毛和種肥育素牛の放牧管理技術の確立 (ア) 黒毛和種肥育素牛生産における放牧利用の展開方向の解明 a 肥育素牛生産における放牧利用実態及び経営実態調査 b 遠野地域の公共牧場における総合的放牧利用の展開方向の解明</p> <p>カ 北上川流域における大豆の高品質・超省力栽培技術の実証 (ア) 大豆不耕起栽培体系の導入条件と展開方策 a 水田利用の実態調査</p> <p>キ 寒冷地におけるロングマット水耕育苗技術の導入条件の設定 (ア) ロングマット水耕育苗技術の経済評価 (イ) ロングマット水耕育苗技術導入経営体の明確化</p>	<p>11～12</p> <p>9～13</p> <p>10～13</p> <p>12～14</p> <p>12～14</p> <p>11～12</p> <p>11～13</p> <p>11～12</p> <p>11～12</p> <p>12～14</p>	<p>農業経営</p> <p>農業経営</p> <p>農業経営</p> <p>農業経営</p> <p>農業経営</p> <p>農業経営</p> <p>農業経営</p> <p>農業経営</p> <p>農業経営</p> <p>農業経営</p> <p>農業経営</p>

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
(2) 技術の体系化方策	イ 岩手県北部山麓地帯における露地野菜を中心とした機械化畑輪作体系の確立 (ア) 機械化畑輪作体系の成立条件と導入対策 a 露地野菜の省力機械化技術の適用条件の解明	9～12	農業経営
2 効率的な農業生産方式の確立 (1) 新技術の定着化方策	イ 北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立 (ア) 北上山地における貯蔵粗飼料生産・調製・供給システムの構築 b 採草地を組み込んだ公共草地の高度利用方法の解明	11～13	農業経営
(2) 効率的生産システムの確立方策	イ 大規模水田営農モデルの策定 (21世紀型農業経営モデル実証試験地) ウ 畑地かんがい地帯における野菜・花きを組み入れた高収益モデル実証 (ア) 地域ぐるみ農業展開方策の検証	10～12 11～12	農業経営 農業経営
[農業構造 2] 2 担い手の確保・育成方策の確立 (1) 主業型農家の育成方策	ア 新規就農青年の経営発展と支援方策	11～13	農業経営
3 地域農業マネジメントの手法の確立 (2) 地域農業計画手法	ア 大区画ほ場整備地区における園芸(サトイモ)・水稻複合型集落営農モデルの実証	10～12	農業経営
[農業構造 4] 1 農産物需給の分析と予測方式の確立 (1) 農畜産物市場、流通動向の実態分析	ア 農畜産物の市場動向分析 (ア) 米 (イ) 野菜 (ウ) 花き (I) 畜産 (オ) 果実	9～12 9～12 9～12 9～12 9～12	農業経営 農業経営 農業経営 農業経営 農業経営
2 いわてブランドの確立方策と産地対応方策の解明 (1) 消費者ニーズの把握手法	ア カジュアルフラワーの消費動向と流通・販売方策	11～13	農業経営
3 オリジナル商品の開発方式 (1) 新商材の開発方式	ア 中山間地域における産地マーケティングに基づく特産的高付加価値農産物の生産技術(地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立) (ア) 地域農業資源の探索・評価と新商材の需要把握(現地支援研究) a 地域資源の評価と高付加価値化 b 新商材の市場・消費ニーズの把握	11～12 12～14	農業経営 農業経営

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
	(1) 高付加価値農産物の生産・流通技術の開発 (技術開発試験) a 商品特性に対応した流通チャネルの探索	12～15	農業経営
〔農業農村整備 1〕 2 農村生産基盤の総合的な整備方式の確立 (3) 大区画・農地集積に伴う水収支計画、排水操作制御・自動化手法の解明 (4) 大区画圃場における地表排水・均平・土層改良技術の確立	ア 超低压パイプラインシステムの実証 イ 重機の走行が圃場整備後の土壌均一性に与える影響の解明 ウ 北東北重粘土地帯における暗渠排水技術の確立 (ア) 簡易で効果的な暗渠排水技術の確立 (イ) 新暗渠疎水材の実用化 (I) 現地実証による効果測定	10～12 11～15 12～14 12～14 12～14	生産工学 生産工学 生産工学 生産工学 生産工学
〔農業農村整備 2〕 1 農村資源、機能の評価法の確立 (1) 農業・農村の多面的な価値の評価と活用方策	ア ほ場整備地区における多面的効果測定法の開発	10～12	農業経営
〔農業農村整備 3〕 2 農村活性化方策の確立 (1) 中山間地域の類型化と展開方向の解明 (3) 地域内発型アグリビジネスの展開方策の解明 (4) グリーンツーリズムの成立条件の解明	ア 中山間地域活性化戦略の確立に関する研究 (ア) 地域資源を高度活用した農産物供給システムの確立 a 地域特産物の生産実態把握と農産物供給システムの確立 (イ) 地域特性を活かした高付加価値農業の展開条件の解明 c 市場外流通等新たな流通システムの確立方策 ア 中山間地域活性化戦略の確立に関する研究 (ア) 地域資源の多面的活用による起業の成立条件の解明 a 異業種交流による地域産業複合化方策の解明 ア 都市との交流による地域活性化方策の解明 (ア) 都市・農村ネットワークの効果と評価 (イ) グリーン・ツーリズムの成立条件と推進方策の解明	11～13 11～12 11～12 9～12 9～12	農業経営 農業経営 農業経営 農業経営

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
<p>〔応用バイオテクノロジー１〕</p> <p>1 生工研等で開発された高度・先端的な基礎バイオテクノロジー研究成果の作物育種栽培、微生物利用への応用技術の開発</p> <p>(1) 各種抵抗性等優良形質の導入系統の有用性、諸特性の評価</p> <p>2 生物工学的育種法の効率的な研究技術の確立</p> <p>(1) 生物工学的手法による効率的な育種法開発</p>	<p>ア 耐病性関連遺伝子導入稲の特性評価</p> <p>イ キチナーゼ遺伝子導入リンゴの耐病性評価</p> <p>エ ビーマン病原ウイルスの検出・診断技術の利用</p> <p>オ なす科作物青枯病菌の検出・診断技術の利用</p> <p>ア DNAマーカー利用による稲優良形質の探索及び選抜法の確立</p> <p>イ 稲の薬培養を利用した育苗技術の効率化</p> <p>ウ りんごの有望品種及び有望台木の再分化技術の確立</p>	<p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>10～13</p> <p>10～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>12～14</p>	<p>応用生物</p> <p>応用生物</p> <p>応用生物</p> <p>応用生物</p> <p>応用生物</p> <p>応用生物</p> <p>応用生物</p>
<p>〔応用バイオテクノロジー２〕</p> <p>1 生物工学的手法を駆使した遺伝子資源等利用活用技術の確立</p> <p>(4) 優良原々種等の効率的な維持、増殖保存技術の開発</p>	<p>ア りんどう採種用親系統の維持・増殖技術の確立</p> <p>(ア) えぞりんどうの葉片培養による大量増殖法の確立</p> <p>(イ) えぞりんどうの茎頂培養による大量増殖法の確立</p> <p>(ウ) りんどうのウイルスフリー化技術の確立</p> <p>イ スターチス・シヌアータの低コスト培養システムの確立</p> <p>ウ りんごのウイルスフリー樹の作出及び検定法の確立</p> <p>エ 小ぎくのウイルスフリー化技術の確立</p>	<p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>10～12</p> <p>9～13</p> <p>12～16</p>	<p>応用生物</p> <p>応用生物</p> <p>応用生物</p> <p>応用生物</p> <p>応用生物</p> <p>応用生物</p>
<p>〔家畜バイオテクノロジー－１〕</p> <p>1 胚移植技術実用化の確立</p> <p>(1) 良質胚大量確保技術の開発</p> <p>(2) 受胎率向上技術の開発</p> <p>2 体外受精による高能力胚の低コスト大量確保技術の確立</p> <p>(4) 経膈採卵技術の確立</p> <p>3 クローン牛の生産技術の開発</p> <p>(1) ドナー核及びレシーピエント卵作出</p>	<p>イ 受精卵移植技術実用化確立試験</p> <p>ア 胚移植技術を取り入れた効率的な繁殖経営の実証</p> <p>ア 連続経膈排卵後の過剰排卵処置法の検討</p> <p>ア 核移植技術による優良種畜の大量生産技術の確立</p>	<p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>11～13</p> <p>10～15</p>	<p>家畜工学</p> <p>外山畜産</p> <p>家畜工学</p> <p>家畜工学</p>

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
2 気象変動に耐えうる良質・良食味・耐冷性・安定生産オリジナル水稲新品種の開発 (1) 耐冷性・低温登熟性に優れる良質・良食味早生品種の育成・開発	ア 品種特性調査		
	(ア) 東北地域の奨励品種比較試験	7～12	水稲育種
	(イ) 品種保存用品種・系統の展示及び交配母本の養成	S59～12	水稲育種
	イ 交配	S59～12	水稲育種
	ウ 初期世代養成	S59～12	水稲育種
	エ 世代促進	S59～12	水稲育種
	オ 個体選抜	S62～12	水稲育種
	カ 単独系統	S62～12	水稲育種
	キ 特性検定調査		
	(ア) いもち病真性抵抗性遺伝子型の推定	1～12	水稲育種
	(イ) 葉いもち圃場抵抗性検定	S48～12	水稲育種
	(ウ) 穂いもち圃場抵抗性検定	S62～12	水稲育種
	(エ) 障害型耐冷性検定	S59～12	水稲育種
	(オ) 食味官能試験	S60～12	水稲育種
	(カ) 食味成分分析	3～12	水稲育種
	(キ) 穂発芽性検定	S62～12	水稲育種
	(ク) 玄米の貯蔵条件と品質・食味保持限界		
	a 乾燥方法と貯蔵方法が品質と食味に及ぼす影響	10～12	水稲育種
	b 貯蔵関連形質の遺伝様式の解明	10～12	水稲育種
	ク 生産力検定調査		
	(ア) 生産力検定予備調査	S58～12	水稲育種
	(イ) 生産力検定予備試験系統群	S58～12	水稲育種
	(ウ) 生産力検定本試験	S58～12	水稲育種 やませ利用
	(エ) 生産力検定本試験系統群	S58～12	水稲育種
	ケ 育成地間相互交換水稲系統適応性検定試験	S52～12	水稲育種 9～13 やませ利用
	コ 不良環境地帯向け品種の育成(現地試験)	S59～12	水稲育種
	(2) 高度耐冷性を有する品種系統の育成・開発	ア 高度耐冷性を有する系統の検索	2～12
	イ 高度耐冷性集積系統の育成	2～12	水稲育種
(3) 低温登熟性に優れる品種・系統の育成・開発	ア 低温登熟性に優れる品種系統の探索	2～12	水稲育種
	イ 低温登熟性に優れる品種系統の育成	2～12	水稲育種
(5) 奨励品種決定調査(予備、本調査、現地調査)	ア 奨励品種決定予備調査	S29～13	水田作 やませ利用
	イ 奨励品種決定本調査	S29～13	水田作 やませ利用
	ウ 奨励品種決定現地調査	S29～13	水田作 やませ利用
3 新栽培技術、新規需要・用途に対応したオリジナル水稲新品種の開発 (1) 新栽培技術(直播、不耕起等)適応品種の育成・開発	ア 直播適応性品種の育成開発		
	(ア) 超低コスト適応品種(直播用)組合せ親の特性調査		
	a 反復直播により選抜したイネ直播用品種母本の特性評価	2～12	水稲育種

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
3 新栽培技術、新規需要・用途に対応したオリジナル水稲新品種の開発 (2) 新規需要等対応品種の育成・開発	(1) 超低コスト適応品種の育成 a 直播生産力検定試験	3～12	水稲育種 銘柄米
	ア 新規需要対応品種の育成 (ア) 新規需要対応品種組合せ親の特性調査	2～12	水稲育種 銘柄米
	(イ) 新規需要対応品種の育成	2～12	水稲育種 銘柄米
	(ウ) 酒造好適米品種開発に係わる加工適性試験	8～12 2～12	水稲育種 銘柄米
[水田利用 2] 1 大区画圃場における超低コスト・効率生産技術の開発 (1) 育苗・移植作業の超省力化技術の開発 (2) 規模拡大に対応した超省力・低コスト栽培技術の開発（直播等）	ア 水稲ロングマット水耕苗の育苗・移植技術の確立 イ ロングマット苗の初期栽培管理技術の開発 イ 北上川流域地帯における水稲湛水点播直播栽培技術の確立 (ア) 品種・作期を組み合わせた直播導入可能地域の設定 (イ) 湛水点播直播安定栽培技術の確立 a 出芽・苗立ちの安定化と初期生育の育一化技術の確立 b 点播栽培の生育安定化技術の確立 c 点播栽培における効率的作業技術の確立 (ウ) 点播栽培技術の組立実証	11～14 12～14 11～13 11～14 11～14 11～14 11～14	水田作 水田作 水田作 生産工学 水田作 水田作 生産工学 水田作 生産工学
2 環境に負荷の少ない低コスト・省力生産技術の開発 (1) 環境に負荷の少ない省力・省資材生産技術の開発 (2) 水田雑草の発生生態の解明と効率的防除技術の確立	ア 新資材の効果の解明 イ 水稲栽培における水田雑草の最小限防除技術の開発 ア 新除草剤の効果の解明 (ア) 水稲作用除草剤第2次適用性試験 (イ) 無人ヘリ散布による水田除草剤の実用性 ウ 水田雑草の発分布および生態調査 エ 省力的畦畔雑草管理技術の確立	1～13 12～15 S34～13 ～13 ～13 ～13	水田作 水田作 水田作 銘柄米 水田作 水田作 水田作
3 水稲の生理・生態に即応した耐冷・多収・品質・食味向上安定生産技術の確立 (1) 新品種・系統の良質・良食味安定生産技術の確立	ア 有望品種・系統の栽培特性 (ア) 「吟ぎんが」の栽培法	11～12	銘柄米 水田作

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室	
(2) 産米品質の評価と良質・良食味米生産技術の確立	(イ) 「岩手酒52号」の栽培特性	10～12	水田作 やませ利用	
	(ウ) 「岩南7号」の栽培特性	10～13	銘柄米 水田作	
	(エ) 「岩南糯14号」「岩南糯19号」の栽培特性	10～13	銘柄米 水田作	
	(オ) 「岩南16号」の栽培特性	12～14	水田作 やませ利用	
	ア 岩手県産米の品質・食味向上要因の評価技術の開発に関する研究			
	(ア) 玄米白度決定要因調査	9～13	水田作 銘柄米	
	(イ) 品質および食味関連成分の地域別・年次別変動要因調査	9～13	水田作 銘柄米	
	(ウ) 主要な品質判定機および食味分析機器の特徴調査	9～13	水田作 銘柄米	
	(3) 気象変動下における安定生産のための水稲生理・生態の解明	ア 気象変動下における水稲気象生態反応の解明 (ア) 既存の生育・作柄診断モデルの適応性検討	S63～13	水田作
	(4) 気象変動に対応した良質・良食味安定栽培技術の確立	ア やませ利用型稲作、畑作農業技術の確立 (ア) やませ気象条件下における作物の気象反応と安定生育相の解明 a 地域別生産力向上要因の解明 (a) 良質、良食味品種の安定多収現地実証	7～13	やませ利用
	4 水稲生育及び環境情報の活用による生育診断・制御技術の開発	(イ) 県北型高品質米生産技術の確立 a 「かけはし」の栽培法 (a) 苗質・移植時期と品質 (b) 栽培密度と品質 (c) 追肥時期・量と品質	4～13 10～13 10～13 10～13	やませ利用 やませ利用 やませ利用
		(ウ) 耐冷性安定栽培法の確立 a 水稲冷害回避技術の実証	9～13	やませ利用
		イ 良質・良食味米生産技術の実証	S58～13	水田作
		ア 水稲作況調査と水稲作柄成立要因の解析	S34～13	水田作 銘柄米 やませ利用
		イ 優良品種の気象反応試験	S34～13	水田作 銘柄米 やませ利用
ウ 土壌・施肥管理と水稲の生育反応 (ア) 要素反応試験		S34～13 S44～13	水田作 銘柄米	
(イ) 土壌リン酸の有効活用		8～13	銘柄米	
(4) リモートセンシング等手法を用いた水稲生育の広域診断技術の確立		イ 登熟診断技術の確立	10～13	水田作

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
<p>[水田利用 3]</p> <p>1 大区画ほ場基盤整備技術の確立 (1)ほ場条件に対応した水管理システムの確立</p> <p>2 高生産性水田整備・管理技術の確立 (1) 大規模・大区画ほ場における生産管理のシステム化</p> <p>3 水田高度利用技術の確立 (1) 大区画圃場整備に対応した低コスト・省力技術体系の確立</p> <p>3 水田高度利用技術の確立 (4) 水田機能の多面的利用技術の確立</p>	<p>ア 地下かんがい、地下排水方式の確立</p> <p>イ 用排水の自動化と水循環方式による水利用方式の確立</p> <p>ウ 暗渠排水の最適被覆材の選定</p> <p>ア 農道ターン方式の確立</p> <p>イ 畦畔被覆資材・方法の確立</p> <p>ア 大区画圃場営農に対応した低コスト・省力技術体系の確立 (1) 高度な診断技術・栽培管理知識を集約した「担い手農家技術支援エキスパートシステム」の開発</p> <p>イ 新省力技術 (ア) 新育苗資材の実用化と新機械の利用性能の解明 a 新資材、新薬剤の効果の解明 (a) 新生育調節剤の効果解析 (b) 新育苗培土等の実用性確認</p> <p>ア 水田転作のための資料用米生産技術の確立</p>	<p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>10～12</p>	<p>生産工学</p> <p>生産工学</p> <p>生産工学</p> <p>生産工学</p> <p>生産工学</p> <p>生産工学</p> <p>やませ利用</p> <p>やませ利用</p> <p>水田作</p>
<p>[水田利用 4]</p> <p>1 革新技術導入や農地利用集積等多様な担い手の組織化による効率の高い地域営農方式の確立 (3) 革新的農業技術の組立実証</p> <p>研究的業務 水稻の優良種子生産技術</p>	<p>ア 革新的技術の実証と評価 (ア) 大区画水田における米の低コスト生産技術の実証</p> <p>ア 水稻原々種生産</p> <p>イ 水稻原種生産</p>	<p>10～12</p> <p>S29～13</p> <p>S29～13</p>	<p>水田作 生産工学</p> <p>水田作</p> <p>水田作</p>
<p>[生産システム 1]</p> <p>1 大区画ほ場に対応した高性能機械化技術の開発 (1) 大区画水田ほ場に適応した利用技術の開発</p>	<p>ア 大区画ほ場における知識集約型機械の開発と利用技術の開発 (ア) ほ場均平度自動測定システムの開発・改良 (ウ) ラジコンヘリ利用による水稻栽培技術の開発 b ラジコンヘリ利用による水稻直播栽培</p>	<p>9～13</p> <p>10～13</p>	<p>生産工学</p> <p>生産工学</p>

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
<p>2 省力・大規模生産に対応した高性能機械化技術の開発</p> <p>(1)水田農業の総合的な機械化栽培技術の確立</p> <p>(3) 野菜・花き等機械化技術の開発</p> <p>3 低コスト生産に対応した高度農業機械化技術の開発</p> <p>(4) 作業環境改善及び労働強化低減技術の確立</p>	<p>ア 寒冷地・大区画圃場でのロングマット水耕育苗技術と移植・栽培技術の開発</p> <p>(ア) ロングマット苗の移植精度向上技術と初期栽培管理技術の開発</p> <p>(イ) 大区画圃場におけるロングマット苗移植技術の総合実証</p> <p>エ 新側条施肥体系の確立</p> <p>ア 未利用資源の活用技術開発</p> <p>(イ) 傾斜地で利用可能な農業機械の開発</p> <p> b 歩行型全自動野菜移植機の傾斜地適応性の確立</p> <p>(ウ) 作業機械、新資材の利用技術の確立</p> <p> a ホウレンソウの収穫機の開発改良</p> <p> b ホウレンソウの調製機の開発改良</p> <p>ア 労働強度・機械作業安全性の解析と改善技術の確立</p>	<p>11～14</p> <p>11～14</p> <p>11～12</p> <p>7～12</p> <p>10～12</p> <p>10～12</p> <p>9～13</p>	<p>生産工学</p> <p>生産工学</p> <p>生産工学</p> <p>営農技術</p> <p>営農技術</p> <p>営農技術</p> <p>生産工学</p>
<p>〔畑地利用1〕</p> <p>1 高収益作物を組み入れた作目の再編による輪作技術・機械化栽培体系の確立</p> <p>(2) 革新的農業技術・経営実証（大規模営農における作付方式の合理化）</p> <p>(5) 北部沿岸農地開発地域における大規模野菜作経営の実証</p>	<p>ア 革新的農業技術・経営実証</p> <p>(ア) 大豆無培土栽培現地実証</p> <p>ア 農地開発地における持続型高収益野菜モデル経営の実証</p> <p>(ア) 継続実施可能な有機物施用方法の検索</p> <p> a 畜産由来有機物利用低コスト土壌改良効果実証</p> <p>(イ) 高収益土地利用型野菜等を組み入れた畑輪作体系の確立</p> <p> a 緑肥を組み入れた普代型モデル畑輪作体系の実証</p> <p>(ウ) 畑地かんがいを活用した普代農業の組立</p> <p> a 溝底播種法による生食用にんじんの春播き早出し作型の検討</p> <p> b 加工用にんじんの多収穫栽培法</p> <p>(イ) 総合土地管理指針の策定</p>	<p>11～13</p> <p>10～12</p> <p>10～12</p> <p>10～13</p> <p>10～13</p> <p>12～</p>	<p>やませ利用</p> <p>営農技術</p> <p>営農技術</p> <p>やませ利用</p> <p>やませ利用</p> <p>営農技術</p>

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
[畑地利用2] 2 普通作物等の高品質・安定多収生産技術の開発 (1) 新作物・新品種の省力機械化・高品質栽培技術の確立	ア 高付加価値農産物の生産・流通技術の開発 (ア) 雑穀類の高付加価値化技術 a ヒエ・アワの無農薬機械化栽培技術 (a) アワを中心とした雑穀類の害虫の発生生態の解明と防除対策 (b) アワの除草法の検討 (c) ヒエの無農薬水田移植栽培技術の検討 b ヒエ・アワの乾燥・調製法 (イ) 消費ニーズを踏まえた生産・流通システムの実証 a 高付加価値新需要穀類の生産技術の現地実証 (a) ヒエ・アワの無農薬機械化栽培現地実証 (b) ヒエ・アワの乾燥・調製現地実証 イ 不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培技術 (ア) 大豆不耕起栽培体系の導入条件と展開方策 c 大豆作における導入機械の好適使用条件検討 d 不耕起土壌の理化学性等の把握 (イ) 不耕起播種による大豆の高品質・安定生産技術 a 不耕起、無中耕、無培土栽培に対応した土壌管理技術の確立 b 不耕起、無中耕、無培土栽培に適応した品種、栽培法の検討 c 大豆作を中心とした水田利用作付体系の実証	11～15 11～15 11～15 11～15 11～15 11～15 11～15 11～15 11～15 11～15 11～15 11～15 12～15 11～14 11～15 9～12 10～13 10～ 10～	営農技術 やませ利用 やませ利用 やませ利用 営農技術 やませ利用 やませ利用 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 やませ利用 やませ利用 やませ利用
(2) 露地野菜等の機械化輪作栽培技術の確立	ア 輪作物の機械化栽培技術の確立 (ア) 野菜作における緑肥等作物の低コスト栽培技術の確立		野菜畑作
(5) 工芸作物の省力低コスト栽培技術体系	ア たばこ作低コスト超省力機械化体系現地実証 イ 新資材の実用化 (ア) 子床用ポット (イ) 微生物資材		やませ利用 やませ利用 やませ利用
3 畑生産基盤の改善と生産力増強技術の確立 (1) 畑地かんがいの利用による新たな複合型生産・営農技術の開発	ア 畑地かんがい地帯における野菜・花き等を組み入れた高収益モデル実証	10～12	営農技術

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
4 畑作物（園芸作物及び普通畑作物）の生育情報及び生育環境情報の活用による生育診断・制御技術の開発 (1) 生育環境条件と生育情報の解析 (4) 植物生育調節剤等の実用化	ア 畑作物の生育相及び気象反応の解明 (ア) 大豆の生育相と気象反応の解明 (イ) 小麦の生育相と気象反応の解明 ア 新資材の実用化 (ア) 除草剤、生育調節剤、被覆資材の実用化	S49～13 S49～13 9～13 12	野菜畑作 やませ利用 やませ利用 野菜畑作
[畑地利用3] 1 中山間地域等地域適応性の優れた特産作物の新品種育成と選定 (1) 中山間地域の多様な気象条件に適した安定品目の探索と品種選定 (2) 環境負荷の少ない低投入型農法に適した耐病害虫、耐環境特性の改良 (3) オリジナリティの高い地域特産作物の品質検定と改良・育成 (5) 各種作物の検定調査 3 輪作・機械化に適した新品種の育成と選定 (1) 品種・系統の地域輪作への適応性検定試験 (2) 機械化適応性の実証評価 (3) 機械化輪作に適した新品種の選定 [研究的業務] 一般畑作物の原種・原々種生産	ア 普通作物等の多収良質品種の育成 (ア) 小麦奨励品種決定調査 (イ) 大豆奨励品種決定調査 a 基本調査 b 現地調査 (ウ) 大豆系統適応性検定試験 ア 麦類の奨励品種決定調査 イ 豆類の奨励品種決定調査 ア 畑作物の革新的作型の確立 (ア) 本県における春まき麦類の適応性 イ 新形質品種の特性を活かした高位安定栽培技術の確立 (ア) 低アミロース小麦系統「東北206号」の高品質安定栽培技術 ウ ハトムギ優良品種の選定 エ やませ利用型稲作、畑作技術の確立 (ア) やませ気象に適応した畑作物安定品目の検索と作型開発 b アマランサス新系統(短稈)の地域適応性と栽培法 c アワの栽培法 ア 麦類耐寒雪性特性検定試験 イ 大豆立枯性病害抵抗性特性検定試験 ウ ばれいしよウイルス病抵抗性特性検定試験 ア ばれいしよ系統適応性検定試験 イ あずき系統適応性検定試験 ア 大規模機械化栽培に適したダイズ新品種の選定及び栽培実証 イ 地域に適合した転換畑の持続的作付け体系の組立実証 ア 主産国に負けない高い製パン・製めん特性を持った小麦品種の選定と評価	S56～ S29～13 S29～13 S45～ S29～13 S29～13 10～12 11～13 11～13 10～12 10～12 S29～13 S62～13 S28～13 S47～13 S40～13 7～12 10～12 7～13 S29～13	やませ利用 やませ利用 野菜畑作 やませ利用 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
<p>〔果樹1〕</p> <p>1 革新的技術開発による超省力・多収・高品質果実生産技術の確立</p> <p>(1) りんごの新わい性台木利用によるショートサイクル栽培技術の確立</p>	<p>ア 21世紀のリンゴわい化栽培を担うJM台木の利用技術の開発</p> <p>(ア) JM台木と主要品種・県奨励品種との親和性の解明</p> <p>a JM台木と「ふじ」、「きおう」等の親和性</p> <p>(イ) JM台木の現地適応性の解明</p> <p>a JM7台木利用樹の現地適応性</p> <p>(ウ) JM台木の簡易・安定・短期生産法の確立</p> <p>a 台木の簡易増殖法</p> <p>b 苗木の短期生産法</p> <p>(エ) 優良ポット苗の短期育成技術の確立</p> <p>a JM台木を用いたポット養成苗木の短期生産法</p> <p>(オ) JM台木利用・栽植様式による低樹高栽培技術の確立</p> <p>a 台木の利用法</p> <p>(a) 地上部台木長の検討</p> <p>(b) JM5台木の間中台利用法の検討</p> <p>b JM7台木の栽植様式の検討</p> <p>エ 果樹類の低樹高品種の育成等による省力・軽作業栽培技術の開発</p> <p>(ア) りんごのカラムナータイプ等に適合する新栽培方式・防除法の開発</p> <p>a カラムナータイプなどに適合した省力機械化体系の確立</p> <p>b 省力機械化体系に適合した省力形質樹型品種の栽培法の確立</p> <p>(イ) りんごスパタイプ等特殊形質樹利用による低コスト、超省力、高品質生産技術の解明</p> <p>a スパタイプ等特殊形質を有する品種の栽培特性の把握</p> <p>(ウ) 葉とらずりんご等を主体とした省力・低コスト・高品質生産技術の確立</p> <p>a 葉とらずりんご等を主体とした果実品質重視型栽培法の開発</p> <p>(a) 葉とらずりんごに適合した着色系統の選抜</p> <p>(b) 台木別最適樹相の検討</p> <p>b 葉とらずりんご等の果実品質評価法の検討</p>	<p>11～15</p> <p>11～15</p> <p>11～15</p> <p>11～15</p> <p>12～15</p> <p>11～15</p> <p>11～15</p> <p>11～15</p> <p>9～12</p> <p>9～12</p> <p>9～12</p> <p>10～14</p> <p>10～14</p> <p>10～14</p>	<p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p> <p>果樹</p>

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
(2) 大規模果樹園に対応した機械化体系等栽培技術の確立	ア 果樹園管理の省力機械化栽培法の確立 (ア) 果樹園用局所施肥機による施肥量の削減と果実品質の向上	11～15	果樹
(3) ぶどう大粒種等の省力・低コスト栽培技術の確立	ア 転作田を活用した、ぶどう新品種導入による高品質・安定生産・省力栽培法の確立実証 (ア) ぶどう新品種導入による、高品質、生産安定、省力栽培法の確立実証 a 新品種の栽培実証試験 b 新仕立て法による省力栽培技術の開発と実証展示 c 高品質安定生産実証試験	10～12 10～12 10～12	果樹 果樹 果樹
(4) 西洋なし、おうとう等のわい化栽培による省力、低コスト栽培	ア 西洋なしのわい化栽培による省力・低コスト栽培技術の確立 (ア) ラ・フランスの生産安定 a ラ・フランスの単為結果性を利用した安定生産技術の検討	11～13	果樹
〔果樹2〕 1 岩手オリジナル高品質果樹品種の開発 (1) ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発 (2) キャンベル、紅伊豆等に優る耐寒性中・大粒早熟性ぶどう品種の開発 (3) ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発 (4) 特産果樹類の育成選抜 2 生物工学的手法等先端技術を応用した新品種の開発 (3) 高糖度、多収を目指したウイルスフリー樹の開発	ア ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発 (ア) 国育成系統適応性(盛岡58～59号) (イ) 国内外導入品種の選抜 (ウ) いわて特産中～晩生種の交配育成 ア キャンベル、紅伊豆にかわる耐寒性大衆し好品種の育成及び選抜 (ア) 寒冷地向きぶどうの系統適応性試験(第7～9回ぶどう系統適応性試験) (イ) 国内外育成の寒冷地向き品種の選抜(生食用、醸造、兼用種等品種の選抜) (ウ) 耐寒性中・大粒種ぶどうの交配育成 ア ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発 (ア) 国内外導入品種の選抜 ア おうとう、もも等の優良品種の選抜	1～13 1～13 1～13 4～13 1～13 1～13 1～13 1～13	果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹
〔果樹3〕 1 樹体生理に即応した安定生産技術の確立 (2) 高品質、多収のための生育調節技術の開発	ア りんごの植調剤 (ア) りんごの摘花(果)剤の選抜と実用化 (イ) 除草剤の効果的使用法 (ウ) 摘葉剤の選抜	1～13 1～13 1～13	果樹 果樹 果樹

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
(3) 結実及び着色管理技術の向上による品質向上技術の開発	イ ぶどうその他果樹に対する植調剤	1～13	果樹
	(ア) ぶどうの結実促進	1～13	果樹
	(イ) ぶどう園等除草剤の効果的使用法	1～13	果樹
	ア 新品種等の安定生産技術の確立	5～13	果樹
	(ア) きおうの裂果・落果防止技術の確立	5～13	果樹
	イ 需要拡大のための省力的食味本位リンゴの生産・流通技術の確立		
	(ア) 省力的食味本位リンゴの生産導入による経営基盤強化方策		
	a 省力的食味本位リンゴの生産技術導入による経営基盤強化方策		
	(a) 現行非破壊選果機の活用上の問題点の把握と改善方策	12～16	果樹
	(b) 食味本位リンゴの生産体制及び流通機構の実態解析と改善方策	12～16	果樹
	(イ) 食味本位リンゴの均質化栽培技術の確立		
	a 食味本位リンゴの樹体構成法及び光センサー等を利用した均質化栽培法の確立		
	(a) 食味本位リンゴの樹相診断技術の確立	12～16	果樹
	(b) 良食味・均質化のための樹体構成法	12～16	果樹
	(c) 各種資材利用による内部品質向上・均質化技術の確立	12～16	果樹
	(ウ) 食味本位リンゴの省力・低コスト・平易化栽培技術の確立		
	a 新植調剤の実用化による摘果作業の削減技術の開発		
	(a) ‘ふじ’ ‘さんざ’ ‘ジョナゴールド’ などへの新摘花・摘果剤利用技術の確立	12～16	果樹
b 新摘葉剤の実用化及び着色系統の利用等による着色管理の大幅削減技術の開発	12～16	果樹	
(a) ‘ふじ’ ‘さんざ’ ‘ジョナゴールド’ など新摘葉剤利用技術の確立	12～16	果樹	
(b) 着色系統利用及び着色管理の省力化技術の確立	12～16	果樹	
(I) 食味本位リンゴの鮮度保持・流通技術の確立			
a 食味本位リンゴの冷温高湿貯蔵技術の確立	12～16	果樹	
(オ) 食味本位のリンゴ新商材の省力生産体系の実証と消費流通評価			
a 省力・均質化生産体系の実証	12～16	果樹	
b 食味本位リンゴの消費流通評価	12～16	果樹	
(4) 樹体生理と施肥反応の解明	ア 新資材、肥料等の実用化試験		
	(ア) 有機入り肥料の施肥効果	1～13	果樹

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
<p>[野菜1]</p> <p>1 省力生産システムの開発</p> <p>(1) 省力・低コスト大量苗生産システムの確立</p> <p>(2) 作業技術と栽培法の改善による省力化</p> <p>(3) 機械化生産システム確立とそのため の栽培管理の改善</p>	<p>ア 園芸作物におけるセル成型苗等の機械化生産技術の開発</p> <p>(ア) 新接ぎ木法に対応した養生・順化技術の確立</p>	9~13	野菜畑作
	<p>ア 園芸作物の経営基盤を強固にする省力・低コスト生産技術の開発</p> <p>(ア) セル成型苗等省力・低コスト生産技術の開発</p>	9~13	野菜畑作
	<p>a 雨よけトマトにおけるセル成型苗直接定植技術の確立</p>	9~13	野菜畑作
	<p>b 雨よけトマト低段密植による不耕起連続栽培法の確立</p>	9~13	南部園芸
	<p>c ハウスピーマンにおけるセル成型苗直接定植技術の確立</p>	9~13	野菜畑作
	<p>(イ) 大規模野菜生産技術の確立</p>	9~13	野菜畑作
	<p>a 夏秋キュウリ大規模生産技術の確立</p>	9~13	野菜畑作
	<p>b 雨よけトマトの大規模生産技術の確立</p>	9~13	野菜畑作
	<p>c ピーマンの省力型品種の選抜</p>	9~13	野菜畑作
	<p>d 夏秋きゅうり大規模野菜生産技術の確立</p> <p>(a) 急性萎ちょう症状の耕種的発生要因の解明</p>	12~15	南部園芸
	<p>イ 稲作地帯における園芸省力安定生産モデル経営の実証</p>	10~12	野菜畑作
	<p>ウ 沿岸中山間地における園芸省力安定生産モデル経営の実証</p> <p>(ア) いちご栽培の省力低コスト栽培の確立</p>	10~12	南部園芸
	<p>エ 加工部門との連携によるだいこん産地の経営改善実証</p> <p>(ア) だいこんの輪作体系の改善実証</p>	10~12	南部園芸
	<p>イ 野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術</p> <p>(ア) 機械化輪作体系の成立条件と導入対策</p> <p>a 露地野菜の省力機械化技術の適用条件の解明</p>	9~13	生産工学 営農技術
	<p>(イ) 省力機械化体系に適した栽培技術の開発</p>	9~13	産地育成
<p>a 定植機、収穫機等に対応したキャベツの栽培法の確立</p>	9~13	産地育成	
<p>(a) 定植苗の生育斉一化</p> <p>(b) 本畑での生育斉一化</p>	9~13	産地育成	
<p>b 機械化に対応した施肥技術の改良</p>	10~13	営農技術	
<p>(ウ) 機械化畑輪作体系の作物生産に対する評価</p> <p>a 機械化輪作体系の作物生産に対する評価</p>	9~13	産地育成	

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
(4) 新資材等活用による低コスト・安定生産技術の開発	ア 新資材、新肥料、除草剤の実用化 (ア) 新肥料の肥効試験 a ネギの発酵鶏糞配合肥料の肥効 b スイートコーンの新品種専用肥料の肥効 イ 新肥料の肥効検定他 (ア) 果菜類に対する肥効確認 (イ) 果菜類に対する育苗培土の効果確認	11～12 11～12 9～13 9～13	産地育成 産地育成 南部園芸 南部園芸
2 大規模野菜生産技術の確立 (3) 大規模野菜生産技術の確立	ア ほうれんそうの省力低コスト技術の体系化 (ア) 生育の斉一化	11～13	産地育成
[野菜 2] 1 市場競争力のある特徴的品種・品目の育成 (1) バイテク技術対応によるオリジナル品種の育成 (3) 主要品目の地域適応性の高い優良品種の選定 2 長期的な高位安定生産と持続的な産地形成技術の確立 (2) 持続的産地維持のための好適作付体系の確立 (4) 耕種的方法による長期安定生産技術の確立	ア 野菜の優良栄養繁殖系品種の育成 (ア) サトイモの優良系統の選抜 イ 市場性の高い岩手銘柄えだまめ品種の育成 ウ ニューなばな「春の輝」の前進作型の開発 (ア) ワックスレス中生優良系統の選抜 ア 地域適応性に優れた品種の選定 (ア) スイートコーン (イ) レタス (ウ) キャベツ (エ) ホウレンソウ (オ) ダイコン ア 稲作地帯における土地利用型水田営農システムの開発 (ア) 土地利用型作物の高品質安定生産技術の実証 イ 転作田への高収益作目の導入促進のための野菜の栽培実証 ア 大区画圃場整備地区における園芸・水稻複合型集落営農モデルの実証 (ア) 転作田の高度活用によるサトイモの安定生産技術	10～15 S58～13 7～13 S62～ 1～ S63～ S63～ S62～ 10～12 10～12 10～12	野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 産地育成 産地育成 産地育成 産地育成 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作
[野菜 3] 1 周年生産技術の確立 (1) 新作業、栽培法確立による出荷期間延長技術	ア 園芸作物におけるセル成型苗等の機械化生産技術の確立 (ア) 低温処理等による付加価値型苗生産技術の開発 a 短日処理によるいちご促成作型の開発 b なばなの春化处理苗の低コスト生産技術の開発	9～13 9～11	南部園芸 南部園芸

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
(1) 新作物型、栽培法確立による出荷期間延長技術	イ 地帯別気象特性を活かした野菜生産の長期化技術 (ア) キャベツの5～6月穫り作型の確立 ウ 藤崎地区における灌漑による野菜や花きを取り入れたモデル経営の実証	10～12 10～12	野菜畑作 南部園芸
(2) ハイテク施設に対応した栽培技術の確立と施設の高度利用技術	ア 園芸作物における養液土耕等の施設に対応した生産技術 (ウ) 地床利用によるトマトの点滴灌水同時施肥栽培技術の開発実証	12～14	野菜畑作
(3) 施設の高度利用技術	ア 園芸作物における溶液土耕等の施設に対応した生産技術 (ア) いちごのベンチアップ栽培の確立 a 栽培ベッドの大きさと栽植密度の検討 b 培養液濃度の検討 c 適品種の検討 (イ) トマトの少量土壌培地耕栽培技術の確立 a 培養液濃度の検討 b 適品種の検討 c 培地の種類	11～15 11～15 12～15 11～15 11～15 11～15	南部園芸 南部園芸 南部園芸 南部園芸 南部園芸 南部園芸
2 地域環境資源を活用した栽培技術の確立			
(4) 中山間地帯資源活用、新品目の導入、栽培技術の開発	ア 県北中山間地における花き品目導入による農業経営の確立実証 (ア) 花き栽培施設を有効活用した山菜促成栽培の実証（一戸町小友地区） イ 高付加価値農産物の生産・流通技術の開発 (ア) コマツナ等の冬春期安定生産技術の開発 (イ) 山菜の安定生産技術 a ウルイの母株養成技術の確立 b 促成栽培に有望な山菜類の収集 (ウ) 調理用トマトの安定生産技術	10～12 11～13 11～15 11～15 11～13	産地育成 産地育成 産地育成 産地育成 産地育成
(5) 気象変動に対応した栽培技術、生育予測技術の確立	ア 野菜における生育ステージ別気象要因と生育特性の解明 (ア) ダイコン抽苔回避温度調査	9～13	産地育成
[研究的業務] えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖		8～13	野菜畑作
[花き 1] 1 花きオリジナル品種の育成 (1) バイテク等先端技術を応用した育種法の開発 (2) 交雑育種法等による新品種育成	ア 園芸作物優良形質遺伝子導入系統の有用性及び特性の評価・調査 (ア) スタ・チス・シヌア・タの優良培養系統の特性検定 ア 重点品目の品種開発 (ア) りんどうの品種育成 (イ) ニュ・タイプ小ぎくの品種育成 (ウ) ゆりの品種育成 (エ) スターチス類の品種育成	8～13 9～13 S49～13 1～13 5～13 11～13	花き 南部園芸 花き 花き 花き 花き

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
<p>2 寒冷地適応新商材の開発と主要切花品の銘柄化技術</p> <p>(1) 地帯別銘柄花きの定着化</p> <p>(2) 新規需要鉢物等高需要新商材の開発</p> <p>(3) 新花き品目の寒冷地適応生産技術の確立</p>	<p>ア カジュアルフラワーの栽培安定化技術の確立</p> <p>ア 寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術</p> <p>(ア) 宿根草等の鉢物化技術の確立</p> <p>(イ) 秋出荷花壇苗の生産体系の確立</p> <p>ア 寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立</p> <p>(ア) 枝物花木の寒冷地向け適品種選定及び栽培技術の確立</p> <p>a 品目選定と生育特性</p> <p>b 効率的増殖法及び育苗技術の確立</p> <p>c 栽植方式及び早期株養成技術の解明</p> <p>イ 高付加価値農産物の生産技術の実証</p> <p>(ア) 特産の花きの商品化技術</p> <p>a 有望品目・有望品種の収集及び選定</p> <p>b 有望品目・有望品種の栽培法の検討</p> <p>ウ 消費者ニーズを踏まえた生産・流通システム</p> <p>(ア) 高付加価値花きの生産技術の現地実証</p> <p>a 有望宿根草・花木の現地適応性</p> <p>b 低コスト高品質栽培の実証</p>	<p>11～14</p> <p>10～14</p> <p>10～14</p> <p>12～16</p> <p>12～16</p> <p>12～16</p> <p>11～13</p> <p>12～14</p> <p>11～14</p> <p>12～14</p>	<p>花き</p> <p>花き 南部園芸</p> <p>花き 花き 花き</p> <p>産地育成 産地育成</p> <p>産地育成 産地育成</p>
<p>[花き 3]</p> <p>1 需要期に供給できる開花調節技術の確立と新作型開発</p> <p>(1) 生理、生態特性解明による主要切花品目の開花調節技術の確立</p>	<p>ア 生理、生態特性による主要品種、切花品目の開花調節機能の解明</p> <p>(ア) りんどうの生育、開花制御要因の解明</p> <p>(イ) りんどうのセル成型育苗の管理指標策定</p> <p>(ウ) りんどうの作況調査</p> <p>(I) トルコギキョウの生育、開花制御要因の解明</p> <p>ウ 花き銘柄産地構築のための長期継続出荷技術の開発研究</p> <p>(ア) りんどうの高品質安定生産技術の開発</p> <p>b りんどうの栄養系品種の高品質安定生産及び不時出荷の技術の開発</p> <p>(イ) りんどうの高品質促成栽培技術の確立</p> <p>(ウ) きく類の長期出荷技術の開発</p> <p>a 小ギク、スプレーギクの作期拡大技術の確立</p> <p>(I) 地帯別気象特性を生かした花き生産の長期化技術</p> <p>a トルコギキョウの冷涼気象要因と地帯別生育特性の解明及び秋出し高品質生産技術の確立</p>	<p>9～13</p> <p>7～13</p> <p>S58～</p> <p>9～13</p> <p>6～13</p> <p>10～14</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p>	<p>花き</p> <p>花き</p> <p>花き</p> <p>花き</p> <p>花き</p> <p>花き</p> <p>花き</p> <p>花き</p> <p>花き</p> <p>花き</p>

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
<p>2 周年生産技術の確立</p> <p>(1) 地帯別気象特性を活用した周年生産技術の開発</p> <p>(2) 新資材等を活用した周年生産技術の開発</p> <p>(4) 露地と施設の組合せによる周年生産技術の確立</p> <p>[研究的業務] りんどう種子生産対策事業</p>	<p>イ 岩手、沖縄両県の気象条件を活用した花き類の連携長期出荷技術</p> <p>(ア) 沖縄育成小ぎくの長期安定出荷技術</p> <p>(イ) 洋ラン(鉢花：エビデンドラムなど)の年内出荷体系の確立</p> <p>ウ 花き銘柄産地構築のための長期継続出荷技術の開発研究</p> <p>(ア) 施設の高度利用技術による花き周年生産化技術</p> <p>a ラークスパー等の越冬、抑制作型における良品生産技術の確立</p> <p>b スターチスの二度切り作型における培養苗利用技術の確立</p> <p>(イ) 地帯別気象特性を生かした花き生産の長期化技術</p> <p>a トルコギキョウの秋冬出し高品質生産技術の確立</p> <p>b デルフィニウムの品種選定と栽培技術の確立</p> <p>ア 新資材、新肥料、除草剤の実用化</p> <p>(ア) 新肥料の肥効試験</p> <p>a 有機石灰肥料のトルコギキョウへの施用</p> <p>b ロング肥料のりんどうへの施用</p> <p>(イ) FKH-14水和剤、プロザミド水和剤の小ぎく栽培床適応性</p> <p>(ウ) 有機入り花肥料及び有機石灰入り土づくり肥料のゆりに対する肥効確認</p> <p>(エ) トルコギキョウ肥料の肥効確認</p> <p>(オ) ノンストレス肥料による土壌の酸性化防止と陰イオン蓄積抑制効果</p> <p>ア 県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確実実証</p> <p>(ア) 秋出しパンジー栽培技術の確立</p> <p>(イ) 花壇苗周年生産技術の確立</p>	<p>11～13</p> <p>11～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>9～</p> <p>10～</p> <p>12～</p> <p>10～12</p> <p>11～12</p> <p>12～</p> <p>9～14</p> <p>9～14</p> <p>11～</p>	<p>花き</p> <p>花き</p> <p>南部園芸</p> <p>南部園芸</p> <p>南部園芸</p> <p>南部園芸</p> <p>産地育成</p> <p>産地育成</p> <p>産地育成</p> <p>花き</p> <p>花き</p> <p>南部園芸</p> <p>花き</p> <p>産地育成</p> <p>産地育成</p> <p>花き</p>

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
〔蚕糸昆虫1〕 1 地場産業向け加工用素材生産技術と 利用法確立 (1) 新用途素材加工利用法開発 (3) 新素材繭の効率的生産技術 (4) 野蚕の優良系統、繭の効率的生産 技術	ア オリジナル蚕繭の繰糸技術 イ 座繰り糸・つむぎ糸等の生産・加工技術 ア 需要動向を見極めた繭・糸・桑の生産技術 開発 (ア) 高価格絹糸の需要動向調査、特徴ある蚕 品種の収集及び特殊用途繭糸の試作 ア 天蚕の優良系統育成	10～12 10～12 9～12 1～	蚕桑技術 蚕桑技術 蚕桑技術 蚕桑技術
〔蚕糸昆虫2〕 1 食品、バイオマス素材等への利用技術 開発 (3) 養蚕資源の他用途利用技術開発 2 昆虫機能活用研究 (3) 蚕を活用した環境評価法 (4) 有用昆虫の飼育技術開発	ア 養蚕施設・資源を高度に利用した作目導入 のための調査研究 (ア) 菌床きこ栽培 ア 蚕による農薬・生理活性物質のモニタリン グ手法の開発 (ア) 新薬剤の蚕への残留毒性 ア 人工飼育昆虫の利用技術	10～12 S57～13 12～14	蚕桑技術 蚕桑技術 蚕桑技術
〔蚕糸昆虫3〕 1 多回育養蚕技術の開発 (1) 1～4 齢人工飼料簡易飼育技術の 開発と総合組立実証 (2) 無菌人工飼料育技術 2 桑の省力安定生産技術確立 (3) 地域適応性品種選定と用途別桑の 栽培法確立	ア 人工飼料育を導入した多回育による高品質 安定化 (ア) 5 A 格の繭安定生産技術の実証 ア 稚蚕期の無菌人工飼料育実証 ア 系統適応性検定試験 ウ 地域適応性桑品種の育成と短期選抜 エ 桑の生育診断	10～12 10～13 S44～13 9～13 S55～	蚕桑技術 蚕桑技術 蚕桑技術 産地育成 蚕桑技術

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
〔生産環境1〕			
1 生産環境の保全、安全管理技術の開発			
(1) 肥料の動態の把握と環境負荷を低減する施肥技術の開発	ア 施肥窒素溶脱抑制技術の確立 (ア) ライシメータ試験	3~14	環境保全
	イ 肥効調節型肥料の導入技術の確立 (ア) 野菜類の全量育苗箱施肥技術の確立	10~12	土壌作物栄養
(2) 農薬の環境動態の把握と環境汚染防止対策技術の開発	ア 農薬水質影響調査 (ア) 水質影響低減技術の開発 a いもち病防除粒剤の施用法と水系での残留 b 種子消毒廃液処理対策技術の確立	10~14 10~14	環境保全 環境保全
(3) 健全食品生産技術の開発（農薬残留対策）	ア 農薬残留対策調査（作物残留） イ 農薬残留安全追跡調査 ウ 農薬安全使用等啓発事業 (ア) 防除農薬散布暦の安全性確認調査 エ 土壌汚染防止対策技術の確立	S46~ 10~ 6~ S62~	環境保全 環境保全 環境保全 環境保全
(5) 環境保全型農業の総合組立	ア 水稲における環境保全型農業の総合組立 (ア) 水稲有機栽培等の地域別可能性と収量水準の策定 b 立地条件の異なる地域における有機物施用法の組立、実証 (a) 有機物施用量といもち病発生量、収量性の解析 (b) 地域別の侵入環境の把握と発生量の評価 c 施肥量といもち病箱施用剤の効果持続性 イ 野菜における環境保全型農業の総合組立 (ア) 有機農産物の生産条件の解明 ウ 作型を利用したレタスの無農薬栽培技術 エ 環境にやさしいマルチ資材等利用技術 (ア) 生分解性マルチフィルムの分解性及び作物への影響 (イ) 鋤込み可能マルチの葉たばこ栽培への適応性	10~12 10~12 10~12 12~15 9~13 11~13 10~13	環境保全 環境保全 環境保全 環境保全 営農技術 環境保全 やませ利用
2 農業のもつ多面的機能の維持・向上技術の開発			
(1) 土壌環境評価利用技術の開発（土壌環境負荷軽減対策推進）	ア 環境保全型有機質資源施肥基準設定調査 (ア) 土壌モニタリング調査 (イ) 有機物連用試験 a 水稲の有機物施用基準設定調査 b 畑地の有機物施用基準設定調査 c 有機物施用にともなう養分収支調査	10~14 10~14 10~14 10~14	土壌作物栄養 土壌作物栄養 営農技術 土壌作物栄養 営農技術 土壌作物栄養

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
(2) 生産環境情報システムの開発と実用化	ア メッシュ土壌情報の高度化と稲作環境評価技術の開発 (イ) 安定生産阻害要因の予測と対応技術の現地実証 a 水温推定式と施肥対応技術の確立	11～12	土壌作物栄養
3 気象資源の評価・利用技術および気象災害回避技術の開発 (1) 農業気象情報の管理と活用技術の開発	イ 生産環境情報利用技術の開発 (ア) 作物生育適地評価法の確立	11～13	土壌作物栄養
	ア 農業気象観測とメッシュ気象図の活用方策の確立 (ア) 農業気象観測と気象情報データベースの作成・管理 (イ) アメダスによる地域別気象特性評価	9～13	環境保全
	ウ メッシュ気象情報を活用した作物管理技術	9～13	営農技術
	エ 農産物の栄養成分に寄与する栽培条件の解明	7～13	営農技術
〔生産環境2〕 1 土壌生態系を活用した土壌管理技術の開発 (1) 連作障害を回避する新栽培技術の開発	イ 東北北部中間中山間畑作地帯におけるキャベツの環境保全型栽培技術の開発 (ア) キャベツの環境保全型防除技術の現地普及・定着要因の策定 a キャベツ根こぶ病菌密度の推移と発病度の推移と発病度の実態解析 b 土壌評価に基づく対抗性植物を利用したキャベツ根こぶ病発病抑止効果の評価 c キャベツへのコナガ寄生蜂導入条件の策定 (イ) 検定作物による根こぶ病菌密度推定技術の開発 a 検定作物を用いた根こぶ病の簡易菌密度推定法の確立 (ウ) 短期輪作による環境保全型根こぶ病発生抑止技術の実証（体系化実証）	10～14 10～14 10～12 10～12 10～14	営農技術 営農技術 営農技術 営農技術 営農技術
2 生物間相互作用を利用した生物防除技術の開発 (1) 天敵昆虫を利用した害虫の生物防除法の開発	カ 土地利用型輪作体系における生産性向上制限要因の解明 ア 天敵による施設果菜類の多犯性害虫防除技術の確立 (ア) 寄生蜂によるコナガ防除技術の確立	9～13 8～12	病害虫 病害虫

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
<p>(2) 微生物を利用した害虫の防除技術の開発</p> <p>(3) 拮抗微生物等を利用した病害虫防除技術の開発</p> <p>3 作物の防御機能を利用した病害虫の制御技術の開発</p> <p>(1) 交差抵抗性誘導菌による主要病害防除技術の開発</p> <p>(2) フェロモン等生理活性物質を利用した害虫防除技術の開発</p>	<p>(イ) キュウリにおける天敵を利用したアブラムシ類の総合防除</p> <p>ア 昆虫寄生糸状菌を利用した害虫防除技術の確立</p> <p>(ア) 斑点米カメムシに対する有効糸状菌の探索と効率的施用技術の開発</p> <p>(イ) ピ - マンのアブラムシ類に対する有効糸状菌の探索と施用技術の開発</p> <p>ア 有用拮抗微生物の探索と評価</p> <p>(イ) 生物的防除資材の利用法の確立</p> <p>ア 交差抵抗性誘導菌の利用技術</p> <p>(ア) 非病原性フザリウムを利用したハウレンソウ萎ちょう病の制御技術組み立てと現地実証</p> <p>a 移植栽培技術の検討</p> <p>ア フェロモンを利用した害虫防除技術の確立</p> <p>(ア) 性フェロモンおよび天敵利用を基軸としたリンゴとモモの減農薬防除の確立</p> <p>a 主要害虫に対する省力的更新攪乱技術の確立</p> <p>b 減農薬防除体系下における天敵群の利用技術の確立</p> <p>c 農薬による効率的補完防除技術の確立</p> <p>d 減農薬防除体系におけるマイナー害虫の顕在化の可能性調査</p> <p>e 主要害虫に対する減農薬防除体系の実証・検証</p> <p>(イ) 性フェロモンを利用したストックの害虫防除技術の確立</p>	<p>12～13</p> <p>8～12</p> <p>5～12</p> <p>5～13</p> <p>8～12</p> <p>8～12</p> <p>8～12</p> <p>8～12</p> <p>8～12</p> <p>9～13</p>	<p>環境保全</p> <p>病害虫</p> <p>病害虫</p> <p>病害虫</p> <p>環境保全</p> <p>病害虫</p> <p>病害虫</p> <p>病害虫</p> <p>病害虫</p> <p>病害虫</p>
<p>[生産環境3]</p> <p>1 未利用資源等を活用した低コスト土壌基盤改善技術の開発</p> <p>(1) 土壌蓄積養分有効利用技術の開発</p>	<p>ア 水田土壌における蓄積養分効率的利用法</p> <p>(ア) 水田土壌における土壌中可給態窒素の簡易評価法の確立</p> <p>(イ) 水田土壌における土壌中可給態窒素・交換性カリ含量と作物生育との関係解明</p> <p>(ウ) 土壌蓄積リン酸、カリ利用による減肥技術</p> <p>イ 畑土壌における蓄積養分有効利用法</p> <p>(ア) 畑土壌における土壌中可給態窒素の簡易評価法の確立</p> <p>(イ) 畑土壌における土壌中可給態窒素含量と作物生育との関係解明</p>	<p>9～13</p> <p>9～13</p> <p>8～12</p> <p>9～13</p> <p>9～13</p>	<p>土壌作物栄養</p> <p>土壌作物栄養</p> <p>営農技術</p> <p>土壌作物栄養</p> <p>土壌作物栄養</p>

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室	
(3) 畜産由来資源の有効活用技術の開発	ア 良質堆肥の有効利用技術の確立			
	(ア) 畜産由来資源の特性解明と有効活用技術の確立	9～13	土壌作物栄養	
	(イ) 家畜糞尿施用による地下水汚染防止技術の確立	10～14	土壌作物栄養	
	イ 有機質資材等の施用管理技術の確立			
	(ア) 有機質資材の水田での窒素発現特性	9～13	営農技術	
	(イ) 有機質資材中窒素の水稻による利用率把握	9～13	営農技術	
	(ウ) 有機質資材の水田施用と水質	9～13	営農技術	
	(エ) 有機質資材の環境保全型施用技術総合実証	12～13	営農技術	
	(4) 土壌基盤改善技術の開発	ア 不良土壌基盤の簡易改良技術の開発		
		(ウ) 下層土改良による畑土壌の生産力の向上	9～	土壌作物栄養
(エ) 開発農地の土壌管理技術の確立 a 新規造成畑の早期熟畑化実証(場内)		9～13	営農技術	
2 高位安定生産土壌の維持管理システムの開発				
(1) 簡易土壌診断・栄養診断法の開発と要素欠乏・過剰対策の確立	イ 農作物の要素欠乏及び過剰対策の確立			
	(ア) 要素反応と施肥改善(施肥反応と気象)	S38～ 10～12	土壌作物栄養 営農技術	
	(イ) 微量要素欠乏対策 a りんどうの栄養・吸収モデルの作成	11～14	土壌作物栄養	
(2) 水田土壌の生産力維持管理技術の確立	ア 水田地力富化の実態と適正施肥量指針策定	7～14	環境保全	
(3) 畑土壌、樹園地、桑園の生産力維持管理技術の確立	ア 露地野菜・花き等の土壌管理技術の確立			
	(ア) レタス高生産性土壌管理実証	9～12	土壌作物栄養	
	(イ) りんどうの土壌管理指針作成 a りんどう生産環境実態調査	10～14	土壌作物栄養	
	b りんどう土壌管理指針作成	10～14	土壌作物栄養	
	イ 果樹桑等の永年作物の土壌管理技術の確立			
	(イ) りんご園の土壌管理・有機物施用指針策定	10～14	土壌作物栄養	
(4) 施設園芸における土壌管理技術の確立	ア 施設野菜栽培土壌の塩類集積予防対策と土壌管理技術の確立			
	(ア) 施設栽培における有機物施用基準の策定	5～14	土壌作物栄養	
3 高品質安定生産のための生産環境管理技術の開発				
(1) 作物栄養の気象・土壌反応の解明	ア 水稻の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立			
	(ア) 水稻栄養の気象・土壌反応(作況)	S47～	土壌作物栄養	
	(イ) 水稻作物栄養モデルの作成 a 中生品種	8～12	土壌作物栄養	
	b 晩生品種	8～12	土壌作物栄養	

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
(3) 環境制御による好適栽培技術の確立	イ 野菜、花きの生育予測、栄養診断技術の確立 (ウ) 野菜・花き・畑作物の栄養診断手法の確立 ウ りんご、桑等永年作物の生育予測、栄養診断技術の確立 (イ) りんごわい性樹の栄養診断法 エ 作物栄養生育予測技術の開発と対応技術 (ア) 生育診断予測と対応技術 a 生育栄養診断指標の作成 ア 規模拡大に対応した超省力栽培技術の開発(直播等) (イ) 湛水点播直播栽培の施肥管理技術 (オ) 水稻水耕育苗(ロングマット)における最適環境制御技術の開発 ウ 野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 (イ) 機械化畑輪作導入技術の環境的評価	11～15 9～14 S51～ 11～14 11～14 9～13	土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養
(4) 合理的施肥のための新肥料の開発	ア 合理的施肥のための新肥料の開発 (ア) 新肥料の実用化 a 全量育苗箱施肥法における土づくり肥料の肥効と食味の確認 b 炭化鶏糞の特性把握と育苗資材としての効果確認 c 春植えキャベツに対する緩効性肥料の効果確認 d P・Mgの灌注が水稻苗の生育に及ぼす影響確認 e 水稻における発酵鶏糞配合肥料の肥効確認 f 硝酸石灰追肥によるキャベツの生育促進と品質向上効果確認 g 野菜セル用培土の実用化	S59～ 10～ 9～ 10～ 10～ 11～ 12～ 10～	土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養
〔生産環境4〕 1 農作物の品質低下や生産阻害要因となる各種病害虫の防除法の確立 (1) 重要病害虫の発生生態と防除技術の確立	ア 病害虫発生予察 (ア) 普通作物病害虫発生予察 (イ) 園芸作物病害虫発生予察 イ 水稻の重要病害虫の発生生態と防除技術 (ア) 斑点米カメムシの発生生態解明と防除法の確立 ウ 果樹類の重要病害虫の発生生態と防除技術確立 (ア) リンゴのカメムシ類の発生生態と防除法	S16～ S35～ 12～14 9～13	病害虫 病害虫 病害虫 病害虫

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
(2) 難防除病害虫の発生生態と防除技術の確立	ア 土壌病害、線虫防除技術の確立 (イ) ピーマン青枯病の防除法	7~	病害虫
	エ トマト黄化えそ病防除技術の開発	10~12	病害虫
(3) 新奇病害虫の防除対策確立	ア 中山間地域特産物及び花き類の新奇病害虫の発生生態把握及び防除技術の開発 (イ) リンドウこぶ症の原因究明 (ウ) リンドウチピクロバネキノコバエの防除技術 (エ) ネギ小菌核病の発生実態 (ク) ダイコン白斑病の防除技術 (ケ) 水稻着色米関与菌の解明と防除対策 イ 新奇侵入病害虫の診断法と発生生態解明	9~13 9~13 9~13 9~13 9~13 9~	病害虫 病害虫 病害虫 病害虫 病害虫 病害虫
2 主要病害虫の発生予察法の確立と病害虫防除管理システムの開発			
(1) 主要病害虫の発生予察法の開発	ア 水稻病害虫発生予察支援システムの確立 (イ) イネいもち病の省力的予察手法の確立 イ 野菜花卉病害虫の発生・防除時期予測システムの開発と実証 (カ) リンドウ病害虫総合防除体系の確立と実証 ウ りんご病害虫の発生・防除時期予測システムの開発と実証 (ア) 斑点落葉病発生予察システムの開発	12~15 10~14 3~12	病害虫 病害虫 病害虫
(3) 高品質安定生産に向けた省力防除技術の開発	イ りんご病害虫の省農薬防除体系の確立 (ウ) 主要病害の防除回数削減実証 ウ 野菜病害虫の体系防除技術の確立と実証 (イ) 野菜病害防除体系の改善 a きゅうり病害 エ 無人防除機等の新技術開発と実用化 (イ) RCヘリを利用した野菜病害虫防除技術	10~12 5~13 8~	病害虫 病害虫 病害虫
(4) 農薬抵抗性発現病害虫の実態と対策の確立	ア 薬剤耐性菌検定 (ア) イネばか苗病菌 (イ) リンゴ斑点落葉病菌 イ 薬剤抵抗性発現害虫の実態と対策 (ア) リンゴのハダニ類	S53~ 5~ 9~13	病害虫 病害虫 病害虫
(5) 農薬の作用性・機能の解明と実用化	ア 新農薬の効果検定と防除基準作成	S49~ 9~	病害虫 営農技術
3 効率的な低投入型主要病害虫総合防除技術の開発			
(2) 主要作物品種の病害虫抵抗性評価と利用技術の開発	ア あずきウイルス病抵抗性検定試験 イ とうもろこし煤紋病抵抗性検定試験 ウ ソルガム煤紋病抵抗性検定試験	S53~ S33~ S37~	病害虫 病害虫 病害虫

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
〔畜産環境1〕 1 寒冷地に対応した低コスト糞尿処理技術の確立 (1) 低コストな良質堆肥生産技術の確立	ア 県内における各種堆肥化システムの稼働実態と適応性の解明	12～14	飼料生産
〔保鮮流通1〕 1 農畜産物の品質評価技術および高品質農畜産物生産技術の確立 (1) 農産物の品質評価指標の解明と評価法の確立 (3) 栽培条件と収穫後品質変化との関係の解明 (4) 農産物の栄養成分向上に寄与する栽培条件の解明 2 農産物の流通技術の確立 (2) 農産物の鮮度保持技術の開発 (3) 農産物の低コスト貯蔵技術の開発 (4) 農産物の高鮮度輸送技術の開発	ア 各種農産物の品質評価指標の解明 イ 農産物品質評価手法の開発 (ア) 葉とらずりんごの品質評価手法の開発 ア 栽培条件が収穫後農産物の品質保持性に及ぼす影響の解明 (ア) トマトの高品質生産のための少量土耕栽培技術の確立 b 施肥法等による高品質生産技術 ア 農産物の各種栄養成分含量と土壌環境条件との関係の解明 (ア) ほうれんそうの内部品質向上のための有機物施用等土壌管理技術の確立 イ 岩手特産物の作型・栽培環境の違いによる栄養成分含量の変動 ア MA包装資材等の利用による農産物の低コスト貯蔵・流通技術の開発 (イ) りんごの需要期対応のための短期貯蔵技術の開発 ア 農産物の低温代謝生理の把握と好適予冷貯蔵条件の解明 (イ) 食味本位リンゴの冷温高湿貯蔵技術の確立 イ 岩手型低コスト貯蔵施設による農産物の高鮮度貯蔵技術の開発 (ア) 利雪型高湿冷気循環方式簡易貯蔵庫による農産物の高鮮度貯蔵技術の開発 ア 真空予冷施設等を高度に活用した高鮮度流通技術の開発	11～13 10～14 11～15 10～13 9～12 9～12 12～16 12 11～13	保鮮流通 保鮮流通 保鮮流通 保鮮流通 保鮮流通 保鮮流通 保鮮流通 保鮮流通
〔保鮮流通2〕 1 農産物高度利用のための加工技術の確立 (1) 農産物加工適性の評価技術の確立	ア 栽培条件と農産物加工適性との関係の解明 イ 農産物加工品の品質評価法の確立 (ア) 地域推奨品流通適性化調査分析	9～12 11～12	保鮮流通 保鮮流通

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
(3) 地場農産物の特性を高度に利用した加工食品の開発	ア 地域特産物を利用した加工食品の開発	9～12	保鮮流通
	イ 浅漬等農産物加工品の低コスト・高品質貯蔵技術の開発	9～12	保鮮流通
	エ 加工部門との連携によるだいこん産地の経営改善実証(21世紀農業経営モデル実証試験地)	10～12	保鮮流通
	オ 玄米外皮層を原料としたパン製造技術の開発	12	保鮮流通
	カ 雑穀の粒形を活かした加工品の開発	12～15	保鮮流通
(指導事業関係) 1 加工工房指導業務		9～	保鮮流通
〔乳用牛1〕 1 胚移植及び情報解析技術を活用した高能力牛の生産技術の確立 (1) 胚移植技術を応用した高能力牛の造成	ア 胚移植技術を応用した高能力牛の造成 (イ) 高泌乳・高蛋白牛群に適応した飼養管理技術の確立	10～16	家畜飼養
2 高能力牛群管理技術の確立 (1) 牛群構成に適応した群分け技術の確立	ア 高能力牛群管理システムの確立 (ア) 高能力牛群に適応した飼養管理技術の確立	4～12	家畜飼養
(2) 放牧飼養を組み合わせた群管理技術の確立	ア 制限放牧を組み入れた高能力牛群飼養管理技術の確立	10～12	家畜飼養
〔乳用牛2〕 2 省力群管理施設の利用技術の確立 (2) 完全自動(ロボット)搾乳機等を応用した超省力管理技術の開発	ア 完全自動(ロボット)搾乳機等を応用した超省力管理技術の確立	9～13	家畜飼養
乳用牛群検定情報利用技術		5～	家畜飼養
〔肉用牛1〕 1 産肉能力検定方法の確立による優良種雄牛の作出とその効率利用技術の確立 (1) 黒毛和種産肉能力検定	ア 黒毛和種産肉能力検定(直接法) イ 黒毛和種産肉能力検定(間接法)	S62～ S62～ 8～	種山畜産 種山畜産 家畜育種
	ウ 県有種雄牛の能力調査	9～13	種山畜産
(3) 日本短角種産肉能力検定	ア 日本短角種産肉能力検定(直接法) イ 日本短角種産肉能力検定(間接法)	S45～ S48～	家畜育種 家畜育種
(5) 効率的な精液生産技術の開発	ア 精液の希釈方法を中心とした高位凍結処理技術の確立	9～12	種山畜産

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
〔肉用牛2〕 1 育種価推定システムの確立と分割胚移植技術の活用による優良種畜の大量確保技術の開発 (1) 個体別生涯生産情報を利用した種畜評価技術の確立 (3) 分割胚移植双子による優良種雄牛作出技術の確立	ア 血統情報及び超音波利用による種畜評価技術の確立 ア 分割胚由来一卵性双子を用いた優良種畜作出システムの確立	9～13 9～13	家畜育種 家畜育種
〔肉用牛3〕 1 粗飼料多給による低コスト、高品質肥育技術の開発 (1) 微量成分等の添加及び制御による高品質牛肉生産技術の開発 3 肥育素牛の能力に合致した肥育技術の開発 (1) 肥育素牛の早期能力判定技術の開発 (3) 牛肉の品質評価技術の確立	ア ビタミンA制限による肥育技術の確立 ア 黒毛和種肥育素牛の早期能力判定技術の開発 ア 日本短角種における飼料米給与技術の確立	10～12 8～13 12～13	家畜育種 家畜育種 家畜育種
〔肉用牛4〕 1 夏山冬里飼養方式の確立や子牛の生産性向上等による優良子牛の低コスト生産技術の開発 (1) 放牧を組み入れた低コスト黒毛和種生産技術の確立 (6) 市場評価向上を目指した黒毛和種肥育素牛の集約放牧育成技術の確立	(北上山地における大規模草地の高度利用による放牧牛の集団繁殖・育成管理技術の確立) ア 川井村青松牧野における褐毛和種親子放牧の放牧子牛育成技術の開発 ア 北上山地における公共放牧地の高度利用による黒毛和種肥育素牛の放牧管理技術の確立 (ア) 集約放牧を取り入れた黒毛和種肥育素牛の発育向上技術の開発 a 草種構成と緩効性肥料の組み合わせによる草地生産平準化技術 b 適正輪換放牧方式による発育向上技術 c 放牧草の栄養特性に対応した補助飼料の給与技術 d 放牧育成肥育素牛の肥育特性の解明	10～12 11～15 11～13 11～13 12～15	外山畜産 外山畜産 外山畜産 外山畜産
〔養豚1〕 1 新たな選抜形質・選抜手法確立による寒冷地向き優良交雑豚生産のための純粋種豚の系統造成 (2) 繁殖性に及ぼす遺伝・飼養環境要因の解明と評価法の確立	ア 高能力、高品質、斉一性の高いランドレース種の系統造成	5～12	家畜育種

主要研究課題	小課題・細目課題	研究期間	担当研究室
〔養鶏１〕 １．先端技術の活用による寒冷地向き高品質肉用鶏の開発と飼養技術の確立 (2) 在来の日本鶏を活用した高品質肉用鶏の作出	ア 岩手地鶏、軍鶏の効率的利用による高品質鶏の作出 ア 高能力・高品質ロード種の維持 イ 優良鶏性能調査 ウ 岩手地鶏保存事業	8～12 7～ 2～ S62～	家畜育種 家畜育種 家畜育種 家畜育種
〔草地飼料１〕 １ 地域適応性に優れた粗飼料の草種・品種の選定 (1) とうもろこし系統適応性検定試験 (2) とうもろこし奨励品種決定基本調査 (3) とうもろこし市販品種特性比較試験 (4) 採草用牧草の品種選定試験 ２ 地域適応性に優れた草種・品種の安定生産技術の確立 (1) 利用目的に適合した草種・品種の組合せ技術の確立	ア とうもろこし系統適応性検定試験 ア とうもろこし奨励品種決定基本調査 ア とうもろこし市販品種特性比較試験 ア 採草用牧草の品種選定試験 (ア) オ - チャ - ドグラス (イ) チモシ - (新品種導入等を基幹とした公共草地の高度) 利用技術) ア 採草地の機能強化のための良質粗飼料生産技術の開発 (ア) 新品種導入による標高別採草地の草種・品種の新組み合わせ選定 (イ) 公共草地における低位利用草地の簡易牧草追播機による草生改良技術の確立 イ 開発技術導入による良質粗飼料生産・調製・供給システムの現地実証	9～13 S54～ S54～ 11～13 11～13 9～13 10～13 10～13	飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産
〔草地飼料２〕 １ 牧草・飼料作物の低コスト生産・調製技術の確立 (2) 牧草・飼料作物の低コスト肥培管理技術の確立 (5) 粗飼料の簡易品質評価法の確立 ２ 飼料作物の生育及び生産環境情報の活用による生育診断・制御技術の開発 (1) 牧草・飼料作物の気象感応試験 ３ 低・未利用資源の高度利用技術の開発 (3) 粗飼料資源である野草の有効利用技術の開発	ア 糞尿施用トウモロコシ畑の簡易診断基準の確立 ア 粗飼料の硝酸態窒素簡易測定法の確立 イ 飼料作物簡易播種技術の確立 ア 牧草の気象感応試験 ア シバムギの生態特性の解明	10～14 12～13 10～ S41～ 8～12	飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産
〔草地飼料３〕 ３ 粗飼料安定生産技術の確定 (4) 日本短角種の放牧条件による山林原野の有効活用と水土保持技術の確立	イ 広葉樹林帯を活用した肉用牛放牧における水土保持機能の解明	11～15	外山畜産

(3) 要望課題の実施

凡例 平成11年度： A1=平成12年度実施予定、A2=平成13年度以降実施予定
 B1=現在実施中、B2=県以外の研究機関
 C=既知見あり、D=実施できない

平成12年度： A1=平成13年度実施予定、A2=平成14年度以降実施予定
 B1=現在実施中、B2=県以外の研究機関（a=年度内とりまとめ、b=1～2年後
 とりまとめ、c=しばらくかかる）（B1-a、B2-c等と表記する）
 C=既知見あり、D=実施できない

区分		整理 No.	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
部会名	No.					H11	H12	
総合(経営)	1	1	省力的な農地の利用管理技術の開発(直接支払い制度対応栽培技術開発)	地域農業振興課	農業経営 野菜畑作	B 1 C	B1-b	
総合(経営)	2	4	有機農産物等の生産場の問題点把握と対策の検討	農業普及技術課	農業経営 環境保全	A 1 B 1 C	B1-c B1-b	直売所を対象とした有機農産物等の取り組み実態(H11成果。行政)
総合(経営)	3	8	農村の維持管理について	農村計画課	農業経営	B 1	B1-b	
総合(経営)	4	21	農地開発地における周年営農体系の確立	久慈地方振興局農政 部	やませ利用 農業経営	A 2 B 1 C	A 1 B1-c	21世紀型事業の後期課題(H13～15)でも実施
総合(経営)	6	45	わい性樹の改植モデル指標の設定について	水沢農業改良普及セ ンター	農業経営	B 1 C	C	調査結果をもとに資料提供する
総合(経営)	7	46	養液栽培の経営指標の設定について	水沢農業改良普及セ ンター	農業経営	A 1 B 1	B1-b C	農業経営は経営分析を担当し、資料を提供
総合(経営)	8	48	中山間地域における省力低コスト稲作栽培技術体系の作成	一関農業改良普及セ ンター	農業経営 水田作 生産工学	A 2 C	A 2	信州大の圃場整備計画支援システムを活用する動きがない
総合(経営)	9	51	新規参入による就農要件マニュアルの作成	一関農業改良普及セ ンター	農業経営	B 1 C	B1-b	
総合(経営)	11	66	雨よけほうれんそう栽培における大規模経営体(50～100a)モデルの実証	久慈農業改良普及セ ンター	農業経営 営農技術 産地育成	A 2 B 1 C	A 1 B1-c	H13新規課題
農産	1	68	冷飯食味向上のための混米用品種の開発	経済連	水稻育種 銘柄米開発	A 2 B 1 B 2	A 2 B1-b B 2	
農産	2	15	稲作における直播栽培の安定生産技術の開発及び直播栽培を導入した大規模経営モデルの作出	農産園芸課	水田作 農業経営	B 1	B1-b	

区分		整理 No.	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
部会名	No.					H11	H12	
農産	3	14	飼料用米の生産・利用技術について	農産園芸課 畜産課	水田作 農業経営 家畜育種 飼料生産	A 1 A 2 B 1	B1-b B1-b B1-b	前倒し実施
農産	5	7	水田の汎用化の実証	農村計画課	生産工学	A 1 B 1	B1-c B1-c	
農産	6	9	浅層暗渠排水工法の効果とこれを利用した圃場整備工事コスト縮減工法の確立	農村計画課	生産工学	A 1 B 1	B1-c B1-c	
農産	7	70	転作水田におけるシートパイプ暗渠工法の効果判定	経済連	生産工学	A 1	B1-c	
農産	8	53	堆厩肥のペレット化	大船渡農業改良普及センター	生産工学 土壌作物栄養	B 2 C	B 2	
農産	9	71	キャベツの機械化一貫体系の確立	農産園芸課	営農技術 農業経営 生産工学 野菜畑作 産地育成	A 1 B 1	B1-c B1-a	収穫体系を中心に取りまとめ予定
園芸畑作	1	60	9月下旬～10月上旬のりんごの有望品種の開発について	宮古農業改良普及センター	果樹	B 1	B1-c	
園芸畑作	2	61	りんごの効果的な果面保護剤の検索・開発	宮古農業改良普及センター	果樹	D	D	
園芸畑作	3	33	夏秋きゅうりの急性萎ちょう病の原因解明と対策	農業研究センター専門技術員	野菜畑作 土壌作物栄養 病害虫	A 1 B 1	B1-c B1-c	
園芸畑作	4	34	夏秋きゅうりに発生する急性萎凋症の原因解明と対策	盛岡農業改良普及センター [^]	野菜畑作 土壌作物栄養 病害虫	A 1 B 1	B1-c B1-c	
園芸畑作	5	42	キュウリ接ぎ木苗の穂木と台木の親和性の確認	花巻農業改良普及センター	野菜畑作	B 1	B1-c	
園芸畑作	6	69	トマトのチャック窓あき果の発生の軽減について	岩手県経済連	野菜畑作	A 1	B1-b	
園芸畑作	7	37	施設野菜（トマト）における溶液土耕栽培法（地床利用）の確立	盛岡農業改良普及センター	南部園芸	A 1 B 1 B 2	B1-b B1-c B 2	
園芸畑作	8	20	溶液土耕施設導入における好適品目の探索及び生産技術の確立	久慈地方振興局農政部	産地育成 野菜畑作 南部園芸	A 1 B 1 D	B1-c B1-c D	
園芸畑作	9	64	畑わさびの連作障害対策と優良種苗確保対策	宮古農業改良普及センター	野菜畑作	B 2 D	B 2 D	

区 分		整 理 No.	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備 考 (方針変更理由)
部会名	No.					H11	H12	
園芸畑作	10	38	花芽分化に必要な低温要求量の少ないなばなの品種選定	盛岡農業改良普及センター	南部園芸	B 1	B1-c	
園芸畑作	11	62	「なばな」の早生品種開発について	宮古農業改良普及センター	南部園芸	B 1 B 2	B1-c C	
園芸畑作	12	16	転作田における水田機能を維持した、麦・大豆等畑作物の安定生産技術の確立	農産園芸課	野菜畑作	B 1	B1-b	
園芸畑作	13	49	りんどうのハウス促成向き品種の育成	一関農業改良普及センター	花き	B 1	B1-c	
園芸畑作	14	55	極晩生りんどうの適正管理について	大船渡農業改良普及センター	花き	A 1	B1-a	
園芸畑作	15	59	りんどうの開花調節技術について	宮古農業改良普及センター	花き	B 1	B1-b	
園芸畑作	16	17	地場絹製品向け絹糸の開発	農産園芸課	蚕桑技術	B 1	B1-a C	H11研究成果(普及)
園芸畑作	17	2	菌床シイタケの経済性評価	農業普及技術課	蚕桑技術 農業経営	B 1	B1-c	
園芸畑作	18	56	菌床シイタケ栽培技術体系について	大船渡農業改良普及センター	蚕桑技術 農業経営	B 1 D	B1-b D	
総合 (生産環境)	1	13	有機栽培、減農薬栽培に対応した水稲の栽培法の確立	農産園芸課	環境保全 土壌作物栄養	B 1	B1-a	
総合 (生産環境)	2	12	種子消毒後の薬剤廃液の処理法	農産園芸課	環境保全	B 1 B 2	B1-b B 2	
総合 (生産環境)	3	67	水稲に対する新珪酸肥料(シリカゲル)の肥効確認	県経済連	土壌作物栄養 営農技術	B 1	B1-b	
総合 (生産環境)	4	11	水稲大量種子消毒体系に適合した種子消毒剤の検討	農産園芸課	病虫害	B 1 C	B1-b	
総合 (生産環境)	5	25	水稲初期害虫の隔年防除技術の確立	病虫害防除所	病虫害	A 2 B 1	A 1 A 1	H13新規課題
総合 (生産環境)	7	29	生物農薬を利用した野菜害虫の防除法	病虫害防除所	環境保全	A 1 B 1	B1-b C	H11研究成果(普及)
総合 (生産環境)	8	35	キュウリ黒斑病及び褐斑病に有効な薬剤の選定と効果の判定	盛岡農業改良普及センター	病虫害	B 1	B1-b	
総合 (生産環境)	9	36	キュウリ黒星病防除における2剤混合散布の効果確認	盛岡農業改良普及センター	病虫害	B 1	B1-c	H12未発生のため未実施
総合 (生産環境)	10	24	調理用トマト(クッキングトマト)の加工(保存)方法の検討	二戸地方振興局農政部	保鮮流通技術	B 1 C	B1-a	
総合 (生産環境)	11	28	ねぎ病虫害の発生生態の解明と合理的な防除法の確立	病虫害防除所	病虫害	B 1	B1-c	

区分		整理 No.	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
部会名	No.					H11	H12	
総合 (生産環境)	12	44	りんご園におけるクローバーの窒素固定量とりんご樹への影響について	水沢農業改良普及センター	土壌作物栄養果樹	D	D	
総合 (生産環境)	13	26	りんご主要品種別の最適な病害防除体系	病害虫防除所	病害虫	A 2	A 2	
総合 (生産環境)	14	57	ニッソラン耐性ナミハダニの簡易診断法	遠野農業改良普及センター	病害虫	B 1	B1-c	
総合 (生産環境)	15	27	ハウス栽培及び雨よけトンネル栽培ブドウにおけるハダニ類の合理的な防除法の確立	病害虫防除所	病害虫	A 2	A 1	H13新規課題検討中
総合 (生産環境)	16	22	りんどう圃場における石灰質資材の施用効果	久慈地方振興局農政部	土壌作物栄養花き	B 1	B1-a	
総合 (生産環境)	17	47	りんどうの基肥の年内施肥について	水沢農業改良普及センター	土壌作物栄養花き	A 2 B 2	B1-c B 2	
総合 (生産環境)	18	30	りんどう褐斑病の防除対策	病害虫防除所	病害虫	B 1 C	B1-b	
総合 (生産環境)	19	32	りんどう短茎症(俗称)の原因解明と対策の確立	専門技術員室	病害虫	B 1	B1-c	
総合 (生産環境)	20	50	りんどうこぶ病の防除法確立	一関農業改良普及センター	病害虫	B 1	B1-c	
総合 (生産環境)	21	58	「りんどう」コブ症の原因と対策	宮古農業改良普及センター	病害虫	B 1	B1-c	
総合 (生産環境)	22	5	化学農薬代替資材及び生物農薬の効果の検討	農業普及技術課	環境保全 病害虫	A 1 B 1 C	B1-b B1-c	
総合 (生産環境)	23	3	各種有機物の化学肥料代替としての施用量と施用方法の検討	農業普及技術課	土壌作物栄養 営農技術	B 1 B 2 C	B1-b B1-b	
総合 (生産環境)	24	6	堆肥の品質評価基準の検討	農業普及技術課	土壌作物栄養 営農技術 飼料生産	B 1 B 2 C	B1-a B1-a	
総合 (生産環境)	25	19	堆肥のふ熟度判定基準の確立	久慈地方振興局農政部	土壌作物栄養 営農技術 飼料生産	B 1 C	B1-a	
総合 (生産環境)	26	40	堆きゅう肥品質判定基準の確立	盛岡農業改良普及センター	土壌作物栄養 営農技術	B 1 C	B1-a	
総合 (生産環境)	27	72	堆肥の評価マニュアル作成	水沢地方振興局農政部	土壌作物栄養 営農技術 飼料生産	B 1 B 2 C	B1-a B1-a	

区 分		整 理 No.	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備 考 (方針変更理由)
部会名	No.					H11	H12	
総合 (生産環境)	28	10	農業集落排水汚泥を利用した堆肥化実験とほ場実証試験について	農村建設課	土壌作物栄養	A 1	B1-c	
						A 2	B1-c	
総合 (生産環境)	29	54	主要作物における土壌埋没型養分測定センサー装置の利用技術開発	大船渡農業改良普及センター	土壌作物栄養	B 1	B1-c	
						B 2	B1-c	
畜産	1	18	黒毛和種放牧子牛の産肉性の解明	畜産課	家畜育種	A 1	B1-c	
畜産	2	73	飼料米の肥育飼料としての評価	水沢地方振興局農政部	家畜育種	A 1	B1-b	
						B 1	C	
						B 2	B 2	
						C		
畜産	4	39	とうもろこし畑に発生する強 害雑草(セイヨウヒルガオ、ガ ガイモ等)に有効な薬剤の選 定	盛岡農業改良普及セン ター	飼料生産	D	D	
畜産	5	31	小型反射式光度計による飼料 作物中の硝酸態窒素の簡易測 定法	専門技術員室	飼料生産	A 1	B1-c	
畜産	7	63	県内における各種堆肥化シス テムの実態把握と低コストシ ステムの検討	宮古農業改良普及セン ター	飼料生産	A 1	B1-b	
						C		

4 共同研究の推進

(1) 地域基幹農業技術体系化促進研究

課 題 名	相手方	研 究 期 間	研 究 の 内 容	担当研究室
ア 寒冷地大規模水稲作における省力・安定生産技術	宮城農セ 福島農試 山形農試	8～12	メッシュ土壌情報の高度化および稲作生産環境評価技術の開発	土壌作物 栄養
イ 新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感りんごの生産技術	青森りんご試 山形園試 長野果樹試	12～16	食味本位の果実を安定して省力的に生産・供給する技術の確立	果樹研
ウ 野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術	北海道北見農試 北海道上川農試 福島農試	9～13	岩手県北部山麓地帯における露地野菜を中心とした機械化畑輪作体系の確立	産地育成
エ 新品種の導入等を基幹とした公共草地の高度利用技術	北海道根釧農試 北海道新得畜試 青森畜試	9～13	北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立	飼料生産
オ 東北地域における環境保全型農業を基幹とした重要野菜の安定生産技術	福島農試	10～14	キャベツ根こぶ病を対象とした耕種的対策を含めた総合防除による栽培管理技術の確立	営農技術
カ 寒冷地北部地域における超省力水稲生産技術と地域営農システム	青森農試 秋田農試 宮城農セ	11～14	寒冷地北部地域の気象条件下での水稲の直播栽培技術及び同技術を導入した地域営農システムの確立	水田作
キ ロングマット苗移植・不耕起乾田直播を導入した省力・低コスト生産技術	長野農総試 埼玉農試 茨城農総セ	11～14	水稲のロングマット苗移植・不耕起乾田直播技術を導入した低コスト高生産性水田営農体系を確立	生産工学
ク 不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培技術	栃木農試 愛知農総試	11～15	不耕起・無中耕・無培土技術を中心とした超省力栽培体系の確立による転換畑大豆作の規模拡大	野菜畑作
ケ 中山間地域における産地マーケティングに基づく特産的高付加価値農産物生産技術	青森畑園試	11～15	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立	農業経営
コ 市場評価向上を目指した黒毛和種肥育素牛の集約放牧技術	北海道新得畜試 青森畜試 福島畜試	11～15	放牧肥育素牛の発育改善、肥育成績向上のための技術対策	外山畜産

(2) 先端技術等地域実用化研究促進事業

課 題 名	相手方	研 究 期 間	研 究 の 内 容	担当研究室
ア 優良種畜の安定的大量生産技術の開発	北海道新得畜試 山梨酪農試 兵庫中央農セ 広島畜技セ 島根畜試 徳島畜試 熊本農研セ	10～15	高能力牛胚の大量生産や家畜改良における世代間隔短縮のための核移植技術の開発	家畜工学

課 題 名	相手方	研究 期 間	研 究 の 内 容	担当研究室
イ 性フェロモンおよび天敵利用を基軸としたりんごともも害虫の減農薬防除技術の開発	福島園試 秋田果樹試 長野果樹試	8～12	りんごの主要なリン翅目害虫（キンモンホソガ等）を対象に性フェロモンによる交信攪乱技術や減農薬防除体系化での天敵の利用技術を開発する。	病害虫
ウ りんごわい化栽培における省力・安定生産のためのJM台木利用・早期成園化技術の開発	秋田果樹試 宮城園試 福島果樹試 長野果樹試	11～15	挿し木繁殖性に優れ、高品質果実生産が期待できるJM系わい性台木を利用した低樹高栽培法の確立	果樹
エ 寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立	山形得園試 福島農試 鳥取園試	12～16	寒冷地に適した露地向け花き品目である枝物花木類の栽培技術の確立	花き
オ 大区画水田における低コスト・効果的暗渠排水による汎用化技術の確立	千葉農試 茨城農業総合センタ 埼玉農試	12～14	北東北地方における汎用化水田のための簡易で効果的な暗渠排水技術の確立	生産工学

(3) 21世紀型農業経営モデル実証試験

課 題 名	振興局 (地 区)	研究 期 間	実 証 研 究 課 題	担当研究室
ア 畑地かんがい地帯における野菜、花き等を組み入れた高収益モデル実証	盛岡 (一方井)	10～12	(1) 畑地かんがいを活用した高生産営農の実証 (2) 有機質資源の活用指針の作成と実証 (3) 地域ぐるみ農業展開方策の検証	営農技術 農業経営
イ 転作田を活用した、ぶどう新品種導入による高品質、生産安定、省力栽培法の確立実証	花巻 (矢沢)	10～12	(1) ブドウ新品種導入による高品質、生産安定、省力栽培法の確立実証	果樹
ウ 大区画ほ場整備地区における園芸・水稲複合型集落営農モデルの実証	北上 (二子)	10～12	(1) ほ場整備地区における「地域ビジョン」の策定支援 (2) 大規模低コスト稲作生産システムの形成実証 (3) 転作田の高度活用による「さといも」の安定生産技術の実証	農業経営 生産工学 野菜畑作
エ 稲作地帯における土地利用型水田営農システムの確立	水沢 (胆沢町)	10～12	(1) 大区画水田における米の低コスト生産新技術の実証（100a） (2) 土地利用型作物の高品質安定生産技術の実証 (3) 土地利用型水田営農モデルの作成	水田作 生産工学 野菜畑作 農業経営
オ 稲作地帯における園芸省力安定生産モデル経営の実証	一関 (花泉町)	10～12	(1) 園芸省力安定生産モデル経営の実証	野菜畑作
カ 藤崎地区における灌漑による野菜や花きを取り入れたモデル経営の実証	千厩 (藤沢町・川崎村)	10～12	(1) 野菜、花き等のかんがいによる栽培実証試験（藤沢町、川崎村 各2カ所）	南部園芸
キ 沿岸中山間地における園芸省力安定生産モデル経営の実証	大船渡 (住田町)	10～12	(1) 施設型野菜の省力安定生産システムの開発実証	南部園芸
ク 転作田への高収益作物の導入促進のための野菜（キャベツ等）の栽培実証	遠野 (松崎町)	10～12	(1) キャベツ安定生産技術の実証 (2) キャベツ生産拡大のための省力栽培実証 (3) キャベツ導入経営モデルの確立	野菜畑作 農業経営

課 題 名	振興局 (地 区)	研 究 期 間	実 証 研 究 課 題	担当研究室
ケ 加工部門との連携によるだ いこん産地の経営改善実証	釜石 (和山高原)	10～12	(1) 加工部門との連携によるだ いこん産地の経営 改善実証	保鮮流通 南部園芸
コ 川井村青松牧場における褐 毛和種親子放牧の放牧子牛育 成技術の開発	宮古 (川井村)	10～12	(1) 褐色和種子牛生産に係る基礎調査 (2) 放牧期間中の子牛の増体確保技術の確立 (3) 離乳・退牧後の舎飼期の子牛の飼養方法の検 討	外山畜産 家畜育種
サ 農地開発地における持続型 高収益野菜モデル経営の実証	久慈 (普代村)	10～12	(1) 農地開発地における持続型高収益野菜モデル 経営の実証	やませ利用 農業経営 営農技術
シ 県北中山間地域における花 き品目導入による農業経営の 確立実証	二戸 (一戸町 小友)	10～12	(1) 中山間地域における花き品目導入による農業 経営の確立	産地育成

(4) 岩手県生物工学研究所との共同研究

課 題 名	担当研究室
いもち病抵抗性関連遺伝子を導入した水稻系統のいもち病抵抗性評価	応用生物工学
りんどう病原ウイルス(CMV等)の検出・診断技術の利用	応用生物工学
トマト黄化えそウイルス(TSWV)の検出・診断技術の確立及び利用	病害虫
耐病性遺伝子を導入したりんごの糸状菌病抵抗性評価	応用生物工学
ピーマン病原ウイルス(PMMV)の検出・診断技術の利用	応用生物工学
なす科作物青枯病菌の検出・診断技術の利用	応用生物工学

(5) 大学との共同研究

課 題 名	相手方	研 究 期 間	研 究 の 内 容	担当研究室
ア 雑穀の食品機能及び遺伝 子解析研究と地域連携食品 開発	岩手大学	11～13	雑穀(キビ、アワ、ヒエ等)の脂質代謝改善機能 成分等の探索、遺伝子解析による品種識別法の解 明、省力栽培技術の確立並びに地元食品企業と連 携した新加工食品の開発研究について調査検討す る。	やませ利用
イ カイコ及び野蚕からの新 規機能性物質の利用開発	岩手大学	12～15	カイコの抗カビ性物質や天蚕の睡眠制御物質、天 蚕フィブロインからの化粧品等の新機能性物質と 関連化合物を農業生産場面で効率的に利用する方 法と医療場面で有効に活用する方法を開発する。	蚕桑技術

(6) A F R研究会

名 称	構 成	研 究 期 間	担当研究室
花卉育種研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	花き
土地改良研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	農業経営
昆虫機能利用研究会	岩手大学農学部、農業研究センター、岩手医大、生物工学研究所	10～	蚕桑技術
植物育種研究会	岩手大学農学部、教育学部、生物工学研究所、東北農業試験場、 農業研究センター	10～	水稻育種 銘柄米開発
機能性食品研究会A	岩手大学農学部、工業技術センター、農業研究センター	10～	やませ利用
機能性食品研究会B	岩手大学農学部、工業技術センター、農業研究センター	10～	野菜畑作

名 称	構 成	研 究 期 間	担当研究室
農作業システム自動化研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	生産工学
農作物ウイルス病診断防除研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	病害虫
乳牛の周産期疾患研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	家畜飼養
畜産汚水処理実用化研究会	岩手大学農学部、農業研究センター、金ヶ崎町、高度技術振興協会、 アクアマックスセンター中部、佐賀建設、システム・クリエイト、 大町モータース	10～	家畜飼養 飼料生産
水稻栽培研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	11～	水田作
果樹栽培研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	11～	果樹
リンドウ研究会	岩手大学農学部、東北農業試験場、農業研究センター、安代町 花き開発センター	11～	応用生物工学
植物耐冷性研究会	岩手大学農学部、農研センター、生物工学研究所	12～	水稻育種 水田作
雑穀の病害虫に関する研究会	岩手大学農学部、農研センター	12～	病害虫 営農技術

5 研究レビュー

開催月日	場 所	内 容
13. 2.14	本部 中会議室	<p>レビュー分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畑作物分野及び水田農業分野 ・酪農分野 <p>外部委員：農林水産省農業研究センタープロジェクト研究チーム 第1チーム長 小野信一 岩手県経済農業協同組合連合会 営農技術室 技術参与 岡島正明 農林水産省東北農業試験場 畜産部長 名久井 忠 東北大学大学院農学研究科 応用生命科学専攻 教授 小原嘉昭</p> <p>行政委員：農政企画課 主任農政企画主査 高橋伸夫 農業普及技術課 課長補佐 武田真一</p>

6 現地試験の実施

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室	
良質・良食味米生産技術の実証	花巻市	西宮野目	農産部	水田作研究室
良質・良食味米生産技術の実証	江刺市	稲瀬		水田作研究室
良質・良食味米生産技術の実証	紫波町	水分		水田作研究室
良質・良食味米生産技術の実証	雫石町	御所		水田作研究室
良質・良食味米生産技術の実証	前沢町	古城		水田作研究室
良質・良食味米生産技術の実証	北上市	飯豊		水田作研究室
良質・良食味米生産技術の実証	胆沢町	北大畑平		水田作研究室
良質・良食味米生産技術の実証	東和町	前田		水田作研究室
良質・良食味米生産技術の実証	一関市	中里		水田作研究室
良質・良食味米生産技術の実証	水沢市	北常磐		水田作研究室
良質・良食味米生産技術の実証	石鳥谷町	中寺林		水田作研究室
良質・良食味米生産技術の実証	西根町	田頭		水田作研究室
良質・良食味米生産技術の実証	九戸村	荒谷		水田作研究室
奨励品種決定現地調査(水稲)	遠野市	青笹		水田作研究室
奨励品種決定現地調査(水稲)	花巻市	矢沢		水田作研究室
奨励品種決定現地調査(水稲)	西根町	大更		水田作研究室
奨励品種決定現地調査(水稲)	山田町	荒川		水田作研究室
奨励品種決定現地調査(水稲)	紫波町	大巻		水田作研究室
奨励品種決定現地調査(水稲)	紫波町	南日詰		水田作研究室
奨励品種決定現地調査(水稲)	雫石町	上野		水田作研究室
奨励品種決定現地調査(水稲)	沢内村	前郷	水田作研究室	
稲作地帯における土地利用型水田営農システム確立	胆沢町	鞍骨	水田作研究室	
大区画湛水直播による低コスト稲作技術の確立	花巻市	宮野目	水田作研究室	
不良環境地帯向け品種の開発	沢内村	高下	水稲育種研究室	
ロングマット水耕苗現地実証試験	北上市	滑田	生産工学研究室	
ロングマット水耕苗現地実証試験	石鳥谷町	新堀	生産工学研究室	
ドレーンレイヤー工法現地実証試験	花巻市	鍋倉	生産工学研究室	
超低圧パイプラインシステムの実証	千厩町	奥玉	生産工学研究室	
重機の走行が圃場整備後の土壌均一性に与える影響の解明	宮守村		生産工学研究室	
重機の走行が圃場整備後の土壌均一性に与える影響の解明	江刺市	袖野	生産工学研究室	
奨励品種決定現地調査(水稲)	一関市	巖美町	銘柄米開発研究室	
奨励品種決定現地調査(水稲)	花巻市	花巻	銘柄米開発研究室	
奨励品種決定現地調査(水稲)	胆沢町	小山	銘柄米開発研究室	
奨励品種決定現地調査(水稲)	藤沢町	新沼	銘柄米開発研究室	
奨励品種決定現地調査(水稲)	陸前高田市	竹駒	銘柄米開発研究室	
穂いもちほ場抵抗性特性検定	金ヶ崎町	六原	銘柄米開発研究室	
オリジナル水稲糯品種開発に係る用途別特性の把握	紫波町	日詰	銘柄米開発研究室	
転作田を活用したぶどう新品種導入による高品質、生産安定、省力栽培法の確立実証	花巻市	矢沢	園芸畑作部	果樹研究室
りんご新台木の現地適応性試験	二戸市	湯田		果樹研究室
りんご新台木の現地適応性試験	紫波町	矢巾		果樹研究室
りんご新台木の現地適応性試験	宮古市	内の沢		果樹研究室
りんご新台木の現地適応性試験	江刺市	小倉沢		果樹研究室
りんご新台木の現地適応性試験	一関市	花巻中央		果樹研究室
麦・豆奨励品種決定現地調査	紫波町	水分		野菜畑作研究室
麦・豆奨励品種決定現地調査	前沢町	古城		野菜畑作研究室

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室	
麦・豆奨励品種決定現地調査	東山町	長坂	園芸畑作部	野菜畑作研究室
麦・豆奨励品種決定現地調査	藤沢町	要害		野菜畑作研究室
大区画圃場整備地区における園芸・水稲複合型集落営農モデル実証	北上市	二子		野菜畑作研究室
稲作地帯における園芸省力安定生産モデル経営の実証	花泉町	永井		野菜畑作研究室
転作田への高収益作目の導入促進のための野菜栽培実証	遠野市	松崎町		野菜畑作研究室
高品質機械化輪作栽培技術の実証	玉山村	下田		野菜畑作研究室
不耕起大豆の超省力安定栽培技術の確立	玉山村	下田		野菜畑作研究室
不耕起大豆の超省力安定栽培技術の確立	北上市	相去		野菜畑作研究室
りんどうのF ₁ 品種の均一性に関する試験	石鳥谷町	北寺林		花き研究室
沖縄系小ぎくの現地適応性調査	北上市	下江釣子		花き研究室
いわて型養蚕の実証	花泉町	油島	蚕桑技術研究室	
藤崎地区における灌漑による野菜を取り入れたモデル経営の実証	川崎村	藤崎	南部園芸研究室	
沿岸中山間地における園芸省力安定生産モデル経営の実証	住田町	世田米	南部園芸研究室	
水稲における環境保全型農業の総合組立	一関市	萩荘	生産環境部	環境保全研究室
水稲における環境保全型農業の総合組立	雫石町	御明神		環境保全研究室
水稲における環境保全型農業の総合組立	玉山村	下田		環境保全研究室
水稲における環境保全型農業の総合組立	軽米町	山内		環境保全研究室
水稲における環境保全型農業の総合組立	平泉町	北沖		環境保全研究室
水田地力富化の実態と適正施肥量指針策定	平泉町	北沖		環境保全研究室
有機農産物生産条件の解明	胆沢町	若柳		環境保全研究室
有機農産物生産条件の解明	矢巾町	広宮沢		環境保全研究室
有機農産物生産条件の解明	石鳥谷町			環境保全研究室
天敵による施設果菜類の多犯性害虫防除技術の確立	江刺市	愛宕		環境保全研究室
転作麦専用肥料の肥効確認	花巻市	湯口		土壌作物栄養研究室
わい化りんごの有機物施用量基準設定	江刺市	西部地域		土壌作物栄養研究室
りんどうの土壌・施肥管理指針策定	九戸村			土壌作物栄養研究室
りんどうの土壌・施肥管理指針策定	安代町			土壌作物栄養研究室
性フェロモン及び天敵利用を機軸としたリンゴとモモの減農薬防除の確立	花巻市	外台		病害虫研究室
りんご病害の省農薬防除体系の確立	花巻市	外台		病害虫研究室
新農薬の効果検定と防除基準作成	江刺市	愛宕		病害虫研究室
新農薬の効果検定と防除基準作成	浄法寺町	馬場		病害虫研究室
新農薬の効果検定と防除基準作成	岩手町	黒内		病害虫研究室
新農薬の効果検定と防除基準作成	北上市	相去	病害虫研究室	
新農薬の効果検定と防除基準作成	雫石町	御明神	病害虫研究室	
新農薬の効果検定と防除基準作成	滝沢村	砂込	病害虫研究室	
雨よけほうれんそうの有機物施用基準設定	西根町		保鮮流通技術研究室	
簡易牧草種子追播機による草生改良技術実証	玉山村	山谷川	畜産研究所	飼料生産研究室
簡易牧草種子追播機による草生改良技術実証	山形村	日野杉		飼料生産研究室
簡易牧草種子追播機による草生改良技術実証	岩泉町	大牛内		飼料生産研究室
簡易牧草種子追播機による草生改良技術実証	滝沢村	花平		飼料生産研究室
北上山地における黒毛和種繁殖経営の体系化現地実証	遠野市	貞任	県北農業研究所	外山畜産研究室
畜産由来資源の有効活用技術の開発	軽米町	山内		営農技術研究室
畜産由来資源の有効活用技術の開発	軽米町	米田		営農技術研究室
土壌蓄積リン酸・カリ利用による施肥リン酸・カリ減肥	軽米町	高家		営農技術研究室
土壌蓄積リン酸・カリ利用による施肥リン酸・カリ減肥	久慈市	大川目		営農技術研究室

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
土壌蓄積リン酸・カリ利用による施肥リン酸・カリ減肥 全量育苗箱施肥法における土づくり肥料の肥効と食味の 確認	九戸村 軽米町	山根 山内	県北農業研究所 営農技術研究室 営農技術研究室
畑地かんがい地帯における野菜・花き等の高収益モデルの 実証	岩手町	一方井	営農技術研究室
作型を利用したレタスの無農薬栽培技術	一戸町	奥中山	営農技術研究室
作型を利用したレタスの無農薬栽培技術	遠野市	青笹	営農技術研究室
有機質肥料の肥効確認	軽米町	山内	営農技術研究室
ほうれんそう収穫・調整機械の開発・改良	西根町	田頭	営農技術研究室
短期輪作による環境保全型根こぶ病発病抑止技術の実証	西根町	焼走	営農技術研究室
岩手酒 5 2 号の栽培特性調査	二戸市	金田一	営農技術研究室
岩手酒 5 2 号の栽培特性調査	西根町	大更	営農技術研究室
岩手酒 5 2 号の栽培特性調査	玉山村	元好摩	営農技術研究室
たばこ作低コスト超省力機械化体系現地実証	浄法寺町	漆沢	営農技術研究室
ヒエ・アワの省力機械化調製技術実証	軽米町	野場	営農技術研究室
高付加価値花きの生産技術の現地実証	二戸市	上斗米	産地育成研究室
野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術の 実証	大野村	帯島	産地育成研究室
県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の 確立	一戸町	小友	産地育成研究室
りんどう新肥料の肥効調査	軽米町	山内	産地育成研究室
かけはしの栽培法	大野村	阿子木	やませ利用研究室
水稻奨励品種決定現地調査	種市町	宿戸	やませ利用研究室
水稻奨励品種決定現地調査	浄法寺町	浄法寺	やませ利用研究室
雑穀類の高付加価値技術	軽米町		やませ利用研究室
麦・豆奨励品種決定現地調査	玉山村	下田	やませ利用研究室
大規模野菜専作経営の実証と持続型産地育成	普代村	和野山	やませ利用研究室

III 試験研究の成果

1 試験研究成果

区分	農産部門	園芸畑作部門	畜産部門	総合部門	計
普及	4	19	5	1	29
指導	9	27	7	1	44
行政	10	4	2	3	19
研究	3	18	4	3	28
計	26	68	18	8	120

試験研究成果の区分

- 1 普及（普及に移しうる成果）
農家等へ普及することによって、経済効果や経営改善等が見込まれる成果。
- 2 指導（技術指導に参考となる成果）
普及員等指導者の技術指導上の参考として適当と認められる成果。
- 3 行政（行政施策等に反映すべき成果）
行政からのニーズに対応した研究成果等で、行政施策の企画等に参考になると認められるもの。
- 4 研究（技術開発に有効な成果）
新しい技術の試みで、今後の試験研究により技術に仕上げられる可能性のあるもの及び技術の基礎的知見、研究手法等に関するもの。

【普及（普及に移しうる成果）】

部門	No.	成 果 名	提案研究室
農 産 部 門	1	品種 早生水稲 良質良食味と耐冷性を兼ね備えた「岩南16号」	やませ利用 水田作 銘柄米開発
	2	酒造好適米品種「吟ぎんが」の栄養診断基準の策定	銘柄米開発 水田作
	3	酒造好適米品種「ぎんおとめ」の生育・栄養診断基準と栽培法	営農技術 やませ利用 水田作
	4	平成13年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤	水田作 銘柄米開発
園 芸 畑 作 部 門	5	品種 小麦 製めん適性に優れる「東北206号」	野菜畑作 やませ利用
	6	平成13年度雑草防除基準に採用した果樹除草剤	果樹
	7	りんご「きおう」の表面色カラーチャートによる収穫適期判断（追補）	果樹
	8	りんごの新しい性台木「JM1」、「JM7」の耐水性	果樹
	9	ぶどう「安芸クイーン」及び「ノースレッド」の花振るい防止法 - メピコートクロリド液剤による花振るい防止 -	果樹
	10	複合交信攪乱剤を利用したりんご主要害虫防除	病害虫
	11	りんご早生品種「きおう」の高鮮度短期貯蔵技術	保鮮流通技術
	12	品種 きゅうり 耐病性・多収型の「夏ばやし」	野菜畑作
	13	良食味えだまめ品種「滝系C8」の長期継続出荷技術	野菜畑作
	14	ハウス栽培なばなのコナガ防除における性フェロモン剤の使用回数削減（追補）	環境保全
	15	ストロピルリン系殺菌剤耐性きゅうりべと病菌の発生と対策	病害虫
	16	生物農薬「非病原性エルビニア・カロトポーラ」製剤の特性と使用上の留意点	病害虫

部門	No.	成 果 名	提案研究室
園芸畑作部門	17	キャベツ根こぶ病に対するおとり作物としてのエンバク（ハイオーツ）の効果と利用法	営農技術
	18	品種 だいこん 6月播種に適した高品質な「貴宮」	産地育成
	19	ジベレリン利用によるりんどうの株養成期間短縮技術	花き
	20	品種 夏秋ぎく系小ぎく「CM1」（黄色 スプレー咲き）	花き
	21	品種 夏秋ぎく系小ぎく「CM3」（白色 スプレー咲き）	花き
	22	品種 夏秋ぎく系小ぎく「CM7」（桃色 スプレー咲き）	花き
	23	品種 秋ぎく系小ぎく「CM8」（黄色 スプレー咲き）	花き
畜産部門	24	産肉性と強健性に優れた新ランドレース種系統豚の造成	家畜育種
	25	乳牛の分娩前における飼料の段階的増量給与による周産期予防	家畜飼養
	26	品種 飼料用とうもろこし中生品種「35G86（パイオニア108日）」	飼料生産
	27	簡易牧草追播機利用による簡易草地更新法	飼料生産
	28	ソルガムのロールラップ作業体系による収穫調整技術	飼料生産
総合	29	平成13年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤・殺菌剤	病害虫

【指導（技術指導に参考となる成果）】

分野		成 果 名	提案研究室
農産部門	1	水稲育苗において出芽抑制を引き起こす浸種条件	水田作
	2	平成12年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	水田作 銘柄米開発 土壌作物栄養 病害虫 やませ利用
	3	水稲主要品種の玄米白度に関与する要因	水田作 銘柄米開発 やませ利用
	4	水稲除草剤データベース	水田作
	5	イネいもち病の無防除栽培が可能となる立地条件と施肥基準	環境保全
	6	葉いもち予防剤の育苗箱施用による河川への薬剤成分流出の低減化	環境保全
	7	イネいもち病防除を対象とした育苗箱施用剤の持続効果	病害虫
	8	家畜ふん堆肥の秋施用効果	営農技術
	9	水稲における岩手町大規模養豚団地産発酵豚ぶんの利用法	営農技術
園芸畑作部門	10	りんご「きたろう」の果実特性	果樹
	11	ぶどう「安芸クイーン」の栽培法 - 適性樹相と着果量 -	果樹
	12	ぶどう「紅伊豆」の垣根仕立てにおける台木利用法	果樹
	13	りんご各種殺菌剤に対するポリオキシエチレン脂肪酸エステル系展着剤の添加効果	病害虫
	14	TPI法によるトマト、ピーマン等の青枯病の診断	応用生物工学
	15	だいこん収穫機の作業特性及び導入基準	生産工学 営農技術 農業経営
	16	生食用中玉トマトの品種特性	野菜畑作
	17	プレハブ冷蔵庫利用による種用さといもの安定貯蔵技術	野菜畑作
	18	雨よけトマトの低段密植による不耕起連続栽培法	南部園芸
	19	チェーンポット苗移植栽培と非病原性フザリウム菌の組み合わせによるハウレンソウ萎凋病防除技術	環境保全 病害虫
	20	ピーマン黄化えそ病の発生特徴と伝染源	病害虫
	21	漬物用芭蕉菜の辛み成分含量の変動	保鮮流通技術
	22	キャベツ及びスイートコーンにおける岩手町大規模養豚団地産発酵豚ぶんの利用法	営農技術

分野		成 果 名	提案研究室	
園 芸 畑 作 部 門	23	ほうれんそう調製機の作業特性と省力効果	営農技術	
	24	だいこんのマルチ同時播種機の作業特性	営農技術 生産工学	
	25	支柱栽培による調理用トマトの作業軽労化技術	産地育成	
	26	スターチス・シヌアータに発生するウィルス病	応用生物学 花き	
	27	オリエンタル系ゆりプレルーティング処理球の二度切り栽培特性	花き	
	28	トルコギキョウの春出し作型における播種期	花き 南部園芸	
	29	光反射マルチによるトルコギキョウえそモザイク病の抑制効果	花き 応用生物学 病害虫	
	30	採花年早生りんどうに対する石灰質資材施用効果	土壌作物栄養	
	31	キク矮化病の発生実態と対策	病害虫	
	32	ガーデニング用素材としての中輪系シクラメンの栽培法	産地育成	
	33	座繰り糸・つむぎ糸による製品製作	蚕桑技術	
	34	交雑三眠蚕を利用した細織度繭糸素材の生産技術	蚕桑技術	
	35	採卵用天蚕に見られる天蚕微粒子病原検出数の最近の推移	蚕桑技術	
	36	切繭調査による繭品質の推定	蚕桑技術	
	畜 産 部 門	37	酪農経営への搾乳ロボットの導入条件	農業経営
		38	日本短角種産能力検定（直接法）成績	家畜育種
39		日本短角種産能力検定（間接法）成績	家畜育種	
40		シバムギの飼料価値	飼料生産 家畜飼養	
41		黒毛和種親子放牧における子牛の発育向上対策	外山畜産	
42		褐毛和種放牧子牛の発育特性と別飼方法	外山畜産	
43		県有種雄牛の産子枝肉成績及び育種価推定	種山畜産	
総合	44	平成 12 年度県内家畜ふんたい肥の成分特性	土壌作物栄養	

【行政（行政施策等に反映すべき成果）】

分野		成 果 名	提案研究室
農 産 部 門	1	圃場整備地区における水路・法面などの維持管理の状況と課題	農業経営
	2	平成 13 年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査新規供試系統候補	水田作 銘柄米開発 やませ利用
	3	平成 12 年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査結果	水田作 銘柄米開発 やませ利用
	4	平成 13 年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種
	5	平成 13 年度水稲新配布系統(候補系統)	銘柄米開発
	6	水稲玄米の貯蔵条件と食味の経時変化	水稲育種
	7	「かけはし」のブレンド適性	水稲育種
	8	水稲ロングマット水耕育苗法	生産工学 水田作 土壌作物栄養 病害虫 農業経営
	9	自然圧パイプラインシステムの実用性	生産工学
	10	ほ場均平度自動測定システムの開発・改良	生産工学

分野		成 果 名	提案研究室
園芸畑作	11	加工用もも「もちづき」の果実特性	果樹
	12	推進野菜品目の需要動向	農業経営
	13	えだまめ採種における安定生産技術	野菜畑作 やませ利用
	14	平成 12 年度繭品質評価成績	蚕桑技術
畜産	15	黒毛和種産肉能力検定(間接法)成績	種山畜産
	16	円形堆肥化装置の牛ふん尿堆肥化特性と導入条件	農業経営 土壌作物栄養 飼料生産
総合	17	グリーン・ツーリズム情報検索システム	農業経営
	18	青年農業者の就農要因及び支援方策	農業経営
	19	ふるさと食品の品質 (1)県産果実飲料	保鮮流通技術

【研究(技術開発に有効な成果)】

分野		成 果 名	提案研究室	
農産部門	1	圃場整備事業地区にみられる組織営農の評価と課題	農業経営	
	2	岩南 23 号、岩南 25 号の穂もち耐病性	銘柄米開発	
	3	低アミロース系統の混米による食味特性の変化	銘柄米開発	
園芸畑作部門	4	春化处理した秋播き性小麦の生育反応	野菜畑作	
	5	県南部における平成 1 2 年産大豆の子実小粒化要因	野菜畑作	
	6	りんご「きおう」の再分化系	応用生物工学	
	7	J M 7 台木に発生したリンゴ根頭がんしゅ病の病徴と診断法	病害虫	
	8	ピーマンにおける肥効調節型肥料を利用した減肥技術	土壌作物栄養	
	9	初期溶出抑制肥効調節型肥料を利用したピーマンの局所施肥技術	土壌作物栄養	
	10	レタス無農薬栽培における病害虫の発生(6~7月穫り)	営農技術 環境保全 病害虫	
	11	花き小売店におけるスプレーぎくの選好度	農業経営	
	12	アレンジメントフラワー利用の花の用途と形態	農業経営	
	13	花き専作経営の取り組み品目と類型別経営実態	農業経営	
	14	りんどう採種用親系統の培養による維持法	応用生物工学	
	15	りんどう採種用親系統の葉片培養による増殖法	応用生物工学	
	16	りんどうこぶ症の発生特徴	病害虫	
	17	秋だしバンジーの品種組み合わせによる作期拡大の可能性	産地育成	
	18	極細繊維度三眠蚕「OK39」の性状	蚕桑技術	
	19	三眠蚕品種と四眠蚕品種「日202号」の交雑種・色繭の色素退色防止法	蚕桑技術	
	20	ポリ袋を利用した簡易な1~3齢無菌飼育法	蚕桑技術	
	21	デワノトネリコの挿し木による増殖法	蚕桑技術	
	畜産部門	22	「岩手地鶏」を活用した高品質鶏肉生産のための基礎鶏の作出	家畜育種
		23	日本短角種牛肉の新たな脂肪交雑評価法	家畜育種
		24	経膈採卵した未成熟卵子の輸送方法	家畜工学
25		ウシ核移植再構築胚における体外培養系の比較	家畜工学	
総合	26	直売所におけるレジスターPOSデータの販売管理への活用方法	農業経営	
	27	農作業に適した作業負担評価方法の開発	生産工学	
	28	平成 12 年度県内家畜ふんたい肥の外観評価	土壌作物栄養	

2 フォローアップ

<平成9年度研究成果>

回答数	県庁・出先機関	127
(延べ数)	農業改良普及センター	286
	農業団体	23

(単位：%)

No	研 究 成 果 名	この成果を知っているか			活用したいか	
		知って いる	他の成果 として	初めて 知った	は い	いいえ
【 指 導 (技 術 指 導 に 参 考 と な る 成 果) 】						
1	平成9年における水稻生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	89	6	6	89	11
2	指導資料「いわて純情米品質・食味向上の手引き」	94	0	6	94	6
3	平成9年藤沢町で発生した水稻黄化萎縮病の被害解析	80	0	20	70	30
4	新しい水稻育苗培土の実用性	88	0	13	100	0
5	表層砕土同時田植機の特徴と利用法	74	21	5	79	21
6	野菜栽培管理ピークルの作業特性	79	11	11	68	32
7	りんどう施肥管理機の開発	100	0	0	47	53
8	汎用コンバインの改良とそれを用いたアマランサス収穫法	80	0	20	60	40
9	揺動型比重選別機の改良とそれを用いたアマランサス調製法	80	0	20	80	20
10	水稻オリジナル品種「かけはし」の発育指数(DVI)パラメータの変更	83	0	17	100	0
11	訪花昆虫に影響の少ない蟻酸カルシウムの開花期散布がりんごの結実に及ぼす影響	100	0	0	92	8
12	低温によるりんごの果梗障害が果実の生育に及ぼす影響	100	0	0	93	7
13	わい化りんご園の樹冠下管理に対応した果樹園用中耕除草機の作業特性	93	0	7	86	14
14	醸造用二条大麦の春まき栽培技術	100	0	0	75	25
15	りんどうの有効積算温度による開花予測	100	0	0	75	25
16	りんどう「ポラーノホワイト」の生育不良株の発生防止対策	100	0	0	100	0
17	反射資材の利用によるストックの品質向上技術 (1) 反射フィルムのマルチ利用	78	11	11	88	13
18	簡易調製飼料による蚕の人工飼料育期間の拡大	100	0	0	100	0
19	岩手県における桑の新品種の栽培特性	86	14	0	86	14
20	平成9年春蚕期に異常発生したカイコノウジバエによる蚕繭被害事例	100	0	0	100	0
21	水稻直播栽培を試験的に導入している農家の経営的評価	100	0	0	100	0
22	大区画圃場整備地区における集落営農の促進方策と組織化の効果	75	25	0	100	0
23	りんどうの需要動向分析	100	0	0	100	0
24	きゅうりの無農薬・無化学肥料栽培の収量性	75	0	25	100	0
25	初期溶出抑制肥効調節型肥料による水稻育苗箱全量施肥技術の特徴	91	9	0	45	55
26	りんご樹に対する有機物施用と果実品質	91	0	9	82	18

No	研 究 成 果 名	この成果を知っているか			活用したいか	
		知って いる	他の成果 として	初めて 知った	は い	いいえ
27	県中南部りんどう畑の土壌環境実態	100	0	0	100	0
28	りんどう病害虫の発生予察調査基準	100	0	0	100	0
29	りんご斑点落葉病対象の防除回数削減技術	89	0	11	76	24
30	ほうれんそう土壌病害発生圃場におけるカニ殻発酵資材の使用方法和施用効果	89	11	0	89	11
31	りんご早生品種「さんさ」の鮮度保持 - 冷熱輻射方式貯蔵庫及びM A 包装段ボール箱等の効果 -	100	0	0	47	53
32	りんご「王林」に対する初期溶出抑制肥効調節型肥料の施用効果	89	0	11	63	37
33	黒毛和種放牧子牛のその後の産肉性	100	0	0	80	20
34	日本短角種の遺伝的産肉能力の推移	100	0	0	89	11
35	日本短角種産肉能力検定（直接法）成績	100	0	0	78	22
36	日本短角種産肉能力検定（間接法）成績	100	0	0	89	11
37	受卵牛の選定および受胎に及ぼす各種要因	63	13	25	100	0
38	リードカナリーグラスの栽培と利用	75	0	25	81	19
【 行政（行政施策等に反映すべき成果）】						
101	比重選別機による水稻種子の精選精度向上技術	100	0	0	100	0
102	水稻原種・原々種生産	100	0	0	100	0
103	3 ha 区画ほ場での高性能農業機械及び省力技術体系の実証	87	7	7	79	21
104	水稻奨励品種の年次別データ比較	100	0	0	100	0
105	農業者の情報需要と農業情報ネットワーク整備のポイント	50	0	50	100	0
106	ホップのフキノメイガに対するピフェントリン水和剤の効果と残留性	100	0	0	100	0
107	土壌汚染防止対策によるカドミウム濃度の低下実態	100	0	0	100	0
108	黒毛和種産肉能力検定(間接法)成績	100	0	0	100	0

小数点以下ラウンドのため、合計が100%にならない場合がある。

3 東北農業試験研究成果

< 研究成果情報 >

- ア 良質良食味と耐冷性を兼ね備えた早生水稲新品種候補「岩南 16 号」の育成(銘柄米開発研究室、やませ利用研究室、水田作研究室)
- イ 酒造好適米品種「ぎんおとめ」の生育・栄養診断基準と栽培法(営農技術研究室、やませ利用研究室、水田作研究室)
- ウ 酒造好適米品種「吟ぎんが」の栄養診断基準の策定(銘柄米開発研究室、水田作研究室)
- エ 水稲の玄米白度に関する要因(水田作研究室、銘柄米開発研究室、やませ利用研究室)
- オ 寒冷地水田への家畜ふんたい肥の秋施用が水稲生育及び暗きょ水に及ぼす影響(営農技術研究室)
- カ 採花年早生りんどうに対する石灰質資材施用効果(土壌作物栄養研究室)
- キ イネいもち病無防除栽培が可能となる立地条件と施肥水準(環境保全研究室)
- ク 育苗箱施用剤使用圃場における葉いもち追加防除の判断(病害虫研究室)
- ケ 葉いもち予防剤の育苗箱施用による河川への薬剤成分流出の低減化(環境保全研究室)
- コ モモシンクイガ発生密度に応じたリンゴ園の複合交信攪乱剤利用体系(病害虫研究室)
- サ ストロビルリン系殺菌剤耐性のキュウリバと病菌の発生とその防除対策(病害虫研究室)
- シ アブラナ科野菜根こぶ病に対するおとり作物としてのエンバク(ハイオーツ)の効果(営農技術研究室)
- ス ダイコン収穫機の作業特性及び導入基準(生産工学研究室、営農技術研究室、農業経営研究室)
- セ 寒冷地における水稲ロングマット水耕育苗法(生産工学研究室、水田作研究室、土壌作物栄養研究室、病害虫研究室、農業経営研究室)
- ソ ダイコンのマルチ同時播種機の傾斜地作業特性(営農技術研究室、生産工学研究室)
- タ ほうれんそう調製機の作業特性と省力効果(営農技術研究室)
- チ 搾乳ロボット導入のための乳量水準(農業経営研究室)
- ツ 乳牛の分娩前における飼料の段階的増量給与による周産期病予防(家畜飼養研究室)
- テ ソルガムのロールアップ作業体系による収穫調製技術(飼料生産研究室)
- ト 簡易牧草追播機利用による簡易草地更新法(飼料生産研究室)
- ナ リンゴの新しい性台木「JM1」、「JM7」の耐水性(果樹研究室)
- ニ リンゴ早生品種「きおう」の高鮮度短期貯蔵技術(保鮮流通技術研究室)
- ヌ 雨よけトマトの低段密植による不耕起連続栽培法(南部園芸研究室)
- ネ 支柱栽培による調理用トマトの作業軽労化技術(産地育成研究室)
- ノ ジベレリン利用によるりんどうの株養成期間短縮技術(花き研究室)
- ハ スプレータイプの小ぎく品種「CM」系の育成とその特性(花き研究室)
- ヒ ガーデニング素材としての中輪系シクラメンの栽培法(産地育成研究室)
- フ 座繰り糸、つむぎ糸による製品製作(蚕桑技術研究室)
- ヘ 極細織度三眠蚕品種「OK39」の性状(蚕桑技術研究室)
- ホ 希少昆虫チョウセンアカシジミ植樹デワノトネリコの挿し木による増殖法(蚕桑技術研究室)
- マ エゾリンドウの葉片培養による増殖法(応用生物工学研究室)

アンダーラインは「東北地域新しい技術シリーズ」となったものである。

IV 試験研究成果の発表

1 試験成績書等刊行物

資料番号	表題名	発行年月	ページ数
ISSN 1346-4035	岩手県農業研究センター 研究報告第1号	12.12	50
ISSN 1346-4043	岩手県農業研究センター 研究要報第1号	12.12	114
企画経営12 - No. 1	平成9～10年度試験研究成果 [経営経済関係]	12.11	776
企画経営12 - No. 2	平成12年度試験研究成果	13. 3	250
農産12 - No. 1	平成11年度試験成績書 (農産部水田作研究室)	12. 4	161
農産12 - No. 2	平成12年度水稲作用除草剤第2次適用性試験成績書	12.10	51
農産12 - No. 3	平成11年度試験成績書 (農産部銘柄米開発研究室)	13. 3	101
農産12 - No. 4	平成12年度試験成績書 (農産部銘柄米開発研究室)	13. 3	107
農産12 - No. 5	平成10年度水稲新品種育成試験成績書 (農産部銘柄米開発研究室)	13. 3	105
農産12 - No. 6	平成11年度水稲新品種育成試験成績書 (農産部銘柄米開発研究室)	13. 3	101
農産12 - No. 8	平成11年度試験成績書 (農産部応用生物工学研究室)	12. 4	89
農産12 - No. 9	平成12年度水稲新配布系統参考成績書 (農産部水稲育種研究室)	12. 6	10
農産12 - No.10	平成13年度水稲新配布系統参考成績書 (農産部水稲育種研究室)	13. 2	21
農産12 - No.11	平成9年度水稲新品種育成試験成績書 (農産部水稲育種研究室)	13. 3	157
東北地域基幹産業技術体系化 促進研究 研究成果No. 6	機械の汎用利用・複数作業同時化による特産作物の高品質畑輪作 技術	13. 1	191
園芸11 - No. 1	平成11年度試験成績書(果樹研究室)	12. 4	218
園芸12 - No. 1	平成9年度試験成績書 (蚕桑技術研究室)	13. 3	50
園芸12 - No. 2	平成10年度試験成績書 (蚕桑技術研究室)	13. 3	33
園芸12 - No. 3	平成11年度試験成績書 (蚕桑技術研究室)	13. 3	42
園芸12 - No. 4	平成12年度試験成績書 (蚕桑技術研究室)	13. 3	44
環境10 - No. 4	平成10年度試験成績書(病害虫研究室)	13. 3	112
環境12 - No. 1	平成12年度試験成績書(環境保全研究室)	13. 3	160
畜産12 - No. 1	平成12年度試験成績書 (畜産研究所)	13. 3	98
畜産12	搾乳ロボット ～開発から実用段階へ～	12.10	26
畜産12	部分耕起・播種による飼料生産技術の確立	13. 2	36
畜産12	搾乳牛の集約放牧 ～始めてみませんか、働く牛のために～	13. 3	33
県北12 - No. 1	平成12年度試験研究成績書 (営農技術研究室)	13. 3	233

2 学会等研究報告

部所・研究室名	発表者 氏名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	備考・刊行誌等
企画経営情報部 農業経営研究室	及川 浩一	第28回東北農村生活研究大会	12. 9. 20	農業経営設計システム「クーバー博士」	第28回東北農村生活研究会研究報告集
	村上 和史	平成12年度日本農業経営学会研究大会・第36回東北農業経済学会岩手大会（分科会）	12. 10. 7	岩手県における基盤整備事業の現状と課題	第36回東北農業経済学会岩手大会実績報告書
	菅原 豊司	園芸学会東北支部第20回記念大会	12. 8. 24	りんごの消費対応型生産に向けたりんご選好度に関する研究	園芸学会要旨平成12年東北支部第20回記念大会特集号
	及川 浩一	第43回東北農業試験研究発表会	12. 8. 4	農業経営設計システム「クーバー博士」	東北農業研究第53号
	中森 忠義	第43回東北農業試験研究発表会	12. 8. 4	堆きゅう肥利用に関する耕種農家の意向と流通促進方策	東北農業研究第53号
	佐藤 嘉彦	第43回東北農業試験研究発表会	12. 8. 4	岩手県内の都市農村交流による経済効果	東北農業研究第53号
	菅原 豊司	第36回東北農業経済学会	12. 10. 8	分枝発生型切り花りんどうの細分化市場における希望草姿	第36回東北農業経済学会岩手大会報告要旨
	細田 耕平	第36回東北農業経済学会	12. 10. 8	新規参入就農者の就農動機	第36回東北農業経済学会岩手大会報告要旨
農産部 水田作研究室	工藤 佳徳 他3名	第43回東北農業試験研究発表会	12. 8. 4	ピラゾスルフロンエチル・カフェンストロールジャンボの水深別拡散性と除草効果	東北農業研究第53号
	吉田 宏	日本作物学会第209回講演会	12. 4. 6	登熟機の低温及び遮光がイネ穎果のクロロフィル含量に及ぼす影響	日本作物学会紀事第209回講演要旨

部所・研究室名	発表者 氏名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	備考・刊行誌等
農産部					
水稲育種研究室	畠山 均 他 8 名	第43回東北農業試験研究発表会	12. 8. 4	水稲新品種「岩手酒52号」の特性	東北農業研究第53号
	田村 和彦	日本育種学会第98回講演会	12. 9. 27	稲の耐倒伏に関する遺伝分析	育種学研究第2巻別冊2号
応用生物工学研究室	多田 徹	日本育種学会第97回講演会	12. 4. 2	エゾリンドウの葉片からの不定芽誘導と植物体再生	育種学研究第2巻別冊1号
生産工学研究室	鶴田 正明 他 1 名	第43回東北農業試験研究発表会	12. 8. 4	大区画圃場における流入専用肥料（液肥）施用法	東北農業研究第53号
	鶴田 正明 他 1 名	農業機械学会東北支部第45回研究発表会	12. 10. 13	転作田での弾丸暗渠と明渠の組合せによる営農排水効果	農業土木学会東北支部第45回研究発表会要旨集
	小野寺忠夫 他 1 名	農業機械学会東北支部第45回研究発表会	12. 10. 13	レーザー均平機を用いた均平作業能力	農業土木学会東北支部第45回研究発表会要旨集
	八重樫耕一	第43回東北農業試験研究発表会	12. 8. 4	キャベツ及びハクサイ栽培におけるチェーンポット移植機の作業特性	東北農業研究第53号
	鶴田 正明 他 1 名	農業機械学会東北支部発表会	12. 8. 21	水稲ロングマット水稲育苗装置を利用したほうれんそうの水耕栽培	農業機械学会東北支部報第47号
	八重樫耕一 他 1 名	農業機械学会東北支部発表会	12. 8. 21	キャベツ栽培における乗用型野菜移植機の作業特性	農業機械学会東北支部報第47号
銘柄米開発研究室	荻内 謙吾 他 1 名	第43回東北農業試験研究発表会	12. 8. 4	酒造好適米品種「吟ざんが」の収量構成要素の指標と栽培法	東北農業研究第53号
園芸畑作部 果樹研究室	石川 勝規	園芸学会東北支部第20回記念大会	12. 8. 24	リンゴ「きおう」の収穫機判定技術の開発	園芸学会要旨平成12年東北支部第20回記念大会特集号

部所・研究室名	発表者	学 会	開 催	発 表 課 題 名	備考・刊行誌等
	氏 名	研究会名	年月日		
園芸畑作部 果樹研究室	石川 勝規	園芸学会東北 支部第20回記 念大会	12. 8. 24	リンゴにおける蟻酸カルシウムの摘花効果	園芸学会要旨 平成12年東北 支部第20回記 念大会特集号
	鈴木 哲 他 5 名	第43回東北農 業試験研究発 表会	12. 8. 4	リンゴわい化栽培における計画密植の評価	東北農業研究 第53号
	佐藤 秀継 他 5 名	第43回東北農 業試験研究発 表会	12. 8. 4	リンゴ「ふじ」貯蔵果の非破壊測定による蜜 の消失動向	東北農業研究 第53号
	藤根 勝栄	「ふじ」生誕 60周年記念シ ンポジウム	13. 2. 6	新世紀のリンゴ生産と課題	
	鈴木 哲	「ふじ」生誕 60周年記念シ ンポジウム	13. 2. 6	リンゴわい化栽培における計画密植の評価	
	佐藤 秀継	「ふじ」生誕 60周年記念シ ンポジウム	13. 2. 6	リンゴ「ふじ」貯蔵果の非破壊測定による蜜 の消失動向	
野菜畑作研究室	石川 勝規	寒冷地果樹課 題別研究会	13. 2. 6	新摘花剤のスクリーニング	
	有馬 宏	園芸学会東北 支部第20回記 念大会	12. 8. 24	キャベツの越冬栽培における5～6月どり 栽培技術	園芸学会要旨 平成12年東北 支部第20回記 念大会特集号
	高橋 昭喜 他 1 名	第43回東北農 業試験研究発 表会	12. 8. 4	岩手県における春まき小麦の品種適応性	東北農業研究 第53号
	有馬 宏 他 1 名	第43回東北農 業試験研究発 表会	12. 8. 4	緑肥大豆の播種法別生育特性	東北農業研究 第53号
	高橋 拓也 他 1 名	第43回東北農 業試験研究発 表会	12. 8. 4	良食味・中生エダマメ品種「滝系C8」	東北農業研究 第53号

部所・研究室名	発表者	学 会	開 催	発 表 課 題 名	備考・刊行誌等
	氏 名	研究会名	年月日		
園芸畑作部 花き研究室	阿部 潤	園芸学会東北 支部第20回記 念大会	12. 8. 24	オリエンタル系ユリのプレルーティング 処理球における上根の発生経過と花芽の 分化発達	園芸学会要旨 平成12年東北 支部第20回記 念大会特集号
	渡辺 愛美	第43回東北農 業試験研究発 表会	12. 8. 4	小ぎくの電照による作期拡大技術	東北農業研究 第53号
蚕桑技術研究室	橋元 進 他 1 名	日本蚕糸学会 東北支部第54 回研究発表会	12. 10. 25 ～ 10. 26	三眠蚕と四眠蚕の雑種第二代 (F ₂) の繭質	東北蚕糸研究 報告第25号
	橋元 進 他 1 名	日本蚕糸学会 東北支部第54 回研究発表会	12. 10. 25 ～ 10. 26	三眠蚕と四眠蚕の交雑種の農家による飼育 成績	東北蚕糸研究 報告第25号
	阿部 信治 他 1 名	日本蚕糸学会 東北支部第54 回研究発表会	12. 10. 25 ～ 10. 26	ポリ袋を使った蚕の 1 ～ 3 齢無菌飼育	東北蚕糸研究 報告第25号
生産環境部 環境保全研究室	築地 邦晃	日本植物防疫 協会シンポジ ウム	13. 1. 11	箱施薬による環境負荷の低減 - 葉いもち防除剤の調査結果から -	シンポジウム 講演要旨
	伊藤 美穂 他 3 名	第54回北日本 病虫害研究発 表会	13. 2. 13	イネいもち病の無農薬栽培が可能となる立 地条件と施肥基準	
	築地 邦晃 他 2 名	第54回北日本 病虫害研究発 表会	13. 2. 13	性フェロモン剤利用による施設栽培なばな のコナガ防除	
	池田 昌晃	日本農業気象 学会東北支部 会	12. 7. 27	岩手県北上市成田における30年間の気象の 特徴	
土壌作物栄養 研究室	小野 剛志 他 1 名	火山灰土壌の 生産性とチャ ジ特性国際 シンポジウム	12. 8. 22	金ヶ崎段丘上酸性火山灰に対する畜産堆肥 施用効果	火山灰土壌の 生産性とチャ ジ特性国際 シンポジウム 講演要旨
	佐藤 喬 他 1 名	日本土壌肥料 学会東北支部 発表会	12. 8. 7	高生産性リンドウ生産基盤の土壌理化学性に関す る研究 (第 2 報)	日本土壌肥料 学会講演要旨 集第47号

部所・研究室名	発表者	学 会	開 催	発 表 課 題 名	備考・刊行誌等
	氏 名	研究会名	年月日		
生産環境部 土壌作物栄養 研究室	小野 剛志 他1名	日本土壌肥料 学会東北支部 発表会	12. 8. 7	金ヶ崎台地における畜産由来堆肥と環境保全	日本土壌肥料 学会講演要旨 集第47号
保鮮流通技術 研究室	平瀬 英利 他3名	第43回東北農 業試験研究発 表会	12. 8. 4	リンゴ早生品種「きおう」の鮮度保持	東北農業研究 第53号
	佐藤美佳子 他3名	第43回東北農 業試験研究発 表会	12. 8. 4	ユリ切り花の短期貯蔵法	東北農業研究 第53号
畜産研究所 家畜育種研究室	太田原健二	第50回東北畜 産学会	12. 8. 25	バイパス油脂が黒毛和種去勢牛の産肉性に 及ぼす影響	東北畜産学会報 第50号
	西田 清	第50回東北畜 産学会	12. 8. 25	近赤外分光分析法による日本短角種枝肉の 肉質評価	東北畜産学会報 第50号
家畜工学研究室	鈴木 暁之	第43回東北農 業試験研究発 表会	12. 8. 4	日本短角種におけるウシ筋肉肥大（Double- Muscling）原因遺伝子の変異の同定	東北農業研究 第53号
飼料生産研究室	佐藤 直人	第43回東北農 業試験研究発 表会	12. 8. 4	ロックウール脱臭装置による循環法による 排水対策	東北農業研究 第53号
	三浦賢一郎	東北草地研究 会	12. 10. 26	飼料資源としてのシバムギの可能性	東北草地研究会 報第14号
	齋藤 節男	東北草地研究 会	12. 10. 27	北東北における草種・品種の組み合わせ検討	東北畜産学会報 第50号
外山畜産研究室	増田 隆晴	第50回東北畜 産学会	12. 8. 25	肉用牛親子放牧における子牛専用草地の適 草種選定	東北畜産学会報 第50号
	村上 勝郎	東北草地研究 会	12. 10. 26	黒毛和種の放牧に適した草種	東北草地研究会 報第14号
種山畜産研究室	遠藤 明人	第43回東北農 業試験研究発 表会	12. 8. 4	ロールバールラップサイレージの簡易品質 評価法	東北農業研究 第53号
県北農業研究所	遠藤 征彦	園芸学会東北 支部第20回記 念大会	12. 8. 24	生ごみのコンポスト化とコマツナ等の発芽 生育への影響	園芸学会要旨 平成12年東北 支部第20回記 念大会特集号

部所・研究室名	発表者 氏名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	備考・刊行誌等
県北農業研究所	遠藤 征彦 他5名	日本土壌肥料 学会東北支部 発表会	12. 8. 7	岩手県内畜産由来物を用いたB B有機銘柄の開発 と実用化 第2報 現地実証試験の結果等について	日本土壌肥料 学会講演要旨 集第47号
	遠藤 征彦	全国土地分類 調査現地検討 会	12.10.25	岩手県における土地分類調査成果とその利用に ついて「県における農地土壌調査の歴史と土壌 の重要性」	
営農技術研究室	新田 政司	第43回東北農 業試験研究発 表会	12. 8. 4	平成11年度異常高温が露地野菜への生育に 及ぼした影響と畑地かんがいの効果	東北農業研究 第53号
	高橋 好範 他2名	日本土壌肥料 学会東北支部 発表会	12. 8. 7	寒冷地水田における有機質資材の有効活用法 第1報 秋施用した有機質資材中の窒素の挙動	日本土壌肥料 学会講演要旨 集第47号
産地育成研究室	高橋 好範	東北土壌肥料 協議会藤原研 究奨励賞受賞 記念講演	12. 8. 8	畜産由来肥料データベースの作成と環境に配慮 した利用法	
	大里 達朗	平成12年度東 北地域農林水 産業研究成果 発表会	12. 8. 3	北上山系地域における雑穀を組み入れた普通畑 作物の機械化一貫体系の実証からの提言	東北農業研究 別号第13号
	佐藤 正昭 他2名	第43回東北農 業試験研究発 表会	12. 8. 4	岩手県北地域におけるグラウンドカバーブ ランツの有望品目とその特性	東北農業研究 第53号
	菅野 史拓	園芸学会東北 支部第20回記 念大会	12. 8.24	キャベツの種子重量が生育に与える影響	園芸学会要旨 平成12年東北 支部第20回記 念大会特集号

3 雑誌等投稿

部 所 名	投稿者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲 載 年 月
企画経営情報部	斎藤 恭	基盤整備地区における農家の営農意向と担い手の経営再編	農政調査時報	12.12
	中森 忠義	堆きゅう肥利用に関する耕種農家の意向と流通促進方策	岩手の畜産	12.12
	村上 和史	法人経営における事業の拡大に伴う労働組織編成の変化 - 岩手県のS農産を事例として -	農業経営通信	12. 9
農産部	工藤 佳徳	拡散型除草剤（ジャンボ剤）の湛水深の違いによる有効成分の挙動	植調	13. 1
	鶴田 正明	- 転作田での排水性能を高める - 弾丸暗渠と明渠で排水目標達成	機械化農業	13. 2
園芸畑作部	佐々木 仁	りんごの開花予測と結実促進	果樹だより	12. 4
	石川 勝規	りんごの摘果（花）剤の使い方	果樹だより	12. 5
	鈴木 哲	上手な除草剤の使い方	果樹だより	12. 5
	佐藤 秀継	りんご仕上げ摘果の要点	果樹だより	12. 6
	河田 道子	りんご夏期管理の要点	果樹だより	12. 7
	佐藤 秀継	早生種の着色管理と落果防止剤の使用方法	果樹だより	12. 8
	鈴木 哲	早生種の収穫と中生種の収穫前管理	果樹だより	12. 9
	佐々木 仁	西洋なしの管理と収穫	果樹だより	12.10
	石川 勝規	りんごの秋期樹相診断	果樹だより	12.11
	小野田和夫	平成13年度果樹栽培について	果樹だより	13. 1
	河田 道子	花芽状況からみた生産予測と栽培管理について	果樹だより	13. 2
	小野田和夫	平成12年度果樹関係試験結果から	果樹だより	13. 3
	石川 勝規	ラブタッチを利用した受粉対策 省力的で低コスト	岩手りんごタイムス	12. 4
	石川 勝規	摘葉剤の使い方 省力技術の一つとして	岩手りんごタイムス	12. 8
	小野田和夫	新・改植の基本 適地適産を基本としながら	岩手りんごタイムス	12.12

部 所 名	投稿者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲載 年月
園芸畑作部	鈴木 哲	岩手県における育種の現状と将来	果樹種苗	12.11
	小野田和夫	J M 台木の特性と今後の見通し	青森県りんご育種同好会 育種会報	12. 5
	小野田和夫	21世紀を作る果樹技術	果実日本	13. 1
	佐々木 仁	スグリ	地域資源活用食品加工総 覧	13. 2
	小野田和夫	J M 台木の特性と栽培法	21世紀のりんごのわい化 栽培	13. 3
	作山 一夫	地域特産野菜の施設栽培技術「モミジガサ」	施設と園芸	13. 2
	山田 修	週末ガーデナーのこだわり野菜づくり	NHK趣味の園芸	13. 3
	阿部 信治	大東町天蚕飼育農家についてのコメント	農業共済新聞岩手版	12. 7
	土田 泰輔	岩手県におけるトルコギキョウの秋冬出し栽培 技術	農耕と園芸	12. 6
	生産環境部	築地 邦晃	天敵を利用した施設トマトのオンシツコナジラ ミ防除 - 害虫を管理する考え方で -	農業普及
小野 剛志		堆肥を活用した土づくりと化学肥料の低減に 向けて	農業普及	12.12
高橋 良学		りんご園の土づくり	果樹だより	12.12
藤沢 巧		平成13年度病害虫防除基準の改正点について	果樹だより	13. 1
藤沢 巧		今年度採用の新殺ダニ剤の使用法と留意点	果樹だより	13. 3
藤沢 巧		りんごを加害するカメムシ類の生態と防除	果樹だより	13. 3
猫塚 修一		りんご炭そ病の発生と防除	果樹だより	12. 7
猫塚 修一		りんご斑点落葉病の発生と防除	果樹だより	12. 8
猫塚 修一		りんご殺菌剤の散布回数を削減する試み	果樹だより	13. 2
藤沢 巧		殺ダニ剤の使用法 枝を整理し、むら無く散布	岩手りんごタイムス	12. 6
藤沢 巧		13年度岩手県病害虫防除基準の改正点について	岩手りんごタイムス	13. 1
猫塚 修一		斑点落葉病と褐斑病の防除対策 耐性菌に気を付け適期防除を	岩手りんごタイムス	12. 6

部 所 名	投稿者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲載 年月
生産環境部	猫塚 修一	J M台苗木における根頭がんしゅ病の発生と防除対策 ~健全母樹・圃場を利用して~	岩手りんごタイムス	13. 3
	藤沢 巧	りんごにおけるカメムシ類の飛来消長と防除対策	今月の農業	12. 8
	勝部 和則 他	<i>Fusarium oxysporum f. sp. Spinaciae</i> のV C G別培養特性および病原性の違い	土と微生物	12.10
	勝部 和則	ハウレンソウ萎ちょう病菌の菌糸和合性による類別とその分布	土壤伝染病談話会レポート	12.10
	勝部 和則	環境に優しい病害虫防除技術	農業普及	12.12
	後藤 純子 他	ミギワバエの一種 <i>Scatella stagnalis</i> に寄生するコマユバチの発見と昆虫寄生菌の発生事例について	双翅目談話会「はなあぶ」	12.11
	畜産研究所	三浦賢一郎	季節の農作業「飼料作物」	農業普及
		”	”	12. 5
		”	”	12. 6
		”	”	12. 7
		”	”	12. 8
		”	”	12. 9
藤原 哲雄		季節の農作業「養豚」	農業普及	12. 7
		”	”	12. 8
		”	”	12.11
		”	”	12.12
山口 直己		季節の農作業「肉牛」	農業普及	12. 4
		”	”	12. 6
		”	”	12. 8
		”	”	12.10
		”	”	12.12
及川 稜郎		黒毛和種親子放牧のすすめ	農業普及	12.10
佐藤 直人		円形堆肥化装置の牛ふん尿堆肥化特性と導入条件	岩手の畜産	12. 9
清宮 幸男		搾乳ロボット「開発から実用段階まで」	岩手の畜産	12.10
山口 直己		搾乳ロボット「開発から実用段階まで」	岩手の畜産	12.11
藤原 哲雄		新ランドレース種系統豚の能力	岩手の畜産	13. 1
鈴木 暁之	DNA解析と新しい和牛の改良技術	岩手の畜産	13. 3	

部 所 名	投稿者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲載 年月
畜産研究所	大宮 元	岩手県・県独自の系統造成へ奮起のとき	養牛の友	12. 8
	齋藤 節男	季節毎の飼料作物栽培管理にかかる注意点	NOSAIふれあいメール	

4 新聞等掲載

部 所 名	記 事 見 出 し (内 容)	掲 載 紙 名	掲載年月日
総務部	農具の実物資料も展示 北上市農業科学博物館	岩手日日	12. 5. 1
企画経営情報部	農業体験や園芸セミナー 21日から春期一般公開 北上の県農業研究センター	岩手日日	12. 4. 13
	県農業研究センター 一般公開	朝日新聞	12. 4. 13
	農業体験や園芸セミナー 北上の県農業研究センター 21・22日一般公開	岩手日報	12. 4. 17
	アグリベンチャーネット 県あすから供用開始	岩手日日	12. 4. 20
	県の農業情報システム アグリネット始動 病虫害予測などに威力	岩手日報	12. 4. 22
	春期一般公開始まる 北上の県農業研究センター きょう農業体験など	岩手日日	12. 4. 22
	北上 県農業研究センター 春期一般公開 来場者でにぎわう	岩手日日	12. 4. 23
	親しまれる施設目指して 北上の県農業研究センター 一般公開が盛況	岩手日報	12. 4. 24
	研究機関を公開 岩手県農業研と生物工学研センター	日本農業新聞	12. 4. 25
	農家に情報をネットで発信 県農政部	朝日新聞	12. 5. 10
	一日子供農業研究員を募集	日本農業新聞	12. 6. 29
	「1日子供農業研究員 夏休み農産物加工体験」参加者募集	読売新聞	12. 7. 5
	漬物や菓子作りに挑戦 北上の農業科学博物館 小学生が「一日研究員」	岩手日日	12. 7. 30
	浅漬けやポン菓子作りを体験 岩手県農研センターが子供農業研究員	日本農業新聞	12. 7. 30
農産物加工に挑戦 北上の農業センターで小学生	岩手日報	12. 8. 5	

部 所 名	記 事 見 出 し (内 容)	掲 載 紙 名	掲 載 年 月 日
企画経営情報部	県農業研究センター参観デー	岩手日報	12. 8.23
	県農業研究センター参観デー	河北新報	12. 8.23
	農産物販売や収穫体験 あすから「参観デー」北上の県農業研究センター	岩手日日	12. 8.24
	来月1日から3日間参観デー 県農業研究センター	毎日新聞	12. 8.25
	あすから参観デー 北上の県農業研究センター	岩手日日	12. 8.31
	最新技術に関心 岩手県農業研究センター	日本農業新聞	12. 9. 7
	農業経営の在り方論議 日本学会が研究大会	岩手日報	12.10. 7
	一日子供農業研究員 農産加工体験参加者募集	日本農業新聞	12.12. 4
	来年1月に1日子供農業研究員	岩手日日	12.12. 4
	一日子供研究員を募集	朝日新聞	12.12. 6
	農研センターの試験成果を紹介 陸前高田・農家ら学ぶ	岩手日報	12.12.16
	子供たち対象に農産物加工体験	岩手日日	13. 1. 4
	自立創造いわて21 情報化社会の中で 産直販売の喜び メールの声を励みに	岩手日報	13. 1.18
	紙風船	岩手日報	12. 4.25
	短信 農業情報のHP	岩手日報	12. 6.30
	適期刈り取り徹底を確認 稲作技術対策会議 盛期は来月12日ごろ 県・市町村	岩手日日	12. 8.25
	県内水稲刈り取り適期10 - 15日早まる見通し 生育順調 病害虫もなく 県の技術対策会議	岩手日報	12. 8.25
	猛暑で平年より15日早く 今年の稲の刈り取り適期は来月12日ごろ	毎日新聞	12. 8.25
	ラオスの青年20人が農業教育研修 リンゴの袋かけ 滝沢 盛岡農高で技術修得	河北新報	12. 8.26
	県農業研究センター参観デー	朝日新聞	12. 8.30
	県農業研究センター参観デー	岩手日報	12. 8.31
	技術セミナーに関心 北上の県農業研究センター 参観デー始まる	岩手日日	12. 9. 2

部 所 名	記 事 見 出 し (内 容)	掲 載 紙 名	掲 載 年 月 日
企画経営情報部	いわて花メッセ2000	河北新報	12. 9. 2
	かれん、華やか、大輪競演 北上で花メッセ	岩手日報	12. 9. 3
	華麗なウエディングショーも 来場者うっとり いわて花メッセ開幕 北上	岩手日日	12. 9. 3
	いわて花メッセ コンテスト入賞者	日本農業新聞	12. 9. 3
	岩手で花コンテスト 大臣賞に村上さん	岩手日日	12. 9. 4
	さらなる広域行政 地域性の尊重が課題	岩手日報	12. 9.14
	総合農業高校設置場所 「県農研センター周辺に」	岩手日日	12. 9.22
	総合農業高の設置場所 県農研センター近く	朝日新聞	12. 9.22
	「北上に統合校」 県教委へ意見書	毎日新聞	12. 9.22
	県農研センター周辺に 北上市議会が意見書可決	岩手日報	12. 9.22
	農研センター周辺に設置を 新設農高で陳情	岩手日報	12. 9.27
	花巻農活用を検討 中部地区農高教育長が意向	岩手日報	12. 9.28
	県が出先機関再編案	岩手日報	12.10. 1
	統合高校の敷地問題 一関二高、花巻農に決定	毎日新聞	12.10. 3
	花巻農高を当面利用 北上農高との統合問題	読売新聞	12.10. 3
	中部地区農高は花巻農 県教委が設置場所決定	岩手日報	12.10. 3
	花巻農と一関二の施設利用 統合後の立地場所決定	河北新報	12.10. 3
	設置場所、花巻農に決定 中部地区農業高校移転の可能性も残す	岩手日日	12.10. 3
	新品種「セイキワン」開発	岩手日報	12.10. 6
	初の女性指導農業士 花巻の山里さんに決定	読売新聞	12.10.17
	塩田丸男のいのちの「食」訪問 (県北農業研究所やませ利用研究室飯村室長)	週刊新潮	12.11. 9
	科学技術振興へ連携 盛岡でフォーラム開幕	岩手日報	12.11.16
	盛岡北部を研究学園都市に産学官を集積企業立地図る	岩手日報	12.11.23

部 所 名	記 事 見 出 し (内 容)	掲 載 紙 名	掲 載 年 月 日
企画経営情報部	盛岡北部に研究学園都市 2000年目標県がビジョン発表	読売新聞	12.11.23
	「酒造り体験と小昼の集い」「ぎんおとめ」を使った酒造りを実演	岩手日報	12.12.20
	ヒエ使用の食パンを販売 岩手大が共同開発アレルギーでもOK	朝日新聞	12.12.20
	IT核に研究学園都市造り 盛岡北部5000ヘクタール地域2020年目標	朝日新聞	12.12.20
	コラム(振り返って2000) だれのための豊作なのか 品質改良と減反と	朝日新聞	12.12.22
	研修や試飲通じて 「吟ぎんが」に理解 花巻	岩手日日	13. 1.30
	県北産米の吟醸酒発売 盛岡で鏡開き	朝日新聞	13. 2. 6
	吟醸酒酒造好適米吟ぎんが使用 24銘柄を一斉発売	河北新報	13. 2. 6
	県産オリジナル吟醸酒「吟ぎんが」全国に売り込め 本格発売開始	岩手日日	13. 2. 6
	期待の酒米・・・ 「吟ぎんが」の新酒発売	毎日新聞	13. 2. 6
	バレンタインデーにぜひ 吟醸酒「吟ぎんが」 岩手県が発売イベント	日本農業新聞	13. 2. 6
	農政、林水部を統合 岩手県が組織再編 地域振興へ機能充実	日本農業新聞	13. 2.17
	「岩南16号」奨励品種に県開発のうるち米 中・北部向けに普及へ	岩手日日	13. 2. 21
	「仕上がりは上々」県新酒鑑評会	岩手日報	13. 3.23
	アマランサス新品種(ニューアステカ)誕生 岩手で導入	日本農業新聞	13. 3.25
	専門技術員室	大豆生産の効率化期待 江刺 一貫作業を機械で実演	岩手日報
	日報アンテナ(県内水稻生育)	岩手日報	12. 6.29
	水稻のカメムシ被害懸念 猛暑、今年も大発生か 県が胆沢町で確認 防除徹底呼び掛け	岩手日報	12. 8. 1
	食の匠に31人を認定 県	岩手日日	12. 8. 4
	雇用でゆとり農業 東北農村生活研が大会	日本農業新聞	12. 9.21
	各県の水稲刈り取り状況 ハイペースで終盤	日本農業新聞	12.10. 4
	食の遺産(食の匠) 広がる伝統料理の継承	日本農業新聞	12.11.17

部 所 名	記 事 見 出 し (内 容)	掲 載 紙 名	掲 載 年 月 日
農産部	「吟ぎんが」の酒発売	朝日新聞	12. 4.26
	岩手酒 5 2 号の作付け始まる 「吟ぎんが」に続き近く愛称	朝日新聞	12. 5.16
	原因特定できず 紫波のもち米発芽不良	岩手日報	12. 5.25
	田植え挑戦 広がる歓声 北上の飯豊小	岩手日報	12. 6. 2
	泥の感触に歓声 北上の飯豊小 5 年生が田植え 県立農業ふれあい公園	岩手日日	12. 6. 2
	小学生が稲刈り体験	読売新聞	12. 9.30
	重い稲穂 豊作だ 2 小学校で稲刈り体験	岩手日報	12.10. 7
	「ぎんおとめ」と命名 岩手県 早生の「岩手酒 5 2 号」	日本農業新聞	12.11. 9
	新酒米「ぎんおとめ」披露 「吟ぎんが」の妹分にと期待	毎日新聞	12.11. 9
	“妹分”は「ぎんおとめ」 県オリジナル酒造好適米女性的イメージに	岩手日日	12.11. 9
	新品種名はぎんおとめ 早生・強い耐冷性 県北などで作付け	岩手日報	12.11. 9
	「吟ぎんが」の妹の名決まる 県農研センター「すっきりした味の酒に」	朝日新聞	12.11. 9
	酒米「岩手酒 5 2 号」の名前は「ぎんおとめ」に決定	読売新聞	12.11.10
	2 1 日に岩手県農業機械利用技能競技大会	日本農業新聞	12.11.11
	地場産酒米に期待	日本農業新聞	12.11.15
	岩手県農機技能競技大会 高橋さんら優勝	日本農業新聞	12.11.22
	県農業機械協議会 日ごろ培った操作技術競う	岩手日報	12.11.22
	県、第 3 のオリジナル主食米 「岩南 1 6 号」を開発	朝日新聞	12.12. 6
	「吟ぎんが」の酒、全国へ 盛岡で仕込み始まる	岩手日報	12.12.26
	「吟ぎんが」の研修会 2 9 日 花巻	岩手日日	13. 1.22
生産者 1 1 人と 1 団体を表彰 盛岡いわて純情米コンクール	岩手日報	13. 2.16	
園芸畑作部	リンゴ「きおう」 収穫期ひと目で 岩手 カラーチャート配布	日本農業新聞	12. 8.18
	リンドウ 岩手県農業研究センター（北上市） 種苗安定供給可能に	河北新報	12. 8.25

部 所 名	記 事 見 出 し (内 容)	掲 載 紙 名	掲 載 年 月 日
園芸畑作部	ユリ球根を冷暗所で処理 出荷率で60%以上向上	農業共済新聞	12. 9.20
	リンゴ産業にも新時代 ふじ生誕60周年シンポ	岩手日報	13. 2. 7
	「ふじ」生誕60年歩みを振り返る 盛岡でシンポ	河北新報	13. 2. 7
	リンゴのJ M台木試験動向 条件により「7」と「1」を	日本農業新聞	13. 3.22
生産環境部	主な果樹4種に見る 病虫害防除のポイント	全国農業新聞	12. 4.21
	リンゴ病虫害防除暦 問題点と防除の重点	農林技術新報	12. 5.15
	農協合併「東和米」かすむ 米袋の表示「JAいわて花巻」に統一	朝日新聞	12.10.13
	一日研究員小学生25人が体験 糖度や酸味測定	岩手日日	13. 1.13
	リンゴ果汁は不思議の宝庫 北上 児童が一日農業研究	岩手日報	13. 1.14
	リンゴ加工を研究	読売新聞	13. 1.16
	水稻育苗に箱施薬 成分の河川流出抑える	日本農業新聞	13. 1 18
	箱施薬で河川流出抑える	日本農業新聞	13. 1.22
畜産研究所	たい肥舎悪臭除去へ研究進む ロックウール脱臭装置に注目 水槽や光触媒の利用も	日本農業新聞	12. 8. 7
	25日から参観デー 県農業研究センター畜産研究所	日本農業新聞	12. 8.18
	搾乳ロボット量増え労働時間が半減 農家に導入提案	岩手日報	12.12. 5
	搾乳ロボット小冊子 仕組み、効果を紹介	日本農業新聞	12.12.22
	黒毛和種放牧の新体系 普及へ県が技術マニュアル	岩手日報	13. 1.30
県北農業研究所	実りの秋楽しみ サツマイモ植え 軽米晴高小	岩手日報	12. 5.25
	クッキングトマト人気 二戸地方 振興局が普及事業 HPで調理法紹介	日報(夕刊)	12. 8.12

5 ラジオ放送等

部所名	出演者氏名	番組名(内容)	放送局名	放送年月日	
企画経営情報部		「おはよう今日も元気で」	I B C ラジオ		
	稲田 聖児	農業研究センター春季一般公開について		12. 4.14	
	及川 浩一	農業経営設計システム「クーボ博士」		12. 4.28	
	菅原 豊司	花き専作経営のポイント		12. 7. 7	
	稲田 聖児	農業研究センター参観デーの開催について		12. 8.25	
	村上 和史	ほ場整備事業の取り組み状況について		12. 9.29	
	細田 耕平	新規参入就農者の就農動機		12.11.10	
		「農業最前線」		I B C ラジオ	
	村上 和史	農産物直売所の状況について			12. 4.10
	稲田 聖児	春期一般公開(仮称)について			12. 4.11
細田 耕平	新規参入者の就農動機	12. 4.26			
専門技術員室	菅原 豊司	雑穀の需要動向について	I B C ラジオ	12. 4.27	
		「農業最前線」			
	高橋 晋	農業情報システムの利用について	I B C ラジオ	12. 6.28	
	高橋 典子	今、農業者の働き方が変わってきた		12. 6.29	
農産部		「おはよう今日も元気で」	I B C ラジオ		
	工藤 佳徳	水稲の本田初期管理について		12. 5.19	
	高橋 真博	岩手県の水稲品種開発について		12. 6.16	
	星 伸枝	園芸作物のウイルスフリー化について		12. 7.28	
	吉田 宏	水稲の登熟状況と刈取適期について		12. 9. 1	
	八重樫 耕一	農作業改善について		12.10. 6	
	仲條 真介	米の食味をどのようにして測るか		12.11.17	
	星 伸枝	りんどうの組織培養について		12.12.22	
	丹内 敏彦	ほ場整備における水利用方式について		13. 1.26	
	高橋 真博	水稲の栽培計画について		13. 2.23	
	長谷川 義孝	水稲の育苗について		13. 3.23	
農産部		「農業最前線」		I B C ラジオ	
	長谷川 義孝	水稲の育苗管理について			12. 4.24
	長谷川 義孝	水稲の育苗管理について	12. 4.25		
	工藤 佳徳	水稲の本田初期管理について	12. 5.29		
	工藤 佳徳	水稲の本田初期管理について	12. 5.30		
	星 伸枝	りんどうのウイルス病について	12. 5.31		
	星 伸枝	りんどうのウイルス病について	12. 6. 1		
	仲條 真介	寒さに強い品種の育成	12. 6.26		
	仲條 真介	寒さに強い品種の育成	12. 6.27		
園芸畑作部		「おはよう今日も元気で」	I B C ラジオ		
	阿部 信次	キャベツを食べる蚕		12. 4. 7	
	鈴木 哲	本年のリンゴの開花、結実状況と今後の対策		12. 5.26	
	作山 一夫	キャベツの早出し技術		12. 6.23	
	渡辺 愛美	小菊の苗生産について		12. 8. 4	
	阿部 信次	天然シルクの魅力		12. 9. 8	
	佐々木 仁	リンゴ中生種の収穫と晩生種の着色管理		12.10.13	
	沼田 聡	大規模水田転作の技術的課題		12.11.24	
	阿部 潤	今年の花き生産の実際と問題		12.12.29	
	境田 謙一郎	つむぎ生糸・座繰り生糸の作り方と利用		13. 2. 9	
	河田 道子	研究センターで開発した果樹の新技术		13. 3. 9	

部所名	出演者氏名	番組名(内容)	放送局	放送年月日
園芸畑作部		「農業最前線」	I B C ラジオ	
	渡辺 愛美	リンドウの株管理技術、小菊の育苗と定植技術		12. 4. 5
	佐藤 新平	春先の桑園管理		12. 4. 6
	佐々木 仁	本年のリンゴの生育と結実対策		12. 4.17
	有馬 宏	雨よけトマトの定植時の管理について		12. 4.18
	輪達 公重	トルコギキョウの定植と定植後の管理について		12. 4.19
	佐藤 新平	春蚕期の飼育準備と飼育の要点		12. 4.20
	石川 勝規	リンゴの生育状況と摘果の進め方		12. 6. 7
生産環境部	高橋 昭喜	ビール麦の春まき栽培における品種適応性		12. 6. 8
		「おはよう今日も元気で」	I B C ラジオ	
	高城 保志	農業用の分解性マルチについて		12. 5.12
	佐藤 喬	近接リモートセンシングによる水稻の生育予測		12. 6. 9
	川村 亮二	イネの穂いもち防除について		12. 7.21
	勝部 和則	ネギの病害防除について		12. 8.18
	佐藤 美佳子	食品の機能性成分について		12.10.27
	築地 邦晃	岩手でケナフはどれ位大きくなる？		12.11. 3
	高橋 良学	土壌診断に基づく土づくり		12.12.15
	平淵 英利	農産物加工品の製造販売について		13. 1.19
福士 敬子	水稻の種子消毒について	13. 3.16		
生産環境部		「農業最前線」	I B C ラジオ	
	猫塚 修一	リンドウ褐斑病の防除		12. 4.12
	高橋 正樹	畜産有機物堆肥の効率的利用法		12. 4.13
	築地 邦晃	天敵を利用した防除		12. 5.15
	高橋 正樹	果菜類の栄養診断による追肥法		12. 5.16
	後藤 純子	りんどう害虫防除について		12. 5.17
	平淵 英利	野菜の鮮度保持について		12. 5.18
	伊藤 美穂	ケナフ栽培の取り組み		12. 6.12
	高橋 良学	水稻の生育状況に応じた追肥法		12. 6.13
	藤沢 巧	ハダニ類の防除について		12. 6.14
畜産研究所	佐藤 美佳子	花の鮮度保持について		12. 6.15
		「おはよう今日も元気で」	I B C ラジオ	
	藤原 哲雄	新系統豚の組合せ検定		12. 4.21
	大宮 元	岩手県における黒毛和種肥育牛の枝肉成績について		12. 6. 2
	千葉 伸	過剰排卵処置法と経膈採卵を組み合わせた胚生産		12. 6.30
	佐藤 直人	家畜排泄物の堆肥化		12. 8.11
	増田 隆晴	高標高草地における牧草生産について		12. 9.15
	清宮 幸男	搾乳ロボットを活用した省力酪農経営		12.10.20
	藤原 哲雄	ランドレース種系統豚の能力について		12.12. 8
	清宮 幸男	高能力牛の集約放牧について		13. 1. 5
鈴木 暁之	DNAを用いた種雄牛造成について	13. 2. 2		
畜産研究所	斉藤 節男	ソルガムロールラップサイレージについて		13. 3. 2
	小梨 茂	簡易で低コスト電気僕柵の導入について		13. 3.30
		「農業最前線」	I B C ラジオ	
	三浦 賢一郎	飼料用とうもろこしの栽培管理について		12. 5. 8
	三浦 賢一郎	飼料用とうもろこしの栽培管理について		12. 5. 9
	三浦 賢一郎	飼料用とうもろこしの栽培管理について		12. 5.10
	三浦 賢一郎	飼料用とうもろこしの栽培管理について		12. 5.11
	村上 勝郎	放牧利用によるシバ地活用について		12. 6.19
村上 勝郎	放牧利用によるシバ地活用について	12. 6.20		

部所名	出演者氏名	番組名(内容)	放送局	放送年月日	
畜産研究所	村上 勝郎	「農業最前線」 放牧利用によるシバ地活用について	I B C ラジオ	12. 6.21	
	村上 勝郎	放牧利用によるシバ地活用について		12. 6.22	
県北農業研究所		「おはよう今日も元気で」	I B C ラジオ		
	大里 達朗	最近の農業機械の研究・開発状況		12. 5. 5	
	富田 典子	秋出し花壇苗の育て方		12. 7.14	
	和野 重美	酒造好適米品種「岩手酒 52号」について		12. 9.22	
	高橋 好範	岩手県における畜産由来肥料の実態について		12.12. 1	
	菅原 英範	クッキングトマトの特徴と栽培法		13. 1.12	
	和野 重美	酒米「岩手酒 52号」について		13. 2.16	
		「農業最前線」		I B C ラジオ	
	大友 令史	コナガの防除開始時期			12. 5.22
	佐藤 正昭	秋出し切り花の栽培法			12. 5.23
和野 重美	水稲の水管理	12. 5.24			
	大友 令史	水稲初期害虫の防除対策		12. 5.25	

6 指導資料等掲載

部所・研究室名	執筆者 氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
企画経営情報部 農業経営研究室	斉藤 恭	平成12年度地域課題分析事業	同左	13. 3
	細田 耕平	「野菜主業型農家の経営構造の解明と育成支援策の分析」		
農産部 水田作研究室	高橋 政夫	平成13年度稲作指導指針	同左	13. 2
	小野寺郁夫			
	吉田 宏			
	工藤 佳徳			
	長谷川義孝			
	臼井 智彦			
	小野寺郁夫	21世紀型岩手県水稲直播栽培指針	同左	13. 2
	工藤 佳徳			
	吉田 宏	岩手県における品質低下の実態解析と今後の対策	東北地域における夏季の異常高温が水稲生育およびコメ品質に及ぼす影響の解析と今後の対策	13. 3
	臼井 智彦			
	小野寺郁夫			
	高橋 政夫			
生産工学研究室	鶴田 正明	21世紀型岩手県水稲直播栽培指針	同左	13. 2
園芸畑作部 野菜畑作研究室	有馬 宏	品目別栽培技術指針 ピーマン	平成13年度野菜栽培技術指針	13. 3
	山田 修	品目別栽培技術指針 きゅうり	平成13年度野菜栽培技術指針	13. 3

部所・研究室名	執筆者 氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
園芸畑作部 野菜畑作研究室	高橋 拓也	品目別栽培技術指針 えだまめ	平成13年度野菜栽培 技術指針	13. 3
花き研究室	阿部 潤	品目別栽培技術指針 りんどう	平成13年度花き栽培 技術指針	13. 3
	輪達 公重	品目別栽培技術指針 スターチス・シヌアータ	平成13年度花き栽培 技術指針	13. 3
	内藤 善美	品目別栽培技術指針 アスター	平成13年度花き栽培 技術指針	13. 3
	渡辺 愛美	品目別栽培技術指針 小ぎく	平成13年度花き栽培 技術指針	13. 3
蚕桑技術研究室	阿部 弘	品目別栽培技術指針 菌床しいたけ	平成13年度野菜栽培 技術指針	13. 3
南部園芸研究室	佐藤 成利	品目別栽培技術指針 ゆり	平成13年度花き栽培 技術指針	13. 3
	土田 泰輔	品目別栽培技術指針 いちご	平成13年度野菜栽培 技術指針	13. 3
生産環境部 環境保全研究室	築地 邦晃	トマト編（防除）	環境にやさしい栽培 技術集	12.10
	伊藤 美穂	水稲編（防除）	環境にやさしい栽培 技術集	12.10
土壌作物栄養研究室	小野 剛志	作物共通編（土づくり・施肥）	環境にやさしい栽培 技術集	12.10
	高橋 正樹	作物共通編（施肥）	環境にやさしい栽培 技術集	12.10
	佐藤 喬	水稲編（施肥）	環境にやさしい栽培 技術集	12.10
	佐藤 喬	野菜・花き畑の土づくり	平成13年度野菜・花 き栽培技術指針	13. 3
	佐藤 喬 高橋 正樹	土づくりと施肥管理	稲作指導指針 - 平成 13年度版 -	13. 2
病虫害研究室	後藤 純子	主要害虫の防除	稲作指導指針 - 平成 13年度版 -	13. 2

部所・研究室名	執筆者 氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
生産環境部 病虫害研究室	福士 敬子	主要病害の防除	稲作指導指針 - 平成 13年度版 -	13. 2
	藤沢 巧	近年問題となっている害虫	平成13年度野菜栽培 技術指針	13. 3
	勝部 和則	近年問題となっている病害	平成13年度野菜栽培 技術指針	13. 3
	勝部 和則	近年問題となっている病害	平成13年度花き栽培 技術指針	13. 3
	後藤 純子	近年問題となっている害虫	平成13年度花き栽培 技術指針	13. 3
保鮮流通技術研究室	平淵 英利	野菜の鮮度保持対策	平成13年度野菜栽培 技術指針	13. 3
	佐藤美佳子	花きの鮮度保持対策	平成13年度花き栽培 技術指針	13. 3
県北農業研究所 産地育成研究室	菅原 英範	品目別栽培技術指針 スイートコーン	平成13年度野菜栽培 技術指針	13. 3
	佐藤 正昭	品目別栽培技術指針 枝物	平成13年度花き栽培 技術指針	13. 3
	富田 典子	品目別栽培技術指針 花壇苗	平成13年度花き栽培 技術指針	13. 3
やませ利用研究室	和野 重美 長谷川 聡 寺田 道一	奨励品種の特徴と栽培法	稲作指導指針 - 平成 13年度版 -	13. 2

7 トライアングル

発行年月日	主 な 内 容
12. 5.23	<ol style="list-style-type: none"> 1 巻頭言「開かれた研究機関」所長 荻原 武雄 2 トピックス <ul style="list-style-type: none"> ・橋元蚕桑技術研究室長 研究功労者表彰を受賞 ・春期一般公開多くの人で賑わう ・平成11年度地域農業交流セミナー(岩手)開催 3 研究広報 <ul style="list-style-type: none"> ・平成12年度の主な新規研究課題(11課題) 4 研究の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・「ISO14001の認証取得に向けて」総務部長 三浦 啓一 ・「たかが『直播』されど『直播』」農産部長 中館 隆三 5 専門技術員室コーナー 「園芸振興支援センターの活動」
12.10.30	<ol style="list-style-type: none"> 1 巻頭言「“個性きらめく農業の展開”と研究の視点」副所長 阿部 隆 2 トピックス <ul style="list-style-type: none"> ・佐藤前外山畜産研究室長 畜産研究功労者表彰を受賞 ・一日子供農業研究員～夏休み農産物加工体験～開催 ・農業研究センター参観デー開催される 3 研究広報 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい農業試験研究推進構想について 4 研究の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・「開発技術と既往技術の総合体系化による安定生産・高品質化」園芸畑作部長 藤根 勝栄 ・「農産物の保鮮流通技術・加工技術研究の視点」生産環境部長 佐々木 忠勝 5 専門技術員室コーナー 「技術セミナー開催」
12.12.25	<ol style="list-style-type: none"> 1 巻頭言「胸中成竹」畜産研究所長 菊地 清彦 2 トピックス <ul style="list-style-type: none"> ・高橋好範主任専門研究員が藤原章夫研究奨励賞を受賞 ・及川浩一主任専門研究員が東北農業経済学会奨励賞を受賞 ・“酒造好適米水稻品種「吟ぎんが」の開発”により県業績顕著者表彰を受賞 ・平成12年に実施した農業ふれあい公園農業体験学習 3 研究広報 <ul style="list-style-type: none"> ・農業研究センターの試験研究課題の設定から成果として伝達されるまで 4 研究の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・「雑感」畜産研究所次長 小野寺 勉 ・「技術の継承と新採用職員の養成について」県北農業研究所首席専門研究員兼次長 遠藤 征彦 5 専門技術員室コーナー 「園芸学会東北支部賞の受賞」
13. 3.14	<ol style="list-style-type: none"> 1 巻頭言「対話・自立型研究の取り組み」県北農業研究所長 高橋 康則 2 トピックス <ul style="list-style-type: none"> ・現地ふれあい農業研究センター開催 ・一日子供農業研究員～冬休み農産物加工体験～開催 ・飯村芝之室長が植物防疫事業50周年記念表彰 3 研究広報 ～平成11年度の主な研究成果～ <ul style="list-style-type: none"> ・「搾乳ロボット導入のための乳量水準」農業経営研究室 ・「水稻ロングマット水耕育苗法」生産工学研究室 ・「スプレー咲き小ぎく『CM系4品種』」花き研究室 ・「複合交信攪乱剤を使用したリンゴ主要害虫防除」病害虫研究室 ・「分娩前3週間の飼養管理による乳牛の周産期予防」家畜飼養研究室 ・「良質良食味と耐冷性を兼ね備えた早生うるち米品種『岩南16号』」やませ利用研究室 4 研究の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・「『生きた技術』の開発と普及のために」首席専門研究員 櫻井 一男 ・「視点」企画経営情報部長 駒込 勉 5 専門技術員室コーナー 「農業生産の場で男女共同参画社会の推進」

8 図書資料収集・提供

項 目	冊数・人数
総蔵書数	179,488 冊
平成12年度収集図書数	1,234 冊
図書館利用者数(延べ)	1,104 名
同貸し出し冊数	864 冊

総蔵書数には、畜産研究所及び県北農業研究所分を含む。

9 農業情報システム(ホームページ)

項 目		件 数
入力件数	研究レポート	43
	トライアングル	5
	行事予定	7
	トピックス、その他	3
アクセス件数		4,317

トップページへの来訪者数

10 フラッシュ情報

発行日	標 題
12. 4. 14	4月21日(金)に農業研究センターで公開セミナー、AFR事業成果報告会を開催
12. 4. 24	平成12年度春季一般公開盛大に開催
12. 6. 9	農業科学博物館の入館者3万人を突破
12. 6. 19	ケナフの試験栽培開始
12. 7. 31	一日子供農業研究員～夏休み農産物加工体験～
12. 9. 4	平成12年度農業研究センター(本部)参観デー盛大に開催
12. 9. 11	平成12年度県北農業研究所参観デーを盛大に開催
12. 9. 29	小学生による農業ふれあい公園棚田稲刈り
12. 10. 10	東北農業経済学会奨励賞の受賞について
12. 10. 31	岩手オリジナル酒造好適米水稻品種「吟ぎんが」の開発により、農業研究センター及び工業技術センターが平成12年度岩手県職員表彰(業績顕著者表彰)を受賞!!
12. 11. 2	農業ふれあい公園農業体験学習りんご収穫体験
13. 3. 16	農業研究センター畜産研究所「初の体細胞クローン牛生産」

V 指導・啓発活動

1 技術伝達研修等の実施

担 当 部 所	開催期日	開 催 場 所	内 容	参集人員
農産部	13. 1.19	県庁	農薬管理指導士養成研修	76名
園芸畑作部	12. 6.20	農研センター	りんご防除研修会	150名
	12. 6.30	農林水産省農業者 大学校	ぶどう特別講義	10名
	12. 7.26	農研センター	りんご防除研修会	150名
	12. 7.26	農林水産省農業者 大学校	りんご特別講義	10名
	12.11.22	農林水産省農業者 大学校	ぶどう特別講義	10名
	13. 1.17	農林水産省農業者 大学校	冬期短期研修（りんご低樹高仕立て）	15名
	13. 1.16	農研センター	新技術普及推進検討会（果樹）	20名
	13. 3.13	花きセンター	農業者研修（「あおこりん」「ももこりん」栽培法）	25名
	13. 1.18	農研センター	新技術普及推進検討会（花き）	25名
	12. 7.12	農研センター	花き技術強化研修（ゆりを巡る情勢）	10名
	13. 2.21	農研センター	花き技術強化研修（りんどう育種状況等）	2名
	13. 3.13	農研センター	花き技術強化研修（りんどう半促成栽培）	2名
	12. 5.25 ～ 5.26	農研センター	第 期専門技術研修（品目別花き栽培技術）	4名
	12. 6.27 ～ 6.28	農研センター	第 期専門技術研修（品目別花き栽培技術）	4名
生産環境部	12. 6.15 ～ 6.16	加工工房	改良普及員加工専門研修 豆腐の製造原理	1名
	12. 8. 1	加工工房	りんごジュース加工実習（北上農業高校農業情報システム科1年生）	33名
	12. 8.18	赤沢農産加工組合	トマトジュースの加工	15名
	12.10.20	加工工房	カボチャパウダー加工実習（岩手県立農業大学校文化課程2年生）	7名

担 当 部 所	開催期日	開 催 場 所	内 容	参集人員
生産環境部	12.11.7	加工工房	豆腐加工体験（北上市立二子小学校教諭）	10名
県北農業研究所	12.9.9	県北農業研究所	雑穀機能性活用セミナー	33名
	13.2.14	花きセンター	花木・宿根草講座	25名

2 現地指導等への派遣

担 当 部 所	開催期日	開 催 場 所	主 催 者	内 容
企画経営情報部	12.8.2 9.8	滝沢村	J A岩手学園	J A職員資格認証試験委員会 (1級：日本経済、2級：農業経済)
	12.11.2 11.30	滝沢村	J A中央会	J A岩手県営農指導士養成講習会 (複式簿記、農業経営診断、農業経済論)
	12.12.7	盛岡市	盛岡地方振興局	盛岡地方野菜農家セミナー (パネルディスカッションコーディネーター)
	13.1.24	滝沢村	西根町認定農業者	堆きゅう肥利用に関する耕種農家の意向と流通促進 方策
	13.2.19	花巻市	J Aいわて花巻	J Aいわて花巻農業躍進大会 (パネルディスカッションコーディネーター)
	12.3.6 ～ 3.7	秋田県鹿角市	東北農試	地域総合現地検討会 成果公表(短角肉牛の県内消費の可能性について)
	農 産 部	12.8.22	久慈市	久慈地方振興局
12.8.29		紫波町	J A岩手中央	紫波モチ研修会
12.8.30		石鳥谷町	花巻農業改良普及 センター	「吟ぎんが」栽培研修会
12.12.8		胆沢町	水沢農業改良普及 センター	胆沢町もち生産団地指導会
13.3.5		紫波町	いわて純情米産地 体質強化推進協議 会(経済連事務局)	育苗技術研修会
13.2.6		花巻市	農業大学校	農業機械導入計画について他
13.2.15	川崎村	農業大学校	農業機械導入計画について他	
12.2.27	金ヶ崎町	農業大学校	農業機械導入計画について他	

担当部所	開催期日	開催場所	主催者	内容
園芸畑作部	12. 9.13	帯広市	日本植物防疫協会	日本植物防疫協会研究会 (21世紀の農薬散布技術の展望)
	12.12. 7	千厩町	J Aいわい東	東磐井地方果樹生産振興大会 (りんご栽培の将来像)
	13. 1.22	盛岡市繫	岩手県果樹協会	岩手県果樹協会冬期講習会(りんご栽培の展望)
	13. 1.30	玉山村	盛岡地方振興局	盛岡地方園芸振興の集い(りんご栽培技術)
	13. 2. 2	大迫町	大迫町	大迫町ぶどう栽培50周年(ぶどう栽培の展望)
	13. 3.22	花巻市	果樹協会	女性のためのりんご栽培 (リンゴ栽培・家族協定)
	13. 3.29	宮古市	J A宮古市	宮古地域りんご研修会(リンゴ栽培)
	12. 7. 4	山形村 種市町	久慈地方振興局	そば栽培技術研修会(そばの栽培技術)
	12. 6.26	盛岡市	農政部	農業気象協議会ミニ講座(りんどうの生育予測)
	12. 6.29	花きセンター	農産園芸課	スターチス「アイスター」栽培説明会 (「アイスター」栽培技術)
	12. 6.29 ~ 6.30	安代町	J A新しいわて	安代町りんどう巡回調査
	12. 9.12	花きセンター	花きセンター	第2回農業者研修 (小ぎくの栽培管理と新技術)
	12.11.22	農研センター	農業大学校	営農大学講座新規就農者研修 (花きの試験研究について)
	12.12. 7	農研センター	実行委員会	第32回「食とみどり、水を守る全国集会」 (花き(りんどう)の育種について)
	12.12.18	湯田町	西和賀花き生産 組合	西和賀ゆり栽培検討会 (オリエンタル系ユリの栽培技術)
	12.12.21	農研センター	J A岩手中央	岩手中央農協紫波地域営農センターゆり研修会 (オリエンタル系ユリの栽培技術)
	13. 1.24	農研センター	西根町	西根町認定農業者協議会部門研修(リンドウの 開花予測、ユリのプレルーティング他)
13. 2. 1 ~ 2. 2	盛岡市繫	岩手県農業会議	岩手農業経営者セミナー (花き栽培技術全般の助言)	

担当部所	開催期日	開催場所	主催者	内 容
園芸畑作部	13. 2.19	花巻市	J A花巻	花巻農協鉢花部会「鉢物りんどう」講習会
	13. 2.21	二戸市	二戸農業改良普及センター	二戸地域花き技術研修会 (リンドウの促成、半促成栽培)
	13. 2.27	雫石町	J A新しいわて	新しいわて農協南部地域花き部会講演会(ユリ)
	13. 3.28	花巻市	J A花巻	花巻農協花き部会総会研修会 (岩手県の花き振興と最新技術について)
生産環境部	12. 7.31 ~ 8. 1	陸前高田市	陸前高田市	シニアワークプログラム事業第2種緑化管理講習会(野菜・花きの栽培管理全般)
	12. 7. 4	J A岩手南	一関農業改良普及センター	生物農薬(天敵)を活用した栽培技術の検討会
	12. 5.25	江刺地区合庁	水沢農業改良普及センター	平成12年度江刺市環境保全型農業総合推進協議会
	12. 6. 6	石鳥谷町滝田 りんご生産組合	花巻農業改良普及センター	フェロモン剤を利用したリンゴ減農薬栽培技術研修会
	12. 6. 8	一関市舞川	J A岩手南果樹部会	シンクイコンによるりんごの減農薬栽培研修会
	12. 6. 9	大東町鳥海 千厩町	千厩農業改良普及センター	交信攪乱法によるりんごの減農薬栽培研修会
	12. 6.13	滝沢村木賊川	盛岡農業改良普及センター	平成12年度環境に優しいリンゴづくり事業推進連絡協議会
	12. 7.17	滝沢村木賊川	盛岡農業改良普及センター	平成12年度環境に優しいリンゴづくり事業病害虫発生予察研修会
	12. 9.27	江刺市小倉沢 りんご生産組合	水沢農業改良普及センター	平成12年度江刺市環境保全型農業総合推進協議会中間検討会
	12.12. 4	岩泉町	岩泉町	畑わさびの病害虫
	12.12.12	J Aいわて学園	経済連	作物害虫防除論
	12.12.21	J A花巻石鳥谷 東支店	花巻農業改良普及センター	フェロモン剤による殺虫剤散布回数の低減技術実績検討会
	13. 1.18	県庁1 2階	農業普及技術課	病害虫概論
	13. 1.24	農研センター	西根町	斑点米カメムシ類の特性と被害対策

担当部所	開催期日	開催場所	主催者	内容
生産環境部	13. 1.29	盛岡市繋	岩手県ホップ農協	平成13年度ホップ栽培暦検討会
	13. 1.30	大東町みなかわ	千厩農業改良普及センター	交信攪乱法によるりんごの減農薬栽培実績検討会
	13. 2.20	江刺地区合庁	水沢農業改良普及センター	平成12年度江刺市環境保全型農業総合推進協議会実績検討会
	13. 3. 5	滝沢ふるさと交流館	盛岡農業改良普及センター	平成12年度環境に優しいりんごづくり事業実績及び13年度事業計画検討会
	13. 3.13	J A北いわて	カシオペアりんご振興協議会	平成12年度環境に優しいりんごづくり実績検討会
	12. 8.18	紫波町赤沢	赤沢農産物加工組合	トマトジュース加工について(実習)
	12.10. 3	県民生活センター	岩手県 岩手県食品産業協議会	岩手県ふるさと食品コンクール審査
	13. 1.24	農研センター	西根町花き部会	花きの保鮮について
	13. 3.22	花巻市	岩手県果樹協会	りんごの機能性について(講義)
	畜産研究所	13. 1.22	東和町	東和町和牛繁殖部会
13. 1.30 ~ 1.31		花巻市	県南家畜衛生指導協議会	黒毛和種の放牧管理について
13. 2.20		滝沢村	二戸家畜保健衛生所	肉用牛の放牧衛生について
13. 3. 9		江刺市	阿原山放牧利用組合	新しい放牧技術・県有種雄牛紹介
13. 3.23		岩泉町	J Aみやこ和牛繁殖部会	黒毛和種の放牧管理技術
県北農業研究所	12. 5.23	県北農業研究所	晴高小学校	ふれあい体験学習会
	12. 5.31	県北農業研究所	北岩手園芸協会	クッキングトマトの栽培について
	12. 6.16	岩手町	岩手地域普及所	「岩手酒52号」岩手地域普及所の研修会
	12. 7.17	県北農業研究所	二戸地方売れる米づくり協議会	二戸地方売れる米づくり研修会

担当部所	開催期日	開催場所	主催者	内 容
県北農業研究所	12. 7. 24	軽米町	北岩手園芸協会	クッキングトマトの出荷について
	12. 7. 25	岩手町 二戸市	農産園芸課	「岩手酒52号」現地研修会
	12. 8. 25	県北農業研究所	J Aいわてくじ	クッキングトマトの栽培法について
	12. 9. 3	県北農業研究所	普代村生活改善 グループ	中山間地域に適する花き、花木
	12. 9. 8	県北農業研究所	県北農業研究所	クッキングトマト料理講習会
	12. 9. 25	盛岡市	工業技術連絡会議	工業技術連絡会議・物質工学連合部会・高分子 分科会
	12.12.13	軽米町	軽米地域普及所	花き新品目の試験研究の現状について
	13. 1. 16	盛岡市	農産園芸課	そば・雑穀等担当者情報交流会
	13. 2. 6	九戸村	軽米地域普及所	花壇苗栽培について
	13. 2. 16	山形村	山形村	山形村農林業躍進大会土づくり講演会
	13. 2. 16	盛岡市	工業技術センター	農業用廃プラ適正処理研修会
	13. 2. 28	二戸市	二戸市農協	宿根草・花木の栽培について
	13. 2. 28	大迫町 東和町	J A花巻	J A花巻（大迫・東和）雑穀研修会
	13. 3. 1	久慈市	久慈農業改良普及 センター	久慈地方稲作研修会
	13. 3. 2	二戸市	J Aきたいわて	二戸地方稲作研修会
	13. 3. 19	盛岡市	J A盛岡市	盛岡市農協水稻栽培研修会
13. 3. 22	軽米町	軽米町	雑穀栽培研修会	

3 視察者、見学者の受入状況(平成12年4月～平成13年3月)

区 分	公式来所者数	非公式来所者数	合 計	備 考
本 部	3,305 人	20,702 人	24,007 人	非公式来所者数には、春期一般公開及び参観デー来所者を含む。
畜産研究所	1,084	2,205	3,289	
県北農業研究所	954	994	1,948	
計	5,343	23,901	29,244	

4 春期一般公開及び参観デー

名 称	開 催 期 日	開 催 場 所	参集人員
農業研究センター 春季一般公開	12. 4. 21 ～ 4. 22	農業研究センター	678名
"	12. 4. 21 ～ 4. 22	畜産研究所	30名
"	12. 4. 21 ～ 4. 22	県北農業研究所	41名
"	12. 4. 21 ～ 4. 22	農業ふれあい公園「農業科学博物館」	241名
農業研究センター 参観デー	12. 9. 1 ～ 9. 3	農業研究センター	20,283名
"	12. 8. 25 ～ 8. 27	畜産研究所	1,500名
"	12. 9. 8 ～ 9. 9	県北農業研究所	994名

5 現地ふれあい農業研究センター

開催期日	開催場所	主な内容	参集人員
12.12. 5	二戸市 シビックセンター	(1) ほうれんそうの安定性産技術と生産拡大について (2) 花きの品目別技術課題と産地づくりについて	115名
12.12.12	陸前高田市 ふれあいセンター	(1) きゅうり、ピーマン栽培における持続性の高い農業生産方式について (2) 育種価を活用した黒毛和種の改良推進について	103名
13. 1.16	遠野市 遠野森林総合センター	(1) 水田を活用した麦・大豆の生産について (2) 園芸産地の復活に向けての技術的課題 (3) 肉用牛の振興と育種改良に向けて	85名

6 一日子供農業研究員

名 称	開 催 期 日	内 容	参集人員
一日子供農業研究員(第1回) ～夏休み農産物加工体験～	12. 7. 28	小学5年生を対象とした漬け物やボン菓子の研究	21名
一日子供農業研究員(第2回) ～冬休み農産物加工体験～	13. 1. 12	小学5年生を対象としたりんごジュースの研究	25名

7 加工体験

項 目	人 数(件 数)
施設等の見学	3,500人
加工実習	165人 (27件)
特産品試作	249人 (37件)
加工施設設置等相談	72人 (14件)
合 計	3,986人

8 研修生の受入れ

(1) 海外研修員

受入れ部所	氏名	所属	研修目的	期間
<県海外技術研修員>				
畜産研究所	IDA BAGUS PUTU ARTANA	インドネシア DINAS PETERNAKAN 動物病院長	畜産全般	12.10. 2～13. 3.16
企画経営情報部 農業経営研究室	Ir.DK Swasti rahminingsih	インドネシアバリ州農業 部門職員(専門技術員)	農業経営	12.12. 1～13. 3.16
園芸畑作部 野菜畑作研究室	趙 俊	中国山西省農業科学院 蔬菜研究所 助理研究員	野菜栽培	12. 7.26～13. 3.16
畜産研究所	GANESH KUMAR NEUPANE	ネパール CTEV(技術教育 職業訓練協会) 獣医師	畜産全般	12. 7.26～12. 9.29
<JICA 地方枠>				
農産部 生産工学研究室	CICIK Sriyanto	インドネシア農業機械 開発センター 技師	農業機械利用	12. 8.28～12.11.17
農産部 生産工学研究室	RENI Juliana Gultom	インドネシア農業機械 開発センター 技師	農業機械利用	12. 8.28～12.11.17
生産環境部 病害虫研究室	Erlin KURNIATI	インドネシア一般食用作 物生産・管理商工会職員	病害虫防除技術	12. 8.28～12.11.17
生産環境部 病害虫研究室	Susetyohari	インドネシア スラバヤ食 用作物・園芸管理センター 職員	病害虫防除技術	12. 8.28～12.11.17
<JICA 等随時依頼>				
園芸畑作部 蚕桑技術研究室	BASAVARAJAPPA Mallikarjuna	インド繊維省中央養蚕局 技術普及部主任研究官	養蚕普及の進め方等	12. 6.26～12. 7. 5
園芸畑作部 蚕桑技術研究室	Pijush Kanti DAS	インド繊維省中央養蚕局 桑栽培部主任研究官	養蚕普及の進め方等	12. 6.26～12. 7. 5
畜産研究所	Ade Guntara ARDI	インドネシア スメダン県 畜産事務所家畜生産課長	家畜一般飼養管理	12. 9.25～12.10. 5

(2) 短期研修生

受入れ部所	氏名	所属	研修目的	期間
農産部 水田作研究室	高橋 真二 高橋 治彦 小澤 司 佐々木 星	岩手中部農業共済組合 岩手中部農業共済組合 胆江地域農業共済組合 胆江地域農業共済組合	水稻の栽培技術研修	12. 5. 9～11 12. 7.11～13 12. 9.19～21 12.10.10～12 12.11.14～16
園芸畑作部 果樹研究室	昆 聡志 菊地 清志 勝山 光弘 千葉 敦 遠藤 清俊	岩手中部農業共済組合 胆江地域農業共済組合 胆江地域農業共済組合 磐井農業共済組合 岩手県農業共済組合連合 会	果樹の栽培技術研修	12. 5.23～25 12. 9. 5～ 7 12.11. 7～ 9 13. 1.16～18

9 協議会、委員会等委員

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
岩手農林統計協会役員会	理事	所長	岩手統計情報事務所
出願品種現地調査員	調査員	園芸畑作部長	農産園芸局種苗課
東北地域直播推進会議	幹事	農産部長	東北農政局農産普及課
東北地域水稲安定生産推進連絡協議会	委員	農産部長	東北農政局農産普及課
東北地域水稲安定生産推進協議会ワーキンググループ	グループ員	水田作研究室長	東北農政局農産普及課
農林統計協会二戸支部	会員	東北農業研究所次長	岩手農林統計情報事務所 二戸出張所
岩手農林研究協議会（A F R）	副会長 委員 委員 委員 委員 委員 委員	所長 企画経営情報部長 農産部長 園芸畑作部長 生産環境部長 畜産研究所長 東北農業研究所長	岩手大学農学部
岩手農林研究協議会（A F R）幹事会	幹事 幹事	企画経営情報部長 農産部長	岩手大学農学部
東北草地研究会	副会長	飼料生産研究室長	東北大学農学部
東北農業経済学会	理事	農業経営研究室長	東北大学農学部
東北農村生活研究会	理事	農業経営研究室長	東北農業試験場
東北地域総合研究推進委員会	委員	所長	東北農業試験場
東日本受精卵移植技術研究会	理事	家畜工学研究室長	農水省畜産試験場
岩手県研究開発推進連絡会議	委員	所長	情報科学課
岩手県国際協力拠点構想委員会	委員	所長	文化国際課
「県産オリジナル清酒」振興アクションプラン検討委員会	事務局	水稲育種研究室長	商工労働観光部
岩手県特定分野選定委員会	委員	企画経営情報部長	工業振興課
岩手県新事業支援機関等連絡協議会	構成員	所長	工業振興課

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
新しい農業計画策定委員会	委員 幹事	所長 企画情報室長	農政企画課
活力ある我がむらづくりコンクール審査委員会	委員	所長	農政企画課
岩手県バイオテクノロジー研究調整会議	委員	所長	農政企画課
農業振興地域整備促進連絡会議	構成員	所長	地域農業振興課
岩手県特定農山村地域活性化対策連絡協議会	委員 幹事	企画経営情報部長 農業経営研究室長	地域農業振興課
岩手県農業構造改善事業等推進連絡協議会	委員 中央指導班員	企画経営情報部長 農業経営研究室長	地域農業振興課
岩手県農業技術調整連絡会議	委員 部会員	農産部長 水田作研究室長	農業普及技術課
岩手県農業気象協議会	委員 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事	企画経営情報部長 水田作研究室長 果樹研究室長 環境保全研究室長 飼料生産研究室長 やませ利用研究室長	農業普及技術課
岩手県農業気象協議会冷害防止緊急技術会議	構成員	水田作研究室長	農業普及技術課
岩手県農業士選考委員会	委員	所長	農業普及技術課
岩手県農業賞審査委員会	審査委員	所長	農業普及技術課
岩手県農業担い手懇談会調査検討部会	委員	農業経営研究室長	農業普及技術課
高度土づくり技術確立推進協議会	構成員 構成員	土壌作物栄養研究室長 営農技術研究室長	農業普及技術課
農村女性起業評価指標作成委員会	委員	農業経営研究室長	農業普及技術課
土地改良事業営農推進対策委員会	副委員長 中央幹事	所長 生産工学研究室長 土壌作物栄養研究室長 飼料生産研究室長 産地育成研究室長	農村計画課
岩手県農業共済保険審査会	委員	農産部長	農業経済課
岩手県園芸産地づくりコンクール	審査委員長	園芸畑作部長	農産園芸課

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
岩手県花き産地づくりコンクール	審査委員長 審査委員 審査委員 審査委員	園芸畑作部長 農業経営研究室長 花き研究室長 専門技術員	農産園芸課
農作物奨励品種審査委員幹事会	幹事 幹事 幹事 幹事	首席専門技術員 農産部長 園芸畑作部長 県北農業研究所長	農産園芸課
岩手県特産農産物生産振興共進会	審査委員長 審査委員 審査委員 審査委員	園芸畑作部長 農業経営研究室長 野菜畑作研究室長 やませ利用研究室長	農産園芸課
岩手県園芸作物奨励品種審査委員会	委員 幹事 幹事	所長 園芸畑作部長 県北農業研究所次長	農産園芸課
岩手県水田農業推進協議会米麦・大豆等生産流通部会	部会員	水田作研究室長	農産園芸課
岩手県農業機械士認定委員会	委員	農産部長	農産園芸課
岩手県農作業安全対策協議会	委員 委員	副所長 畜産研究所長	農産園芸課
岩手県農作業安全対策協議会	幹事 幹事	生産工学研究室長 飼料生産研究室長	農産園芸課
岩手県農業管理士認定委員会	委員	環境保全研究室長	農産園芸課
岩手県ふるさと食品コンクール	審査員	生産環境部長	農産園芸課
岩手県りんご産地づくりコンクール	審査員長 審査委員 審査委員	園芸畑作部長 農業経営研究室長 果樹研究室長	農産園芸課
いわて純情米推進協議会	幹事	農産部長	農産園芸課
岩手県麦・大豆等産地体制確立推進協議会	委員 委員 委員	園芸畑作部長 首席専門技術員 県北農業研究所長	農産園芸課
同上 麦部会	部会長 構成員	首席専門技術員 園芸畑作部長	
同上 大豆部会	部会長	園芸畑作部長	

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
いわて和牛育種改良推進事業県協議会	委員 委員	家畜育種研究室長 種山畜産研究室長	畜産課
畜産環境整備事業農機具導入委員会	委員	飼料生産研究室長	畜産課
岩手県畜産技術協会	世話人	畜産研究所長	畜産課
家畜改良増殖推進協議会	副委員長 委員	畜産研究所長 畜産研究所次長	畜産課
家畜導入事業資金供給事業県協議会	委員	家畜育種研究室長	畜産課
地ビール推進懇話会	構成委員	所長	農産物流通課
限定純情米販売対策委員会	委員	農産部長	農産物流通課
花の国づくり岩手県協議会	会員 幹事	園芸畑作部長 花き研究室長	農産物流通課
盛岡地域公共牧場再編協議会	理事 幹事	外山畜産研究室長 外山畜産研究室長補佐	盛岡地方振興局農政部
久慈地方農業農村活性化推進協議会	構成員 幹事 園芸部会員	県北農業研究所長 県北農業研究所次長 県北農業研究所次長	久慈地方振興局農政部
馬淵川沿岸土地改良事業検討委員会	委員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	二戸地方振興局農政部
二戸地方農業振興協議会	構成員 幹事 園芸リソ部会幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長 産地育成研究室長	二戸地方振興局農政部
土地改良事業営農対策推進委員会久慈地方幹事会	幹事 幹事	営農技術研究室長 やませ利用研究室長	久慈農業改良普及センター
馬淵川沿岸地区営農改善対策調査委員会	委員	営農技術研究室長	二戸農業改良普及センター
土地改良事業営農対策推進委員会二戸地方幹事会	幹事 幹事	県北農業研究所次長 営農技術研究室長	二戸農業改良普及センター
北上市みどりのまちづくり審査会	審査員	園芸畑作部長	北上市
水沢市農政審議会	委員	銘柄米開発研究室長	水沢市
江刺市新稲作運動推進協議会	理事	銘柄米開発研究室長	江刺市
江刺市農業賞審査委員会	委員	銘柄米開発研究室長	江刺市

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
江刺市農業振興協議会	理事	銘柄米開発研究室長	江刺市
大船渡地方農業振興協議会	構成員	南部園芸研究室長	大船渡市
陸前高田市総合農政推進協議会	構成員	南部園芸研究室長	陸前高田市
国営八戸平原総合農地開発事業軽米地区畑地 かんがい実証展示圃運営委員会	委員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	軽米町
軽米町総合農政推進協議会	委員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	軽米町
軽米町総合開発審議会	委員	県北農業研究所長	軽米町
軽米町新需要穀類種子生産協議会	幹事	やませ利用研究室長	軽米町
玉山村村営牧野運営委員会	委員	外山畜産研究室長	玉山村
玉山村畜産振興協議会	委員	外山畜産研究室長	玉山村
岩手県わさび品評会	審査員	野菜畑作研究室長	宮守村
九戸村農業経営改善センター	委員	県北農業研究所長	九戸村
岩手県施肥合理化協議会	参与 参与	副所長 畜産研究所長	J A 経済連
岩手県施肥合理化協議会	幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事	水田作研究室長 果樹研究室長 野菜畑作研究室長 土壌作物栄養研究室長 飼料生産研究室長 営農技術研究室長	J A 経済連
岩手県乳質改善協議会	委員 酪農経営指導団員	畜産研究所長 家畜飼養研究室長	J A 経済連
いわて純情園芸産地拡大研究会	会員	園芸畑作部長	J A 経済連
いわて純情米体質強化推進協議会	幹事	農産部長	J A 経済連
いわて純情米良質・良食味生産コンクール	審査委員長	農産部長	J A 経済連
酪農経営研究会	審査委員	畜産研究所長	J A 経済連
和牛改良専門委員会	委員	家畜育種研究室長 種山畜産研究室長	J A 経済連

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
J A岩手県教育審議会	委員	所長	岩手県農業協同組合中央会
日本農業賞岩手県代表審査委員	委員長	所長	岩手県農業協同組合中央会
J A岩手県教育審議会	委員	所長	岩手県農業協同組合中央会
岩手県農業共済組合連合会損害評価会 (農作物)	委員	水田作研究室長	N O S A I 岩手
(畑作物)	委員	病害虫研究室長	
(蚕 繭)	委員	野菜畑作研究室長	
(果 樹)	委員	環境保全研究室長	
(園芸施設)	委員	蚕桑技術研究室長	
(任 意)	部会長	果樹研究室長	
	委員	南部園芸研究室長	
	委員	生産工学研究室長	
農業共済地域対応強化対策協議会地域集団引受 推進専門部会	委員	水田作研究室長	N O S A I 岩手
	委員	果樹研究室長	
		病害虫研究室長	
北上市小菊生産振興協議会	構成員 推進専門班構成員	花き研究室長 専門研究員	J A北上市、J A和賀中央、 北上農業改良普及センター
岩手県牛乳普及協会	行事開催実行委員	家畜飼養研究室長	牛乳普及協会
岩手県経営構造対策推進委員会	委員	副所長	岩手県農業会議
岩手県グリーン・ツーリズム推進協議会	幹事	農業経営研究室長	農業会議
岩手県植物防疫協会	運営幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事	生産環境部長 水田作研究室長 果樹研究室長 野菜畑作研究室長 病害虫研究室長 飼料生産研究室長	植物防疫協会
岩手県畜産会	理事幹事 非常勤コンサルタント	畜産研究所長 家畜飼養研究室長 家畜工学研究室長	畜産会
岩手県農産物改良種苗センター種子価格設定 委員会	委員 委員	水田作研究室長 野菜畑作研究室長	農産物改良種苗センター
高性能畜産機械等普及促進協議会	委員	飼料生産研究室長	新農業機械実用促進株
全国和牛登録協会産肉能力検定委員会	参与 参与	畜産研究所長 種山畜産研究室長	全国和牛登録協会

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
全国和牛登録協会県支部評議委員会	委員	畜産研究所長	全国和牛登録協会
東北畜産学会	評議員 評議員	畜産研究所長 畜産研究所次長	東北畜産学会
東北畜産学会学会賞候補者選考委員会	選考委員	畜産研究所長	東北畜産学会
日本植物調節剤研究協会東北支部	委員	水田作研究室長	日本植物調節剤研究協会 東北支部
馬淵川沿岸地区畑地かんがい水質検討委員会	委員	生産環境部長	(社)畑地農業振興会
(財)岩手生物工学研究センター評議員会	評議員	所長	(財)岩手生物工学研究 センター
産学官連携技術開発中央支援事業 「食品の安全な保蔵と流通技術」部会	委員	保鮮流通技術研究室長	(財)食品産業センター
産学官連携技術開発中央支援事業 「専門技術コーディネーター検討委員会」	委員	保鮮流通技術研究室長	(財)食品産業センター

10 外部講師等

研修等名称	内 容	所 属	氏 名
岩手県立農業大学校講師	土壌肥料	生産環境部	小野 剛志 高橋 正樹
	作物保護	生産環境部	後藤 純子 勝部 和則
	家畜飼養管理	畜産研究所	藤原 哲雄 菊池 文也 菊池 雄 大宮 元
	家畜飼養管理	畜産研究所	西田 清
	植物工学実験	農産部	星 伸枝
	生物化学実験	生産環境部	佐藤美佳子
岩手県農業協同組合中央会 平成12年度上級職員研修会	日本経済	企画経営情報部	斉藤 恭
岩手県農業協同組合中央会 平成12年度中堅職員研修会	農業経済	企画経営情報部	細田 耕平
久慈地方農業農村活性化 推進協議会「米・雑穀の 品質向上及び流通研修会」	米の食味と水稻の栽培について	農産部	高橋 政夫
平成12年度落葉果樹農業 研修	特別講義	園芸畑作部	藤根 勝栄
	果樹各論	園芸畑作部	小野田和夫
安代町りんどう巡回指導会	りんどうの栽培管理技術・病害虫対策	園芸畑作部	輪達 公重
シニアワークプログラム 事業第2種緑化管理講習会	野菜・花きの栽培管理全般	園芸畑作部	菅原 和仁
そば栽培技術研修会	そばの栽培技術	園芸畑作部	作山 一夫
	そば生産の機械化体系	県北農業研究所	大里 達朗
平成12年度営農大学講座・ 新規就農者研修第3回集合 研修	環境問題と農業	生産環境部	諏訪 正義
大東町いきいきミセス講座	環境保全型農業	生産環境部	築地 邦晃
農産物加工指導	トマトジュース製造加工	生産環境部	平瀬 英利

研修等名称	内 容	所 属	氏 名
北陸地域畜産キーテクノロ ジー検討会	搾乳ロボットの稼働実績	畜産研究所	清宮 幸男
平成12年度基幹家畜保健 衛生所業務連絡会議	搾乳ロボットの稼働実績	畜産研究所	清宮 幸男
家畜商講習会	搾乳ロボットの稼働実績	畜産研究所	清宮 幸男
東北農業試験研究推進会議 畜産研究会	岩手県における家畜ゲノム解析の現状と課題	畜産研究所	鈴木 暁之
JA新しいわて東部地域和牛 生産部会玉山中央支部総会	本県における黒毛和種改良事業と新規検定済 種雄牛	畜産研究所	大宮 元
玉山村立藪川中学校総合 学習	外山畜産研究所の歴史と研究内容	畜産研究所	及川 稜郎
家畜商講習会	家畜の特徴の取り方	畜産研究所	及川 稜郎
	家畜の悪癖	畜産研究所	菊池 正
軽米町晴高小学校内農業 技術研修会	農作物の栽培と農業について	県北農業研究所	遠藤 征彦
クッキングトマト栽培講習 会	商品質安定性産技術	県北農業研究所	菅原 英範
岩手県JA営農指導士養成 講習	農業経済	企画経営情報部	斉藤 恭
	農業経営	企画経営情報部	細田 耕平
	環境保全型農業概論	生産環境部	諏訪 正義 築地 邦晃 小野 剛志
	作物害虫防除論	生産環境部	後藤 純子
	家畜育種論	畜産研究所	太田原健二
	家畜飼養論	畜産研究所	清宮 幸男
西根町認定農業者協議会 部門研修	稲作部門	農産部 園芸畑作部 生産環境部	高橋 政夫 沼田 聡 後藤 純子
	野菜部門	生産環境部	勝部 和則

研修等名称	内 容	所 属	氏 名
西根町認定農業者協議会 部門研修	花き部門	園芸畑作部 生産環境部	阿部 潤 輪達 公重 千葉 行雄
	畜産部門	企画経営情報部 畜産研究所	中森 忠義 菊池 文也 川畑 茂樹他
ホームページ作成研修 (遠野地方振興局)	ホームページを活用した農業情報提供事例	企画経営情報部	伊勢 智宏
えこ3ぶらんセンター計画 部会検討会(紫波町)	堆きゅう肥利用に関する耕種農家の意向と 流通促進対策	企画経営情報部	中森 忠義
コメの食味成分分析研修	アイガモ農法米の成分分析計、味度計での測定 方法の指導	農産部	畠山 均
先端的農業技術研修	岩手県におけるバイテク研究	農産部	仲谷 房治
農業機械士養成研修	農業機械導入計画、他	農産部	鶴田 正明 小野寺忠夫 伊藤 勝浩
農業土木連盟研修会	研究成果報告	農産部	小野寺忠夫 小野寺健一
岩手県果樹協会冬期講習会	りんご栽培の展望	園芸畑作部	藤根 勝栄
東磐井地方果樹生産振興 大会	りんご栽培の将来像	園芸畑作部	藤根 勝栄
日本植物防疫協会研究会	21世紀の農業散布技術の展望	園芸畑作部	藤根 勝栄
大迫町ぶどう栽培50周年	ぶどう栽培の展望	園芸畑作部	藤根 勝栄
農林水産省落葉果樹研修所 ブドウ特別講義	ブドウ栽培	園芸畑作部	小野田和夫
農林水産省落葉果樹研修所 冬期短期研修	りんご低樹高仕立て	園芸畑作部	小野田和夫
盛岡地域りんご冬期研修会	りんご栽培技術	園芸畑作部	佐々木 仁
遠野・宮守地区転作大豆 技術向上研修	排水、雑草、作期	園芸畑作部	沼田 聡
飼料用大麦の栽培技術講習 会	品種、肥培管理	園芸畑作部	高橋 昭喜

研修等名称	内 容	所 属	氏 名
麦、大豆団地化推進研究 交流集会	小麦大規模栽培の要点	園芸畑作部	高橋 昭喜
営農大学講座新規就農者 研修第7回集合研修	花きの試験研究について	園芸畑作部	児玉 勝雄
第32回食とみどり、水を 守る全国集会	花き（りんどう）の育種について	園芸畑作部	児玉 勝雄
西和賀ゆり栽培検討会	オリエンタル系ゆりの栽培技術	園芸畑作部	阿部 潤
岩手県中央農協紫波地域 営農センター ゆり研修会	オリエンタル系ゆりの栽培技術	園芸畑作部	阿部 潤
農業経営者セミナー	花き栽培技術全般の助言	園芸畑作部	阿部 潤
第2回農業者研修	小ぎくの栽培管理と新技術	園芸畑作部	渡辺 愛美
岩手県農業管理指導士養成 研修	農薬一般	生産環境部	築地 邦晃
	病害虫防除各論	生産環境部	後藤 純子 猫塚 修一
病害虫防除実績検討会 （果樹）	防除基準変更点の説明	生産環境部	藤沢 巧 猫塚 修一
家畜臨床繁殖学実習（岩手 大学農学部獣医学科）	豚の人工授精について	畜産研究所	菊地 清彦
家畜人工授精講習会	家畜の育種	畜産研究所	藤原 哲雄
	家畜の飼養管理（実習）	畜産研究所	清宮 幸男
	家畜の飼養管理（実習）	畜産研究所	西田 清
	家畜の審査（肉牛）	畜産研究所	西田 清
	家畜の栄養	畜産研究所	山口 直己
	人工授精（注入）	畜産研究所	野口 龍生
	人工授精（注入実習）	畜産研究所	野口 龍生 千葉 伸
	発情鑑定	畜産研究所	野口 龍生
	種付けの理論	畜産研究所	小梨 茂
	精子生理	畜産研究所	大宮 元

研修等名称	内 容	所 属	氏 名
超音波生体肉質診断装置の 画像診断研修	肥育牛の肉質診断	畜産研究所	西田 清
養豚経営安定講習会	S P F 豚について	畜産研究所	藤原 哲雄
畜産関係一般職員研修会	搾乳ロボットの稼働実績 (開発から実用段階へ)	畜産研究所	清宮 幸男
畜産新技術セミナー	畜産におけるクローン技術	畜産研究所	野口 龍生
畜産新技術実技研修会	D N A 解析と新しい和牛改良技術	畜産研究所	鈴木 暁之
家畜排せつ物処理講習会	家畜排せつ物処理・施設導入のポイント	畜産研究所	佐藤 直人
放牧衛生事業検討会 (水沢家畜保健衛生所)	黒毛和種の放牧管理	畜産研究所	小梨 茂
江刺家畜改良増殖会研修会	種雄牛の造成の現状	畜産研究所	小田中誠彰
胆江牛肥育部会研修会	東日本和牛能力共進会肉牛の部 成績検討会	畜産研究所	大宮 元
黒毛和種の改良(JA花巻)	改良事業の概要	畜産研究所	大宮 元 小田中誠彰
軽米地区花き定期講座	宿根草・花木の栽培法	県北農業研究所	佐藤 正昭
花き生産者の集い	花壇苗の生産技術	県北農業研究所	富田 典子
花きセンター第5回農業者 研修	花木類の消費状況と栽培技術	県北農業研究所	佐藤 正昭
工業技術連絡会議物質工学 連合部会第38回高分子分科 会	岩手県における生分解性マルチフィルムの農 業分野での取組み事例	県北農業研究所	和野 重美
農業用廃プラスチック適正 処理研修会	岩手県における生分解性マルチフィルムの農 業分野での取組み事例	県北農業研究所	和野 重美

VI 職員研修

1 大学院派遣研修

区 分	所属部所	職・氏名	研 修 内 容	派 遣 期 間
岩手大学大学院連合農学研究科	農産部	主任専門研究員 小田中 浩哉	水稻オリジナル新品種開発のための種子貯蔵タンパク質の質的・量的改良に関する研究	H 8 ~ H12
岩手大学大学院連合農学研究科	農産部	主任専門研究員 佐々木 力	水稻の刈取適期幅の拡大および貯蔵性の改良に関する遺伝・育種学的研究	H10 ~ H12
岩手大学大学院連合農学研究科	企画経営情報部	専門研究員 村上 和史	基盤整備事業地区における水田作経営体の成長過程	H11 ~ H13

2 海外研修

区 分	所属部所	職・氏名	研 修 内 容	派 遣 期 間
海外派遣研修	企画経営情報部	主任専門研究員 佐藤 嘉彦	オーストラリアにおけるパーマカルチャーの実践状況調査と本県への適応可能性調査	12.12.19 ~13. 3.19
研究員海外派遣	企画経営情報部	主任専門研究員 及川 浩一	豪州における牛肉の生産体制、格付制度及びマーケティング戦略に関する調査	13. 1.28 ~13. 2.11
	畜産研究所	主任専門研究員 鈴木 暁之	家畜改良のためのDNA解析関連研究シリーズ調査	12. 7.21 ~12. 7.30

3 国内研修への派遣

区 分	所属部所	職・氏名	研 修 内 容	派 遣 期 間
農林水産省依頼研究員研修	企画経営情報部	主任専門研究員 中森 忠義	酪農経営における搾乳ロボットの経営・経済評価及び導入条件・投資限界額の検討	12. 7. 1 ~ 9.30
	園芸畑作部	主任専門研究員 有馬 宏	養液土耕栽培の基本整理及び低コスト化技術の修得	12.10. 1 ~ 12.28
	生産環境部	専門研究員 高橋 正樹	誘導結合プラズマ分析装置(ICP)を用いた土壌及び植物体における多様要素の動態解析	12. 7. 1 ~ 9.30
	畜産研究所	専門研究員 遠藤 明人	黒毛和種における産肉能力の遺伝的特徴把握と効率的選抜方法の検討	12. 5.11 ~ 8.11
	東北農業研究所	主任専門研究員 和野 重美	やませ気象等の微気象が作物生理に与える影響に関する調査手法の習得	12. 6. 1 ~ 8.31

4 所内セミナー等の開催

名 称	開催期日	内 容	参集人員
〔本 部〕 公開セミナー	12. 4.21	「遺伝子組換え食品をめぐる最近の動向と課題」 日野 明寛（食品総合研究所 分子機能開発研究室長）	130 名
技術セミナー	12. 9. 1	「もうかる直売のポイント“ラッピングでグレードアップ”」 阿部 亮（（株）川徳） 木村 昭仁（生花店「緑の風」）	95 名
公開セミナー	13. 3.13	「試験研究成果のデータベース化と情報提供」 田中 忠一（農林水産省東北農業試験場 企画情報室情報資料課 司書専門官）	42 名
〔畜産研究所〕 公開セミナー	12. 8.25	「ウシゲノム解析とこれからの畜産」 杉本 喜慶（畜産技術協会 附属動物遺伝研究所）	70 名
〔県北農業研究所〕 公開セミナー	12. 9. 9	現地試験等巡回研修 小浜 恵子（岩手県工業技術センター 主任専門研究員）	34 名

VII 人事、予算、財産

1 岩手県農業研究センター予算（2月補正現計）

（単位：千円）

区 分	予 算 額
（農業振興費）	
人件費（本部・県北）	1,090,592
庁舎管理費（本部）	164,601
ほ場管理費（本部）	61,638
繭品質評価業務費	12,556
庁舎管理費（県北）	35,878
ほ場管理費（県北）	6,031
南部園芸研究室施設整備費	393,829
試験研究費	137,411
（1）特定研究開発等促進事業	59,600
（2）地域先端技術等研究開発促進事業	15,900
（3）植物防疫研究費	20,286
（4）土壌対策研究費	9,024
（5）農業関係試験研究委託事業	11,998
（6）民間委託試験研究費	20,603
高生産性農業新技術開発促進事業	61,143
（1）基盤的・先導的農業技術開発研究事業	21,419
（2）バイオテクノロジー実用化事業	12,506
（3）先端の農業技術実用化研究事業	15,283
（4）中山間地域活性化戦略研究事業	1,550
（5）農業新技術緊急開発実用化推進研究事業	4,146
（6）農業新技術現地実用化開発・実証研究事業	6,239
令達事業（本部）	147,394
令達事業（県北）	25,044
合 計	2,136,117
（畜産業費）	
人件費（畜産）	549,874
庁舎管理費	55,723
飼育管理費	97,833
種山畜産研究室管理費	101,687
外山畜産研究室隔障物整備事業	10,395
試験研究費	28,695
（1）特定研究開発促進事業	22,400
（2）地域先端技術共同研究開発促進事業	3,000
（3）農業関係試験研究委託事業	3,295
高生産性畜産新技術開発促進研究費	19,000
（1）基盤的・先導的畜産技術開発研究事業	11,273
（2）バイオテクノロジー実用化研究事業	2,804
（3）先進的畜産技術実用化研究事業	4,086
（4）畜産新技術現地実用化・実証研究事業	837
令達事業	146,542
合 計	1,009,749
全 体 計	3,145,866

2 建物、用地 (H12.4.1)

	用 地 (ha)							建 物 (m ²)		
	耕 地					林 野 等	施 設 用 地	総 面 積	棟 数	延 面 積
	水 田	畑	樹 園 地	採 草 放 牧 地	小 計					
本 部	30.2	20.3	21.3		71.8		39.5	111.3	69	24,546
北 上	25.8	18.0	21.3		65.1		36.2	101.3	31	18,809
主な施設面積(内数)										
管理棟										2,911
実験研究棟										5,057
作物調査実験棟										716
育苗ガラス温室										992
穀物乾燥原種調整調査棟										860
園芸作物調査棟										716
生産環境調査棟										608
銘柄米開発研究室	4.4	0.7			5.1		2.2	7.3	26	4,805
南部園芸研究室		1.6			1.6		1.1	2.7	12	932
県北農業研究所	1.0	10.7	0.3		12.0		8.2	20.2	16	6,746
畜産研究所		159.2		1,670.8	1,830.0	526.2	37.8	2,394.0	156	39,227
滝 沢		67.7		23.1	90.8	41.2	32.9	164.9	98	24,963
外山畜産研究室		5.8		1,470.7	1,476.5	241.3	4.5	1,722.3	35	5,972
種山畜産研究室		85.7		177.0	262.7	243.7	0.4	506.8	23	8,292
合 計	31.2	190.2	21.6	1,670.8	1,913.8	526.2	85.5	2,525.5	241	70,519

3 種苗登録、特許等

(1) 種苗登録

種 類	登録(出願)品種の名称	登 録 番 号	登 録 年 月 日
りんどう	いわて乙女	第 544 号	S59. 3.19
りんどう	ジョバンニ	第 1,101 号	S61. 8. 8
りんどう	イーハトーヴォ	第 1,100 号	S61. 8. 8
大豆	緑良	第 2,517 号	H 2.12. 5
大豆	緑翠	第 2,516 号	H 2.12. 5
りんどう	アルピレオ	第 2,553 号	H 2.12. 5
りんどう	マシリイ	第 3,073 号	H 4. 2.29
りんどう	ホモイ	第 3,074 号	H 4. 2.29
ぶどう	エーデルアーリー	第 3,404 号	H 5. 3.10
りんご	きおう	第 3,947 号	H 6. 3.14
りんどう	アルタ	第 4,085 号	H 6. 8.22
稲	かけはし	第 4,410 号	H 7. 3.23
稲	ゆめさんさ	第 4,411 号	H 7. 3.23
りんどう	ポラーノ ホワイト	第 4,999 号	H 8. 3.18
りんどう	あおこりん	第 7,713 号	H12. 2.22
りんどう	ももこりん	第 7,714 号	H12. 2.22
りんどう	ポラーノ ブルー	第 7,715 号	H12. 2.22
大豆	星めぐり	第 7,756 号	H12. 2.22
稲	吟ぎんが	出願番号第 11,863 号	出願 (H11. 6.30)
スターチス	アイスター モーブ	出願番号第 11,900 号	出願 (H11. 7.23)
スターチス	アイスター ラベンダー	出願番号第 11,901 号	出願 (H11. 7.23)
スターチス	アイスター ライラックブルー	出願番号第 11,902 号	出願 (H11. 7.23)
スターチス	アイスター ローズーピンク	出願番号第 11,903 号	出願 (H11. 7.23)
スターチス	アイスター ライラック	出願番号第 11,904 号	出願 (H11. 7.23)
稲	ぎんおとめ	出願番号第 12,431 号	出願 (H12. 3.14)
大豆	ちゃげ丸	出願番号第 12,717 号	出願 (H12. 8.24)
大豆	ぷっくらこ	出願番号第 12,718 号	出願 (H12. 8.24)

(2) 特許、実用新案

名 称	出願番号・年月日	登録番号・年月日
米を原料とした飲料の製造方法	2- 71571(H 2. 3.19)	1990534(H7.11.8)
牧草種子の播種方法及び牧草種子の散布用の複合肥料ペレット	9-344679(H 9. 4. 9)	(出願中)
マクロシードペレットの散布装置	9-106758(H 9. 4. 9)	(出願中)
遺伝子組み替えりんご及びその作出法	11- 83985(H11. 3.26)	(出願中)

4 表彰

表彰内容(表彰団体)	表彰の対象者(組織)	表彰の対象となった研究成果等	年月日
研究功労賞(全国蚕系関係試験研究運営協議会)	園芸畑作部 蚕桑技術研究室長 橋本 進	蚕桑技術の改良発達に対する貢献	12. 4.26
藤原彰夫研究奨励賞(東北土壤肥料協議会)	東北農業研究所 主任専門研究員 高橋 好範	畜産由来肥料データベースの作成と環境に配慮した利用法	12. 8. 8
園芸学会東北支部賞:普及部門賞(園芸学会東北支部)	専門技術員室 上席専門技術員 笹田 昭市	「江刺りんご」産地確立	12. 8.23
東北農業経済学会奨励賞(東北農業経済学会)	企画経営情報部 主任専門研究員 及川 浩一	農業経営設計システム「クーボー博士」	12.10. 7
県事績県著者表彰(岩手県)	農産部 水田作研究室 水稲育種研究室 銘柄米開発研究室 工業技術センター 醸造技術部	オリジナル酒造好適米水稲品種「吟ぎんが」の開発	12.10.30
植物防疫事業 50 周年記念表彰(植物防疫事業 50 周年記念事業会)	東北農業研究所 やませ利用研究室長 飯村 茂之	水稲の防疫業務に係る功績	12.11.30
県農政部長表彰(岩手県)	畜産研究所 主任専門研究員 鈴木 暁之	DNA マーカーによる牛筋肉肥大原因遺伝子の判定に関する研究	12.12.26

5 職員名簿（平成12年4月1日現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
所 長	荻原 武雄	専門技術員室	
副所長	阿部 隆	首席専門技術員	櫻井 一男
総務部		上席専門技術員	高橋 典子
部 長	三浦 啓一	上席専門技術員	橋本 信一
総務課長	金崎 義久	上席専門技術員	藤原 りつ
副主任兼課長補佐	山口 孝志	上席専門技術員	小笠原義明
主 事	高橋 右子	上席専門技術員	笹田 昭市
主 事	横澤 嘉宗	上席専門技術員	及川 一也
主 事	麥沢 秋文	上席専門技術員	三浦 正弘
管理課長	小笠原 勉	専門技術員	工藤 英夫
副主任兼課長補佐	佐藤 英輔	専門技術員	高橋 英明
主 任	浅沼 卓雄	専門技術員	高橋 晋
主 事	菊地 由樹		鈴木 良則
運転技士兼技能員	中畠 秋人	農産部	
主任技能員兼運転技士	浅沼 達也	部 長	中館 隆三
技能員	菅野 輝彦	水田作研究室長	高橋 政夫
技能員兼運転技士	佐藤 広昭	主任専門研究員	小野寺郁夫
技能員	西野 哲仁	専門研究員	吉田 宏
技能員	小黒沢清人	専門研究員	工藤 佳徳
技能員	猪沢 哲哉	専門研究員	長谷川義孝
企画経営情報部		技 師	白井 智彦
部 長	駒米 勉	水稻育種研究室長	畠山 均
企画情報室長	川村 祥正	主任専門研究員	佐々木 力
上席専門研究員	吉田 力	専門研究員	仲條 眞介
主 任	葛尾 淳哉	専門研究員	高橋 真博
主任専門研究員	町屋 宜亨	専門研究員	田村 和彦
主任専門研究員	伊勢 智宏	応用生物学研究室長	仲谷 房治
専門研究員	稲田 聖児	専門研究員	阿部 弘
農業経営研究室長	斉藤 恭	専門研究員	星 伸枝
主任専門研究員	細田 耕平	生産工学研究室長	鶴田 正明
主任専門研究員	菅原 豊司	主任専門研究員	小野寺忠夫
主任専門研究員	及川 浩一	主任専門研究員	伊藤 勝浩
主任専門研究員	中森 忠義	主任専門研究員	八重樫耕一
主任専門研究員	佐藤 嘉彦	専門研究員	小野寺健一
主任専門研究員	村上 和史	銘柄米開発研究室長	神山 芳典
		主任専門研究員	小田中浩哉
		専門研究員	荻内 謙吾
		専門研究員	尾形 茂
		主任技能員	駒場正一郎
		技能員	菊地 徳章

職 名	氏 名	職 名	氏 名
園芸畑作部		首席専門研究員兼病虫害研究室長	穴戸 貢
部 長	藤根 勝栄	主任専門研究員	藤沢 巧
果樹研究室長	小野田和夫	主任専門研究員	後藤 純子
上席専門研究員	佐々木 仁	主任専門研究員	勝部 和則
主任専門研究員	鈴木 哲	専門研究員	川村 亮二
専門研究員	石川 勝規	専門研究員	猫塚 修一
専門研究員	佐藤 秀継	技 師	福士 敬子
技 師	河田 道子	保鮮流通研究室長	千葉 行雄
野菜畑作研究室長	作山 一夫	専門研究員	菊地 淑子
主任専門研究員	沼田 聡	専門研究員	平淵 英利
主任専門研究員	高橋 昭喜	専門研究員	佐藤美佳子
主任専門研究員	有馬 宏		
専門研究員	山田 修	畜産研究所	
専門研究員	高橋 拓也	所 長	菊地 清彦
花き研究室長	児玉 勝雄	次 長	小野寺 勉
上席専門研究員	阿部 潤	主幹兼総務課長	及川 邦雄
主任専門研究員	輪達 公重	副主幹兼課長補佐	佐藤 亨
専門研究員	内藤 善美	主 任	千葉多香子
技 師	渡辺 愛美	主 事	福士 成幸
蚕桑技術研究室長	橋元 進	運転技士兼技能員	中村 長三
上席専門研究員	佐藤 新平	運転技師兼技能員	吉田 正弘
主任専門研究員	阿部 信治	主任技能員	伊藤 仁吉
上席専門研究員兼繭品質評価主任	土佐 明夫	主任技能員	佐々木紀好
上席専門研究員	境田謙一郎	主任技能員	室坂 公榮
ポイラー技士	高橋 守	主任技能員	小笠原幸一郎
主任技能員	柏葉 妙子	主任技能員	関村 武志
主任技能員	小原 早苗	主任技能員	岩崎 春見
主任技能員	川村美知子	主任技能員	石川 勝美
南部園芸研究室長	菅原 和仁	技能員	米沢 健治
主任専門研究員	佐藤 成利	技能員	三上 宏
専門研究員	土田 泰輔	技能員	小林 雄二
		技能員	右京 隆二
		技能員	荒木田俊一
		技能員	竹田 政則
生産環境部		技能員	上野 由克
部 長	佐々木忠勝	技能員	中村 健
環境保全研究室長	諏訪 正義	技能員	菅原 薫
上席専門研究員	築地 邦晃	技能員	永洞 俊司
主任専門研究員	伊藤 美穂	技能員	水澤 博征
専門研究員	高城 保志	技能員	細野 貴樹
専門研究員	池田 昌晃	技能員	鷺見 義信
土壌作物栄養研究室長	小野 剛志	技能員	鳴海 茂揮
主任専門研究員	佐藤 喬	技能員	上澤 賢輝
専門研究員	高橋 正樹	技能員	谷地 館 透
専門研究員	高橋 良学	技能員	
技 師	小田島ルミ子	技能員	

職 名	氏 名	職 名	氏 名
畜産研究所		県北農業研究所	
家畜育種研究室長	小松 繁樹	所 長	高橋 康利
上席専門研究員	干場 宏樹	首席専門研究員兼次長	遠藤 征彦
主任専門研究員	藤原 哲雄	総務課長	菊池 正隆
専門研究員	西田 清	主 事	軍司 国博
専門研究員	太田原健二	運転技士兼技能員	小滝 一男
専門研究員	吉田 登	運転技士兼技能員	日山千代司
家畜飼養研究室長	菊池 文也	技能員	清水 賢一
上席専門研究員	清宮 幸男	営農技術研究室長	新田 政司
専門研究員	岡田 利之	主任専門研究員	高橋 好範
専門研究員	山口 直己	主任専門研究員	大里 達朗
専門研究員	濱戸もえぎ	主任専門研究員	大友 令史
主席専門研究員兼家畜工学研究室長	田中 修一	産地育成研究室長	茂市 修平
主任専門研究員	千葉 伸	主任専門研究員	佐藤 正昭
主任専門研究員	鈴木 暁之	主任専門研究員	菅原 英範
専門研究員	野口 龍生	技 師	富田 典子
飼料生産研究室長	川畑 茂樹	技 師	根田美和子
上席専門研究員	齋藤 節男	やませ利用研究室長	飯村 茂之
主任専門研究員	佐藤 直人	主任専門研究員	和野 重美
専門研究員	三浦賢一郎	専門研究員	長谷川 聡
(畜産課勤務)	笹村 正	技 師	寺田 道一
外山畜産研究室長	及川 稜郎	上席専門技術員	菊池 利行
上席専門研究員兼室長補佐	菊池 正	専門技術員	本田 純悦
主任専門研究員	村上 勝郎		
専門研究員	増田 隆晴		
専門研究員	小梨 茂		
技 師	伊藤 孝浩		
主任技能員	藤原 昭義		
主任技能員	中村 長悦		
主任技能員	藤原 時夫		
技能員	工藤 明彦		
技能員	畠山 博文		
種山畜産研究室長	高橋 達典		
上席専門研究員兼室長補佐	菊池 雄		
主 任	菊池 馨行		
主任専門研究員	小田中誠彰		
主任専門研究員	大宮 元		
専門研究員	大和 貢		
専門研究員	遠藤 明人		
主任技能員	菊池 敬郎		
主任技能員	斎藤 和一		
技能員	佐藤 洋貴		
技能員	松本 徹		
技能員	後藤 克明		

沿革

- 明治 31 年 種馬厩を盛岡市に設置。
- 明治 34 年 農事試験場（3 部制：庶務・種芸・分析）を本宮村向中野（現盛岡市）に設置。
種馬厩を種畜場と改称。
- 明治 35 年 種畜場を盛岡市から滝沢村に移転。
- 明治 36 年 農事試験場に園芸部（4 部制）を新設。
- 大正 2 年 原蚕種製造所を胆沢郡水沢町（現水沢市）に設置。
- 大正 8 年 農事試験場胆江分場を江刺郡愛宕村（現江刺市）に設置。
- 大正 11 年 現蚕種製造所を蚕業試験場（4 係制：庶務・蚕種・試験・桑園）と改称。
- 大正 12 年 農事試験場に病虫部（5 部制）を新設。
外山御料牧場を種畜場に移管し、種畜場本場を玉山村に移転（滝沢は支場となる）。
- 昭和 2 年 種鶏場を岩手郡巻掘村（現玉山村）に設置。
- 昭和 5 年 農事試験場軽米農場を九戸郡軽米町に設置。
蚕業試験場一戸桑園を二戸郡一戸町に設置。
- 昭和 10 年 農事試験場遠野試験地を上閉伊郡松崎（現遠野市）に設置。
- 昭和 12 年 種畜場本場を滝沢村に移転。玉山は外山支場となる。
蚕業試験場六原桑樹試験地を金ヶ崎町に設置。
- 昭和 13 年 蚕業試験場一戸桑園を一戸支場と改称。
- 昭和 15 年 農事試験場軽米農場を九戸分場と改称。
- 昭和 21 年 農事試験場高冷地試験地を二戸郡小鳥谷村（現一戸町）に設置。
- 昭和 22 年 農事試験場遠野試験地が国営に移管。
- 昭和 23 年 種鶏場を紫波郡日詰町（現紫波町）に移転。
- 昭和 25 年 農事試験場を農業試験場（4 部制：総務・営農・農産・畜産）と改称。
農業試験場畜産部を種畜場と併設。
農業試験場葡萄試験地を稗貫郡大迫町に設置。
農業試験場沿岸作物試験地を九戸郡長内村（現久慈市）、下閉伊郡豊間根村（現山田町）及び気仙郡小友村（現陸前高田市）に委託設置。
- 昭和 26 年 農業試験場南部試験地を気仙郡米崎村（現陸前高田市）に設置。
農業試験場に遠野試験地が国から移管。
農業試験場に農業経営研究部門設置。
工芸作物原種農場を雫石町に設置。
- 昭和 28 年 蚕業試験場を水沢市柳馬場に移転。
- 昭和 30 年 農業試験場本場機構改革（8 部制：庶務・種芸・化学・園芸・病虫・経営・農機具・畜産）、
蚕業試験場機構改革（4 部制：庶務・栽桑・養蚕・病理化学）。
- 昭和 32 年 蚕業試験場一戸支場を一戸分場と改称。
- 昭和 36 年 蚕業試験場一戸分場を二戸郡一戸町上野に新築移転。
- 昭和 37 年 農業試験場の園芸部、南部試験地及びぶどう試験地を分離して園芸試験場（3 部制：庶務・果樹・
蔬菜花卉）を北上市に設置。南部試験地及びぶどう試験地をそれぞれ、南部分場、大迫圃場と改称。
農業試験場胆江分場及び九戸分場をそれぞれ、県南分場、県北分場と改称。
種畜場に種鶏場及び農業試験場畜産部を併合して畜産試験場を滝沢村に設置。
農業試験場遠野試験地及び沿岸試験地を廃止。
工芸作物原種農場を農業試験場に統合し、原種部を設置。
- 昭和 38 年 農業試験場本場を盛岡市から滝沢村へ移転。
- 昭和 39 年 畜産試験場外山支場を外山試験地と改称。
- 昭和 41 年 農業試験場本場機構改革（4 部制：庶務 2 係・技術・環境・経営）
- 昭和 44 年 園芸試験場蔬菜花卉部を野菜花き部に改称。
- 昭和 46 年 農業試験場本場機構改革（科制導入。技術部：水田作科・畑作科・作業技術科、環境部：施肥改善科・
土壌改良科・病害虫科、経営部：経営科・流通経済科）。
農業試験場県南分場及び県北分場に分場次長を設置。
農業試験場高冷地試験地を園芸試験場へ移管し、高冷地分場となる。
園芸試験場に環境部を設置。

- 昭和 46 年 園芸試験場大迫圃場を大迫試験地と改称。
畜産試験場外山試験地を外山分場と改称。
- 昭和 48 年 蚕業試験場六原桑樹試験地を六原試験地と改称。
- 昭和 51 年 農業試験場作業機械科を農業機械科に改称。
- 昭和 53 年 蚕業試験場六原試験地を廃止。
蚕業試験場養蚕部、病理科学部をそれぞれ養蚕経営部、環境部に改称。
- 昭和 56 年 園芸試験場高冷地分場を高冷地開発センターに改称。
- 昭和 57 年 蚕業試験場整備計画実施（～昭和 58 年）。
- 平成 3 年 農業試験場に水稻育種科を設置。
- 平成 8 年 畜産試験場種山肉用牛改良センターを住田町に設置。
- 平成 9 年 農業試験場、蚕業試験場、園芸試験場及び畜産試験場を農業研究センターに再編整備。
農業試験場本場、園芸試験場本場、同大迫試験地及び蚕業試験場本場を統合し、北上市にセンター本部を設置。
農業試験場県南分場及び園芸試験場南部分場をそれぞれ銘柄米開発研究室、南部園芸研究室と改称。
農業試験場県北分場、園芸試験場高冷地開発センター及び蚕業試験場一戸分場を統合し、軽米町に県北農業研究所を設置。
畜産試験場を畜産研究所に改組。
畜産試験場外山分場及び種山肉用牛改良センターをそれぞれ外山畜産研究室、種山畜産研究室に改称。
県北農業研究所に専門技術員を配置。
- 平成 10 年 園芸畑作部蚕桑技術研究室繭品質評価分室を盛岡市に設置（繭検定所を廃止）。
センター本部に専門技術員を配置。
- 平成 11 年 企画経営情報部マーケティング研究室を農業経営研究室に統合。

< 所 在 >

(本部)	〒024-0003	岩手県北上市成田 20-1 Tel. 0197-68-2331 FAX. 0197-68-2361 ホームページ http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/
畜産研究所	〒020-0173	岩手県岩手郡滝沢村字砂込 737-1 Tel. 019-688-4326 FAX. 019-688-4327
県北農業研究所	〒028-6222	岩手県九戸郡軽米町大字山内 23-9-1 Tel. 0195-47-1070 FAX. 0195-49-3011
(農産部) 銘柄米開発研究室	〒023-1131	岩手県江刺市愛宕字八日市 69-4 Tel. 0197-35-1411 FAX. 0197-35-1617
(園芸畑作部) 南部園芸研究室	〒029-2205	岩手県陸前高田市高田町字大隅 8-9 Tel. 0192-55-3733 FAX. 0192-55-3733
	〒020-0865	岩手県盛岡市本宮 2-10-1 Tel. 019-636-1528 FAX. 019-635-0173
(畜産研究所) 外山畜産研究室	〒028-2711	岩手県岩手郡玉山村藪川字大の平 40 Tel. 019-681-5011 FAX. 019-681-5012
(畜産研究所) 種山畜産研究室	〒029-2311	岩手県気仙郡住田町世田米字飼沢 30 Tel. 0197-38-2312 FAX. 0197-38-2177